

ユーザーズマニュアル

オフィスシリーズ Type-MB/MC • User's Manual

オフィスシリーズ Type-MB/MC

本機を使用開始するまでの手順を説明しています。

必ずお読みください。

標準装備されている装置や機能と、

取り付け可能な装置について説明しています。

添付されているソフトウェアの使用方法や

インストール方法について説明しています。



ご使用の前に

ご使用の際は、必ず「マニュアル」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
「マニュアル」は、不明な点をいつでも解決できるように、すぐに取り出して見られる場所に保管してください。

安全にお使いいただくために

このマニュアルおよび製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために絵表示が使われています。

その表示と意味は次のとおりです。内容をよく理解してから本文をお読みください。

 **警告** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

 **注意** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

警告

煙が出たり、変な臭いや音がするなど異常状態のまま使用しないでください。

感電・火災の原因となります。

すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談ください。

お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。



マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。

けがや感電・火災の原因となります。



電源は、交流 100V 以外では使用しないでください。

指定外の電源を使うと、感電・火災の原因となります。



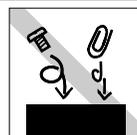
ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。

感電の原因となります。



通風孔など開口部から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落としたりしないでください。

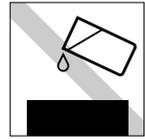
感電・火災の原因となります。



警告

異物や水などの液体が内部に入った場合は、そのまま使用しないでください。
感電・火災の原因となります。

すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談ください。

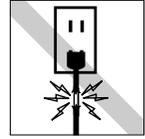


破損した電源コードを使用しないでください。感電・火災の原因となります。

電源コードを取り扱う際は、次の点を守ってください。

- ・電源コードを加工しない。
- ・無理に曲げたり、ねじったり、引っばったりしない。
- ・電源コードの上に重いものを載せない。
- ・熱器具の近くに配線しない。

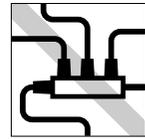
電源コードが破損したら、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談ください。



電源コードのたこ足配線はしないでください。

発熱し、火災の原因となります。

家庭用電源コンセント(交流100V)から電源を直接取ってください。



電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。

取り扱いを誤ると、火災の原因となります。

- ・電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。
- ・電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
- ・電源プラグを長期間コンセントに差したままにしない。

電源プラグは、定期的にコンセントから抜いて、刃の根元や刃と刃の間を清掃してください。



電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。

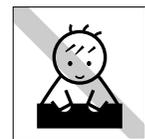
感電・火傷の原因となります。



小さなお子様の手が届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。

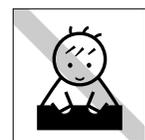
飲み込むと化学物質による被害の原因となります。

万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。



小さなお子様の手が届くところに、マウスボールやフレームを取り外したまま放置しないでください。

口に入れたりすると窒息する危険があります。



警告

マウスボールは、絶対に投げないでください。
マウスボールの芯には鋼球が入っていますので、人に当たるとけがをする危険があります。



雷が鳴りだしたら、電源プラグをさわらないでください。
感電の原因となります。



注意

小さなお子様の手の届くところには設置、保管しないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



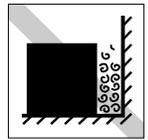
不安定な場所(ぐらついた台の上や傾いた所など)に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



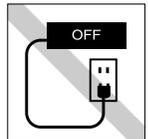
湿気やほこりの多い場所に置かないでください。
感電・火災の危険があります。



本製品の通風孔をふさがないでください。
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。
設置する際は、次の点を守ってください。
・押し入れや本箱など風通しの悪いところには設置しない。
・じゅうたんや布団の上には設置しない。
・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。



連休や旅行等で長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



各種コード(ケーブル)は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。
配線を誤ると、火災の危険があります。



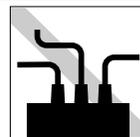
⚠ 注意

拡張ボードやメモリの交換・増設などは本製品の内部が高温になっているときには行わないでください。

火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、本製品の内部が十分冷めてから行ってください。

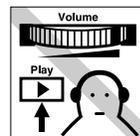


本製品を移動させる場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、すべての配線を外したことを確認してから行ってください。



ヘッドフォンやスピーカは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。

ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。



長時間あるいは不自然な姿勢でのコンピュータ操作は避けてください。肩こり、腰痛、目の疲れ、腱鞘炎などの原因となります。



イジェクトピンは、小さなお子様の手が届くところには保管しないでください。目をついたり、口に入れたりして、けがをする危険があります。



(MODライブ搭載モデル)



● **使い始めるまでの準備**

コンピュータの接続方法、電源の入れ方、切り方やセットアップについて説明します。

● **コンピュータの基本操作**

キーボードやマウス、FDDの使い方など、コンピュータの基本的な操作方法について説明します。

● **システムの拡張**

コンピュータに内蔵オプション装置を装着して機能を拡張する方法について説明します。

● **BIOSの設定**

コンピュータの基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

● **ソフトウェアの再インストール**

ソフトウェアを再インストールする手順について説明します。

● **こんなときは**

困ったときの確認事項や対処方法などについて説明します。

● **付録**

お手入れ方法、リチウム電池の交換、CMOS RAMの初期化、仕様などについて説明します。

目次

マニュアル中の表記について	12
製品保護上の注意	16
使用・保管時の注意.....	16
記録メディア.....	17
マウス.....	18

使い始めるまでの準備

ご使用前に	20
コンピュータを使い始めるまでの手順...	20
ご使用前の確認事項.....	21
システムの特長.....	23
添付されているソフトウェア.....	24

各部の名称と働き	26
本体前面.....	26
本体背面.....	27

コンピュータの設置	28
-----------	----

電源の入れ方とWindowsのセットアップ	35
Windowsを使用できるようになるまでの作業...	35
電源を入れる前に.....	36
電源の入れ方とWindowsの起動.....	37
Windowsのセットアップ.....	38

セットアップ終了後の作業	42
バックアップディスクの作成.....	42
Norton AntiVirus2003のインストール...	44
ネットワークに接続する.....	44
その他の設定.....	44

Windows使用時の確認事項	45
2回目以降に電源を入れる.....	45
Windows Updateについて.....	45
省電力機能.....	46
デバイスドライバをインストールするときは...	46
SBSIの実行について(Windows XPのみ)...	46

電源の切り方	47
Windows XPの終了と電源の切り方...	47
Windows 2000の終了と電源の切り方...	48
再起動.....	49
ハングアップしたときは.....	49

コンピュータの基本操作

キーボードを使う	52
キーの種類と役割.....	52
文字を入力するには.....	53
日本語を入力するには.....	53
キーロック表示ランプ.....	54
その他のキー.....	54

マウスを使う	55
マウスの操作.....	55

FDD(フロッピーディスクドライブ)を使う	56
FDのセットと取り出し.....	56
FDのフォーマット.....	57
データのバックアップ.....	58
ライトプロテクト(書き込み禁止)...	59

HDD(ハードディスクドライブ)を使う	60
データのバックアップ.....	60
HDDのフォーマット.....	61
購入時のHDD領域の設定について...	62

<hr/>	
CD-ROMドライブを使う	63
CD-ROMのセットと取り出し.....	63
強制的なCD-ROMの取り出し.....	65
<hr/>	
MOドライブを使う(MOドライブ搭載モデルのみ)	66
MOのセットと取り出し.....	66
MOのフォーマット.....	67
ライトプロテクト(書き込み禁止) ...	68
強制的なMOの取り出し.....	69
<hr/>	
解像度や表示色を変更する	70
表示に関する各種設定.....	70
解像度や表示色を変更するには.....	71
表示装置に関する設定.....	73
<hr/>	
省電力機能を使う	74
省電力機能の種類.....	75
実行方法.....	77
復帰方法.....	80
<hr/>	
その他の機能	81
サウンド機能.....	81
ネットワーク機能.....	82
USBコネクタ.....	84
パラレルコネクタ.....	84
シリアルコネクタ.....	85
ハイパースレディング機能(Windows XP) ...	85
コンピュータウィルスの検索・駆除 ...	85

<hr/>	
システムの拡張	
<hr/>	
拡張できる装置	88
<hr/>	
作業時の注意	89
<hr/>	
拡張時の準備作業	90
本体カバーの取り外し・取り付け.....	90
<hr/>	
DIMMの増設	93
DIMMの仕様.....	93
DIMM装着時の制限.....	94
DIMMの取り付け・取り外し.....	95
<hr/>	
拡張ボードの装着	99
拡張スロットの仕様.....	99
拡張ボードの取り付け・取り外し ...	101
<hr/>	
ドライブベイへのドライブ装着	104
5.25型ドライブベイへの装着.....	104
HDDベイへの装着.....	111
<hr/>	
IDE装置の装着	115
IDEコネクタ.....	115
ドライブ装置の接続例.....	117

BIOSの設定

BIOS の設定を始める前に	122
BIOS Setupユーティリティの操作	123
BIOS Setupユーティリティの起動 ...	123
BIOS Setupユーティリティの操作 ...	124
設定値をもとに戻すには	126
BIOS Setupユーティリティの終了 ...	127
BIOS Setupユーティリティの設定項目	129
Mainメニュー画面	129
Advancedメニュー画面	132
Powerメニュー画面	134
Bootメニュー画面	135
Passwordの設定	137
Exitメニュー画面	140
BIOSの設定値	140

ソフトウェアの再インストール

再インストールする前に必ずお読みください	144
再インストールが必要な場合	144
重要事項	144
ソフトウェアの再インストールを行う	146
必要なメディア	146
インストールの順番	147
インストール作業における確認事項 ...	148
Windowsのインストール	150
デバイスドライバのインストール ...	158
Adobe Acrobat Readerのインストール ...	160
Norton AntiVirus2003のインストール ...	160
そのほかの作業	161

こんなときは

困ったときに	166
コンピュータ本体の不具合	166
省電力機能に関する不具合	170
キーボードの不具合	171
マウスの不具合	172
ディスプレイの不具合	173
FDDの不具合	176
HDDの不具合	177
CD-ROMドライブの不具合	179
アプリケーションソフトの不具合 ...	181
メモリの不具合	182
インストール時の不具合	182
拡張ボード、周辺機器の増設に関する不具合 ...	183
プリンタの不具合	184
スピーカの不具合	184
警告メッセージが表示されたら	185

付 録

お手入れ	188
本機のお手入れ	188
マウスのお手入れ	188
HDD領域の作成	190
HDD領域の概要	190
HDD領域の作成手順	191
リチウム電池の交換	196
CMOS RAMの初期化	199
コンピュータ内部のケーブル接続	201

機能仕様一覧	203
用語集	204
索引	210

マニュアル中の表記について

本書では次のような記号を使用しています。

安全に関する記号



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

一般情報に関する記号



制限事項です。
機能または操作上の制限事項を記載しています。



参考事項です。
覚えておくと便利なことを記載しています。



説明文が次ページに続くことを示します。



参照ページを示します。

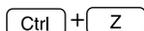


操作手順です。
ある目的の作業を行うために、番号に従って操作します。



 で囲んだマークはキーボード上のキーを表します。

 はEnterキーを表します。また、 は  のことです。このように必要な部分のみを記載しているため、実際のキートップの表示とは異なる場合があります。



十の前のキーを押したまま十の後のキーを押します。
この例では、 を押したまま  を押します。

名称の表記

本書では、コンピュータで使用する次の製品の名称を次のように略して表記します。

HDD	ハードディスクドライブ
FD	フロッピーディスク
FDD	フロッピーディスクドライブ

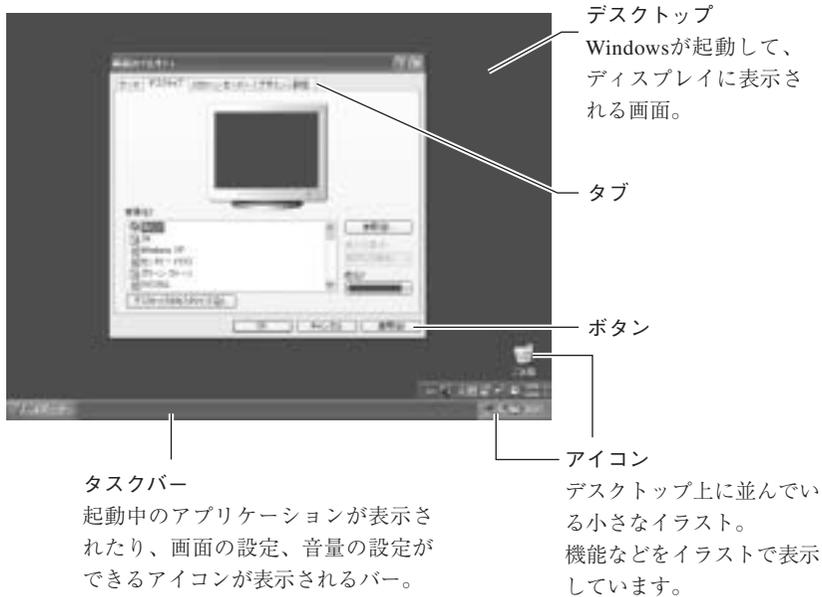
オペレーティングシステムに関する記述

本書ではオペレーティングシステムの名称を次のように略して表記します。

Windows XP	Microsoft® Windows® XP Professional Microsoft® Windows® XP Home Edition
Windows 2000	Microsoft® Windows® 2000 Professional
MS-DOS	Microsoft® MS-DOS® Operating System

Windowsの画面表示に関する記載方法(Windows XP)

本書では、Windows XP画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。



ボタンは[]で囲んで記載します。

例  :[スタート]、 :[OK]

Windowsの画面操作に関する記載方法

本書では、Windows画面上で行う操作手順を次のように記載します。

記載例 : [スタート]-[すべてのプログラム]-[Internet Explorer]をクリックします。

実際の操作 : ① [スタート]をクリックします。

② 表示されたメニューから「すべてのプログラム」をクリックします。

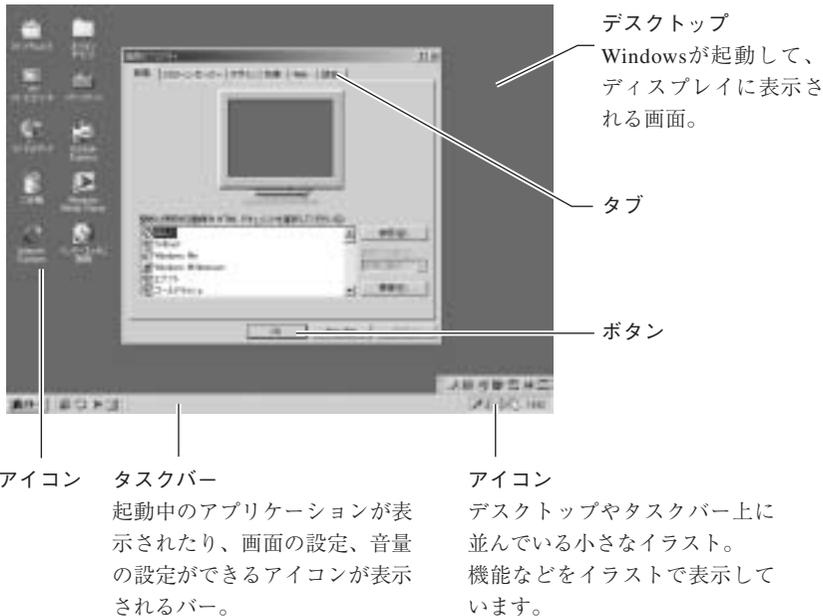
③ 横に表示されるサブメニューから「Internet Explorer」をクリックします。



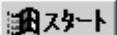
Windowsの画面表示に関する記載方法(Windows 2000)

本書では、Windows画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。

※マニュアル中で採用している画面は、主にWindows XPのものです。Windows 2000で表示される画面とデザインが異なりますが、基本的な機能は同じです。



ボタンは、[]で囲んで記載します。

例  : [スタート]、 : [OK]

Windowsの画面操作に関する記載方法

本書では、Windows画面上で行う操作手順を次のように記載します。

記載例 : [スタート] - 「設定」 - 「コントロールパネル」をクリックします。

実際の操作 : ① [スタート]をクリックします。

② 表示されたメニューから「設定」をクリックします。

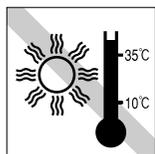
③ 横に表示されるサブメニューから「コントロールパネル」をクリックします。



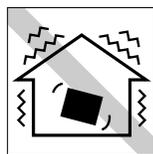
製品保護上の注意

使用・保管時の注意

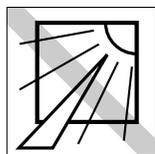
コンピュータは精密な機械です。故障や誤動作の原因となりますので、次の注意事項を必ず守って、本製品を正しく取り扱ってください。



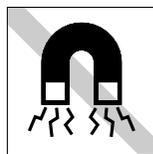
温度が高すぎる所や、低すぎる所には置かないでください。また、急激な温度変化も避けてください。故障、誤動作の原因になります。適切な温度の目安は10℃～35℃です。



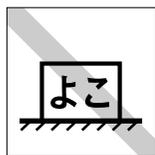
他の機械の振動が伝わる所など、振動しがちな場所には置かないでください。故障、誤動作の原因になります。



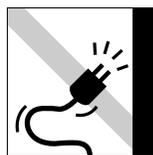
直射日光の当たる所や、発熱器具(暖房器具や調理器具など)の近くなど、高温・多湿となる所には置かないでください。故障、誤動作の原因になります。



テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものの近くに置かないでください。コンピュータの誤動作が生じたり、FDなどのデータが破壊されることがあります。逆に、コンピュータの影響でテレビやラジオに雑音が入ることもあります。



コンピュータ本体を横置きにしないでください。故障、誤動作の原因になります。本機は縦置き専用に設計されています。



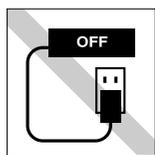
電源コードが抜けやすい所(コードに足が引っかかりやすい所や、コードの長さがぎりぎりの所など)にコンピュータを置かないでください。電源コードが抜けると、それまでの作業データがメモリ上から消えてしまいます。



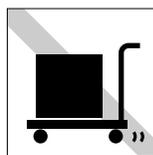
コンピュータ本体の上には重い物を載せないでください。重圧により、故障や誤動作の原因となることがあります。



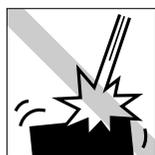
本製品の汚れを取るときは、ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。柔らかい布に中性洗剤をしたたらない程度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。



電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。電源を切っても、コンピュータ内部に微少な電流が流れているため、ショートして故障の原因となります。



遠隔地に輸送するときや保管するときは、裸のままで行わないでください。衝撃や振動、ホコリなどからコンピュータを守るため、専用の梱包箱に入れてください。



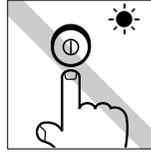
移動するときは、振動や衝撃を与えないようにしてください。内蔵の周辺機器(HDD、CD-ROMドライブなど)も含めて、故障、誤動作の原因となります。



コンピュータは一般ゴミとして廃棄しないでください。廃棄するときは、お住まいの市区町村の条例または規則に従って、適切に処分してください。



輸送や保管をするときは、付属物をセットしたままにしないでください。
配線ケーブルはすべて取り外し、FD、CD-ROMなどは取り出してください。



アクセスランプが点灯中は、コンピュータの電源を切ったり、リセットしないでください。

▶ 記録メディア

以下のような取り扱いをすると、次の記録メディアに登録されたデータが破壊されるおそれがあります。記録メディアの種類は、次のとおりです。

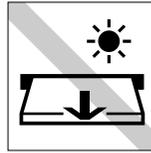
- FD
- CD-ROM・CD-R・CD-RW・DVD-ROMなど
- MO

FD
CD
MO

記録メディアの種類を指定していない場合は、すべての記録メディアに該当します。



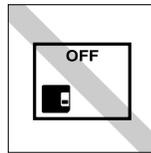
直射日光が当たる所、暖房器具の近くなど、高温・多湿となる場所には置かないでください。



アクセスランプ点灯中は、記録メディアを取り出したり、コンピュータの電源を切ったり、リセットをしないでください。



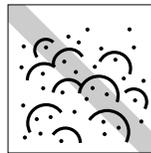
上に物を載せないでください。



使用後は、コンピュータにセットしたままにしたり、裸のまま放置したりしないでください。専用のケースに入れて保管してください。



キズを付けないでください。



ゴミやホコリの多いところでは、使用や保管しないでください。



クリップではさむ、折り曲げるなど、無理な力をかけないでください。

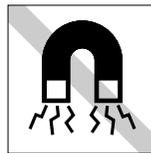


アクセスカバーを開けたり、磁性面に触れたりしないでください。

FD MO



磁性面にホコリや水を付けないでください。シンナーやアルコールなどの溶剤類を近づけないでください。**FD MO**



テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものに近づけないでください。**FD MO**



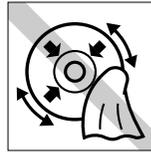
何度も読み書きしたFDは使わないでください。
磨耗したFDを使うと、読み書きでエラーが生じることがあります。**FD**



信号面(文字などが印刷されていない面)に触れないでください。**CD**



レコードやレンズ用のクリーナーなどは使わないでください。
クリーニングするときは、CD専用クリーナーを使ってください。**CD**



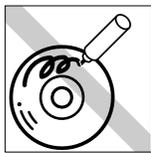
レコードのように回転させて拭かないでください。
CD-ROMは、内側から外側に向かって拭いてください。**CD**



CD-ROMドライブのデータ読み取りレンズをクリーニングするCDは使わないでください。**CD**



CD-ROMなどのメディアにシールを貼らないでください。**CD**



信号面(文字などが印刷されていない面)に文字などを書き込まないでください。**CD**

マウス

マウスは精密な機械です。次の点に注意して操作してください。



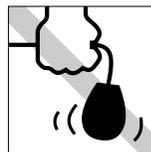
落としたり、ぶつけたりして強い衝撃を与えないでください。



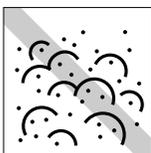
マウスボールを素手で触らないでください。



平らな場所で使用してください。でこぼこのある場所ではマウスボールの回転が不規則になり、マウスの動きがコンピュータに正確に伝わりません。



持ち運びはマウス本体を持ってください。ケーブルを持って運ばないでください。



ゴミやホコリの多いところでは、使用や保管しないでください。マウスボールにホコリやゴミが付いたまま使用すると、誤動作や故障の原因になります。

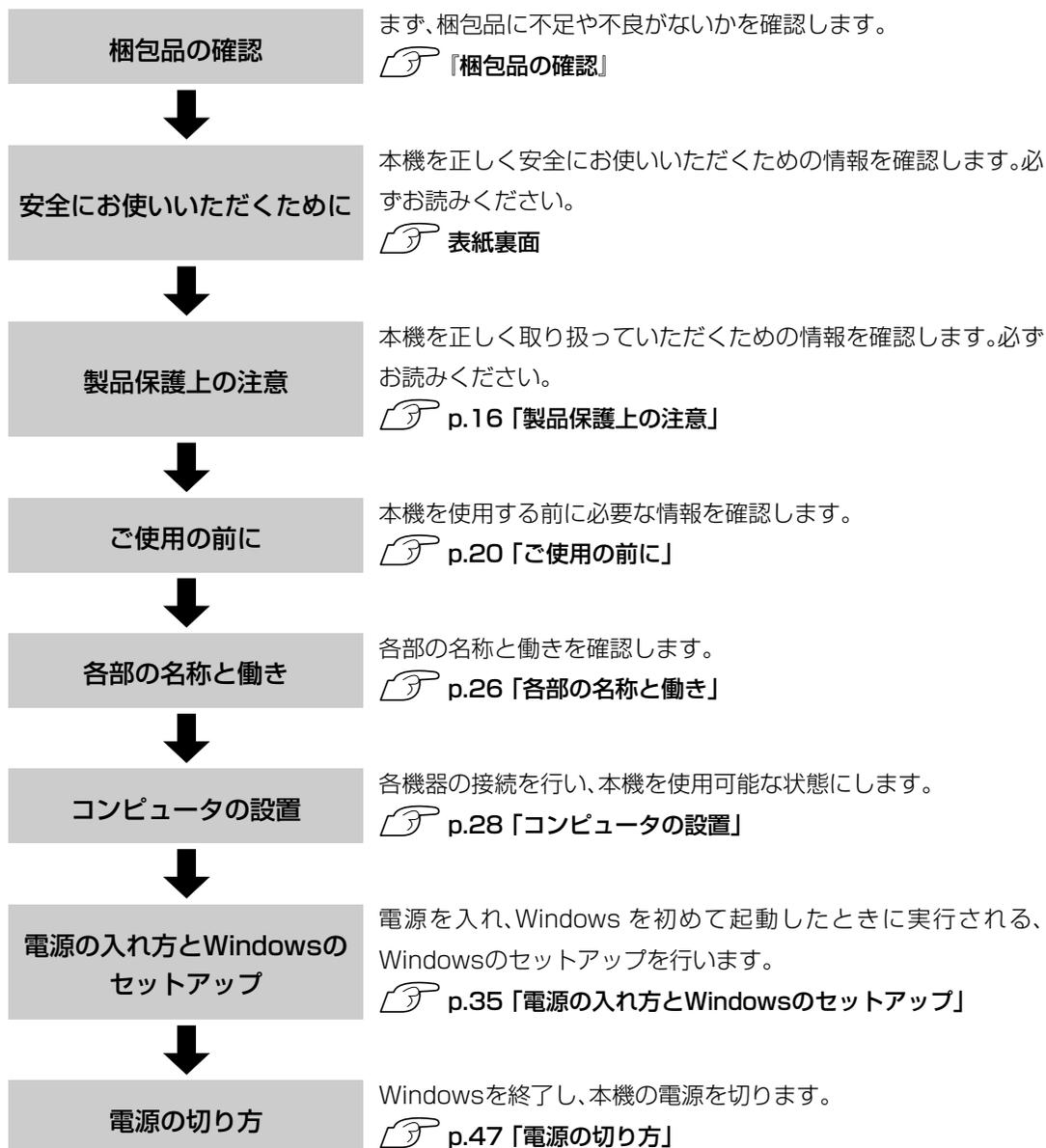
使い始めるまでの準備

コンピュータの接続方法、電源の入れ方、切り方やセットアップについて説明します。

ご使用前に

▶ コンピュータを使い始めるまでの手順

購入後に初めて使用する場合は、次の手順で作業を行ってください。



▶ ご使用前の確認事項

貼付ラベルの確認

本機の次の場所には、製品情報が記載されたラベルが貼られています。本機をご使用前に、ラベルが貼られていることを確認してください。ラベルは、絶対にはがさないでください。

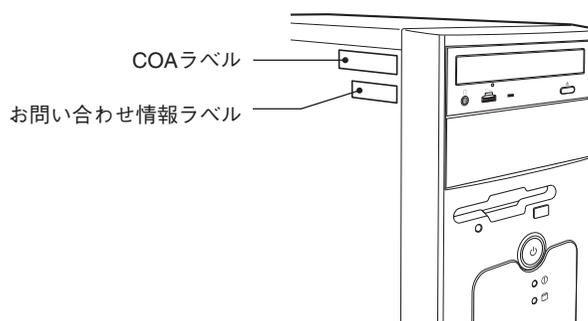
- お問い合わせ情報ラベル

お問い合わせ情報ラベルには、型番や製品番号が記載されています。弊社にサポート・サービスに関するお問い合わせをいただく際には、これらの番号が必要です。

製品のサポート・サービスについては、『サポート・サービスのご案内』または『サポートと保守サービスのご案内』をご覧ください。

- COAラベル

COAラベル(Windows Certificate of Authenticityラベル)は、正規のWindows商品を購入されたことを証明するラベルです。コンピュータからCOAラベルを絶対にはがさないようにしてください。万一COAラベルを紛失された場合、再発行はできません。



システム構成の確認

本書では特に記載がない限り、下記システム構成を前提として説明を行っています。購入されたシステム構成が下記と異なる場合、それらの使用方法やドライバのインストール方法などは各装置に添付のマニュアルを参照してください。

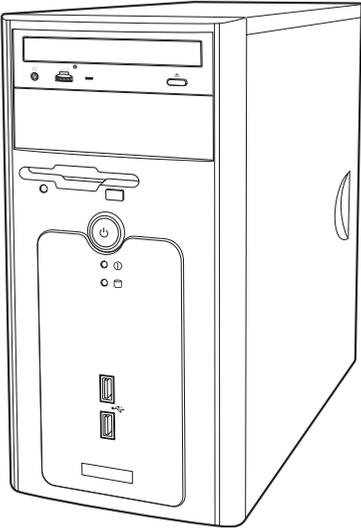
DIMM(メモリ)	:1セット(2本)
HDD	:1基(IDE)
5.25型ドライブ装置	:CD-ROMドライブ1基
ディスプレイ機能	:メインボード上の機能を使用
サウンド機能	:メインボード上の機能を使用
ネットワーク機能	:メインボード上の機能を使用
FAXモデム機能	:なし
キーボード	:日本語対応109キーボード
マウス	:ホイール付きPS/2マウス

上記に記載のない部分は、システム構成に変更があっても本書の記載内容が変わらない部分です。

システム構成の詳細は、p.203「機能仕様一覧」をご覧ください。

▶ システムの特長

本機のシステムの特長は、次のとおりです。



CPU性能
インテルPentium 4プロセッサまたはインテルCeleronプロセッサを搭載しています。

メモリ容量
DIMMを増設して最大2GB(512MB×4)まで増設が可能です。

拡張スロット
AGPスロット×1
PCIスロット×3
を装備しています。

画面表示機能
AGP対応のディスプレイ機能を搭載しています。

サウンド機能
AC'97 CODECコントローラを搭載しています。

オペレーティングシステム
Windows XPまたはWindows 2000
をインストール済みです。

その他
USB2.0に対応したUSBコネクタを
装備しています。

▶ 添付されているソフトウェア

本機に標準で添付されているソフトウェアは、次のとおりです。購入時のシステム構成によってはこのほかにも添付されているソフトウェアがあります。

表中記号の見方

	:購入時には、HDDにインストールされています。
	:購入時には、インストールされていません。必要に応じてインストールしてください。

▶ リカバリCD-ROMに登録されているソフトウェア

ソフトウェア	Windows XP インストールモデル	Windows 2000 インストールモデル
● Windows Windowsは、最新のものがインストールされています。		

▶ ドライバCDに登録されているソフトウェア

ソフトウェア	Windows XP インストールモデル	Windows 2000 インストールモデル
● インテル 865Gチップセット用ドライバ メインボード上のデバイスを正常に使用できるようにするドライバです。		
● ディスプレイドライバ メインボード上のディスプレイ機能を使用して、Windowsを高解像度・多色で表示するためのドライバです。		
● サウンドドライバ*1 メインボード上のサウンド機能を使用して、音を鳴らしたり、録音するためのドライバです。		
● ネットワークドライバ*1 メインボード上のネットワーク機能を使用するためのドライバです。		
● USB2.0ドライバ USB2.0機能を使用するためのドライバです。	*2	
● DirectX9.0 ゲームなどのマルチメディアソフトを快適に使用するためのソフトウェアです。		

*1 拡張ボード(ビデオボードやサウンドボード、ネットワークボード)を同時に購入された場合は、専用のドライバがインストールされています。また、専用のディスクが別途添付されています。

*2 Windows が標準で機能を持っています。

▶ **ドライバCDに登録されているソフトウェア**

ソフトウェア	Windows XP インストールモデル	Windows 2000 インストールモデル
● Norton AntiVirus2003 最新マクロウイルスに対応し、ウイルス駆除もできる高機能なウイルス対策プログラムです。		
● Adobe Acrobat Reader PDF (Portable Document Format)形式のファイルを表示したり、印刷したりするためのソフトウェアです。		

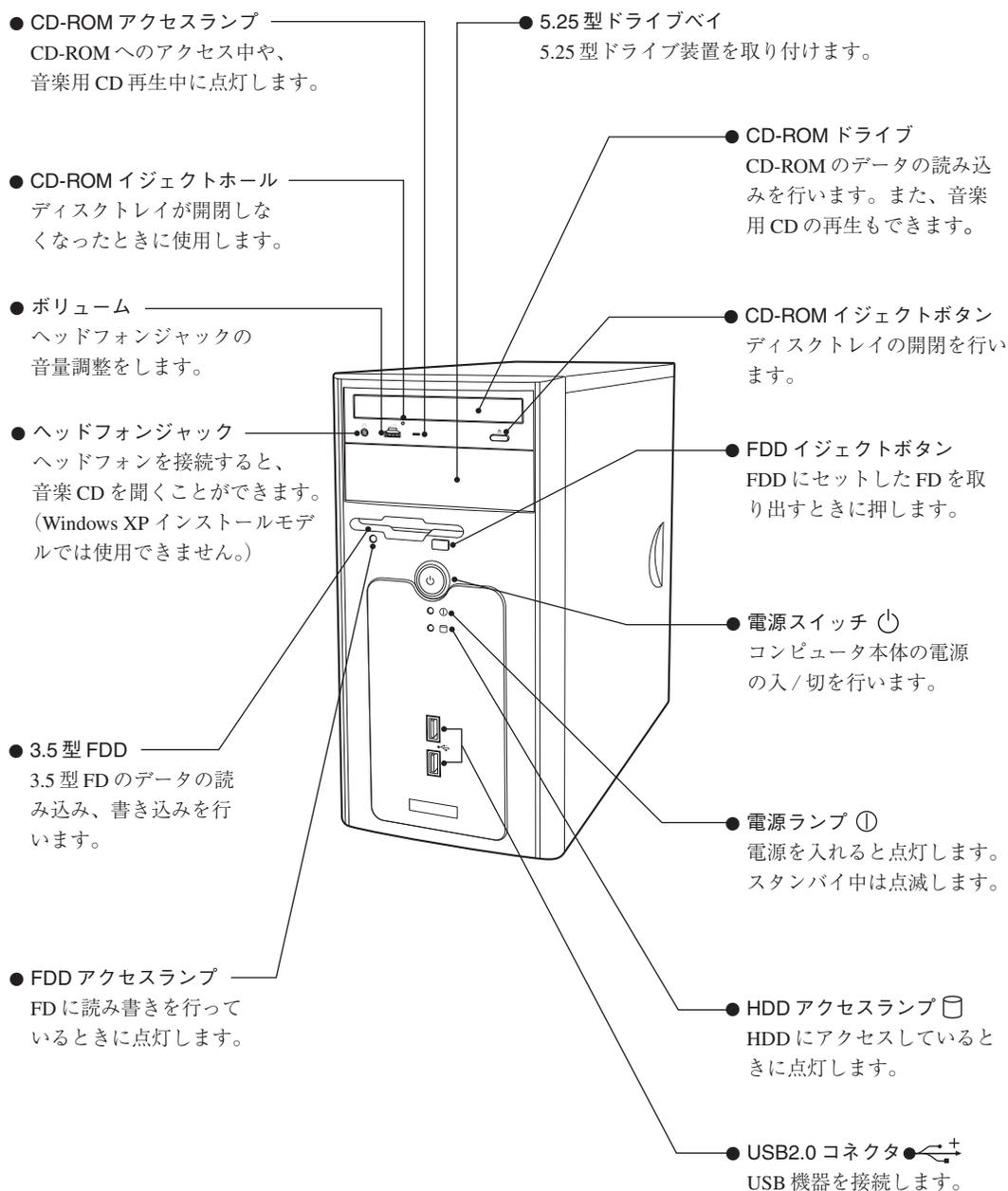
▶ **バックアップディスクを作成するソフトウェア***

ソフトウェア	Windows XP インストールモデル	Windows 2000 インストールモデル
● マニュアル (PDFファイル) 「ユーザーズマニュアルファイル」(本書)が、コンピュータ画面上でいつでも見られるようにPDF化されています。		

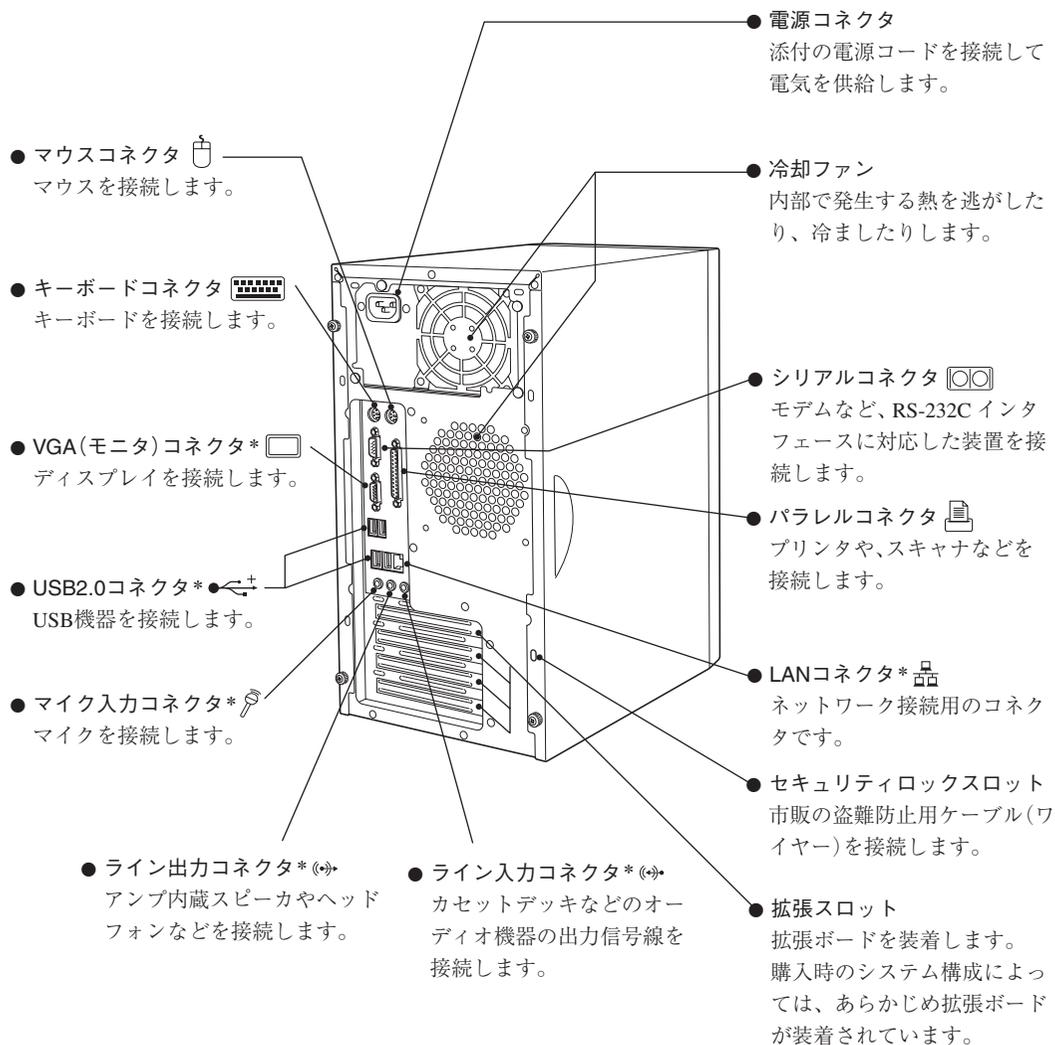
* 購入時のシステム構成によっては、上記以外のソフトウェアのバックアップディスクを作成する場合があります。

各部の名称と働き

▶ 本体前面



▶ 本体背面



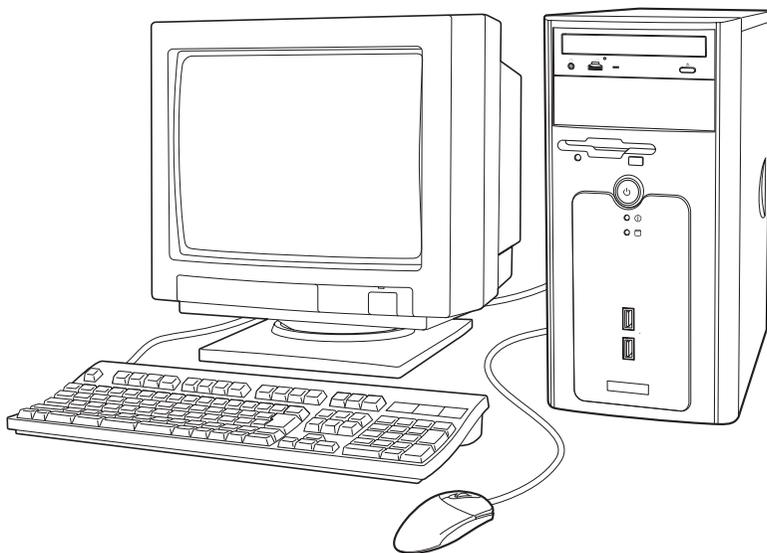
* サウンドボードやLANボードなどの拡張ボードをお使いの場合は、各コネクタの機能は無効に設定されています。スピーカやネットワークケーブルなどは、各ボードに接続します。

 拡張ボードに添付のマニュアル

コンピュータの設置

本機を安全な場所に設置し、キーボードやマウス、電源コードなどを接続して使用できる状態にする手順を説明します。

ここでの説明は、標準的なシステム構成で行っています。プリンタなどの周辺機器の接続は、Windowsのセットアップ終了後に、周辺機器に添付のマニュアルを参照して行ってください。



設置における注意



注意

- 不安定な場所(ぐらついた台の上や傾いた所など)に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
- 本製品の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。設置する際は、次の点を守ってください。
 - ・押し入れや本箱などの風通しの悪いところに設置しない。
 - ・じゅうたんや布団の上に設置しない。
 - ・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。

故障や誤動作を防ぐため、p.16「製品保護上の注意」にある注意事項を守って設置場所を決めてください。

各種コード(ケーブル)接続時の注意



- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源コードのたこ足配線はしないでください。発熱し、火災の原因となります。家庭用電源コンセント(交流100V)から電源を直接取ってください。
- 電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。取り扱いを誤ると、火災の原因となります。
 - ・電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
 - ・電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。



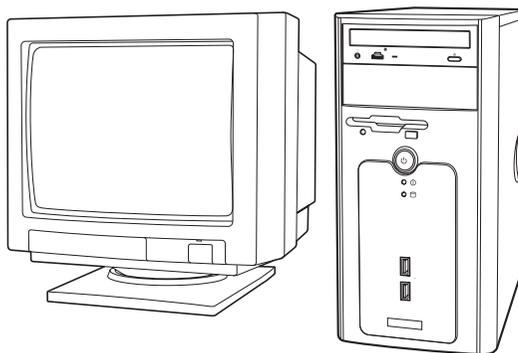
- 各種コード(ケーブル)は、マニュアルで指示されている以外の配線をしてください。配線を誤ると、火災の危険があります。

設置

1

コンピュータの設置場所(丈夫で水平な机の上など)を決めて設置します。

本機は横置きにできません。必ず縦置きに設置してお使いください。

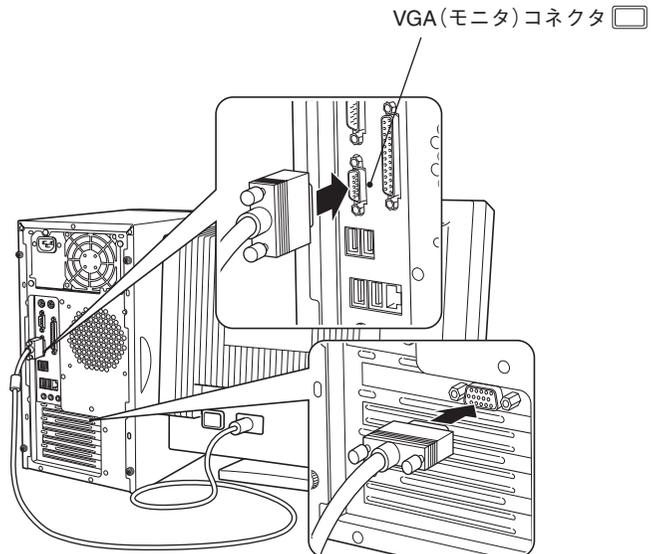


ディスプレイの接続

ここでは、一般的なディスプレイの接続方法を説明します。ディスプレイの取り扱い上の注意や詳しい使用方法是、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

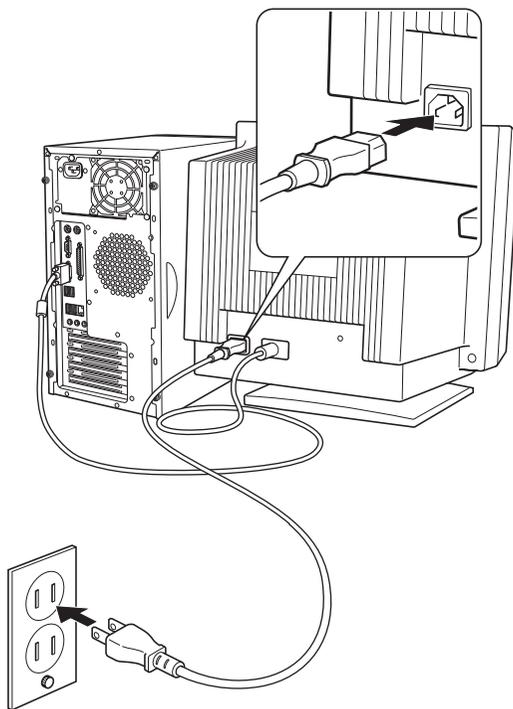
2 ディスプレイの接続コードを、本機背面のVGA(モニタ)コネクタ(青色)に接続します。

ビデオボード装着時は、ビデオボードのVGA(モニタ)コネクタに接続します。



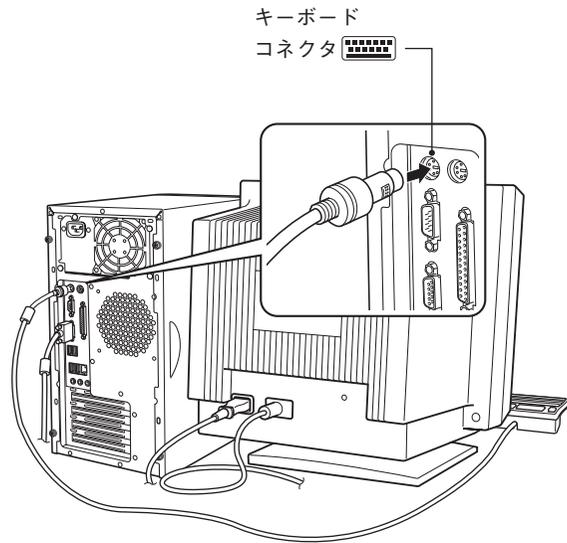
<ビデオボード装着時>

- 3** ディスプレイの電源コードを、ディスプレイの電源コネクタと家庭用電源コンセントに接続します。



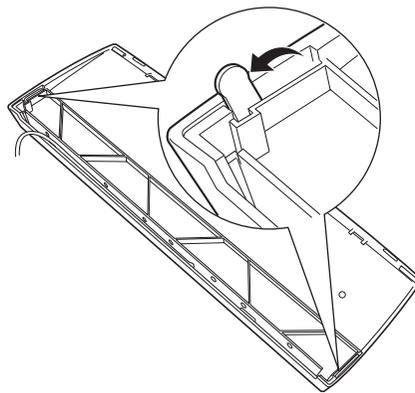
キーボードの接続

- 4** キーボードのコネクタを、本機のキーボードコネクタ(紫色)に差し込みます。



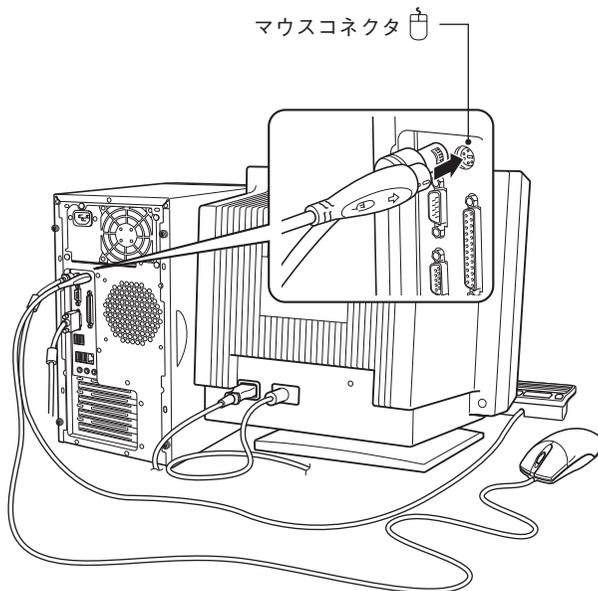
キーボードは操作しやすい位置に置き、次の調節をしてください。

- キーボードを傾斜させるときは、両端の脚を起こします。
- キーボードコードの長さを調整します。



マウスの接続

- 5** マウスケーブルのコネクタを、本機のマウスコネクタ（緑色）に差し込みます。

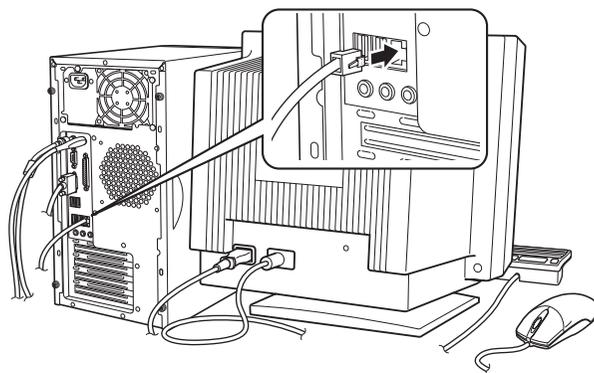


ネットワークへの接続

- 6** ネットワーク機能を使用する場合は、ネットワークケーブルをLANコネクタに接続します。

ネットワークボード使用時は、ネットワークボード上のLANコネクタに接続します。

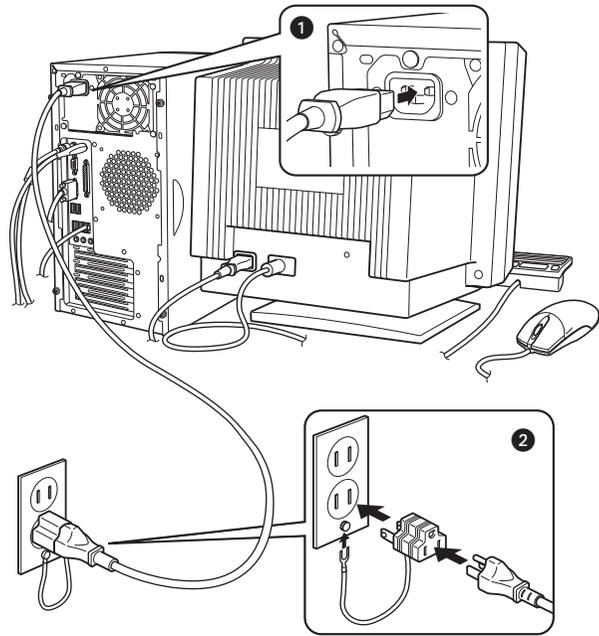
ネットワークの詳細は、ネットワーク管理者に確認してください。



電源コードの接続

7 電源コードを接続します。

- ① 電源コードを本体の電源コネクタに接続します。
- ② 添付の電源プラグ変換アダプタを接続してから、家庭用電源コンセントに接続します。
アース端子が付いているコンセントの場合、電源コードのアース線を接続します。



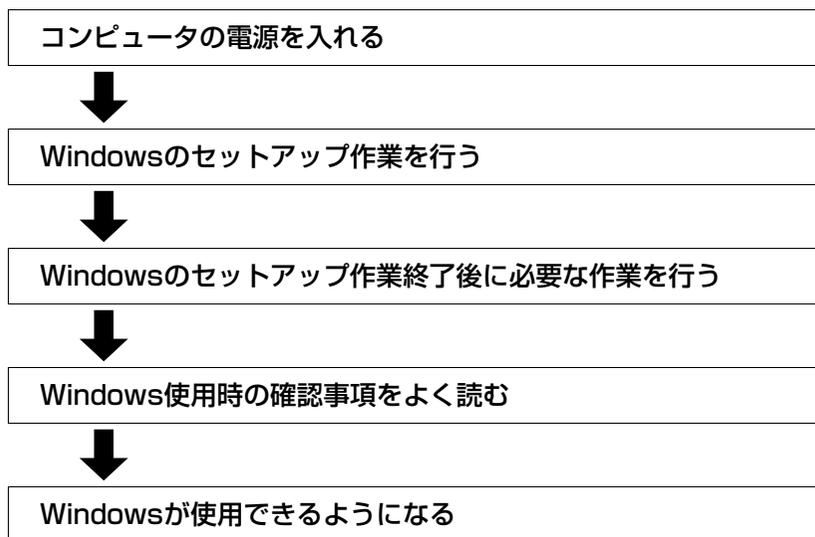
これでコンピュータの設置は終了です。続いてWindowsのセットアップを行います。

電源の入れ方とWindowsのセットアップ

本章では、コンピュータを購入後に、初めて電源を入れてからWindowsを使用できる状態になるまでの作業を説明します。

▶ Windowsを使用できるようになるまでの作業

作業の流れは、次のとおりです。次ページからの手順に従って作業を行ってください。



▶ 電源を入れる前に

Windowsのセットアップとは

「Windowsのセットアップ」は、コンピュータが届いてから、初めて電源を入れたときにユーザー情報などを設定するプログラムです。画面に表示されるメッセージに従って対話式で簡単に行うことができます。

マウスの使い方

Windowsのセットアップは、マウスで行います。

セットアップに必要なマウスの基本操作は、次のとおりです。

マウスポインタを動かす

マウスを前後左右に動かすと、Windowsの画面に表示されているマウスポインタがマウスと同じ動きをします。



ボタンをクリックする

① マウスを動かして、マウスポインタを画面のボタンの上に重ねます。

② マウスの左ボタンを、1回「カチッ」と押して離します。

この動作を「クリック」と言います。

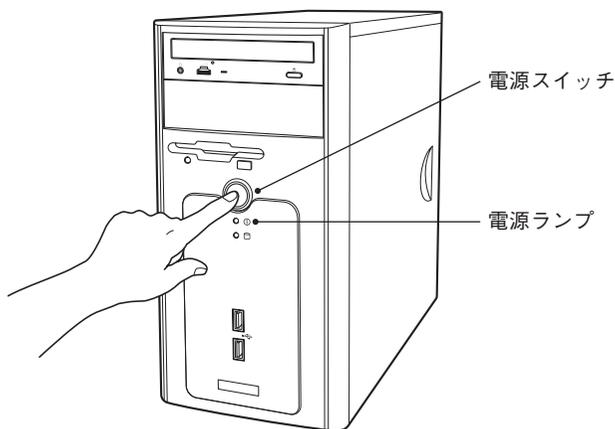
ボタンをクリックすると、ボタンに表示されている操作が実行されます。



▶ 電源の入れ方とWindowsの起動

本機の電源の入れ方は、次のとおりです。

- 1 ディスプレイの電源を入れます。
- 2 本機の電源スイッチを押します。電源ランプが点灯します。
電源ランプが点灯しない場合は、電源コードが正しく接続されているか確認します。



- 3 画面にコンピュータの仕様が表示され、しばらくするとWindowsが起動します。

続けてWindowsのセットアップを行います。

Windows XPインストールモデル

 p.38「Windows XPのセットアップ」

Windows 2000インストールモデル

 p.40「Windows 2000のセットアップ」

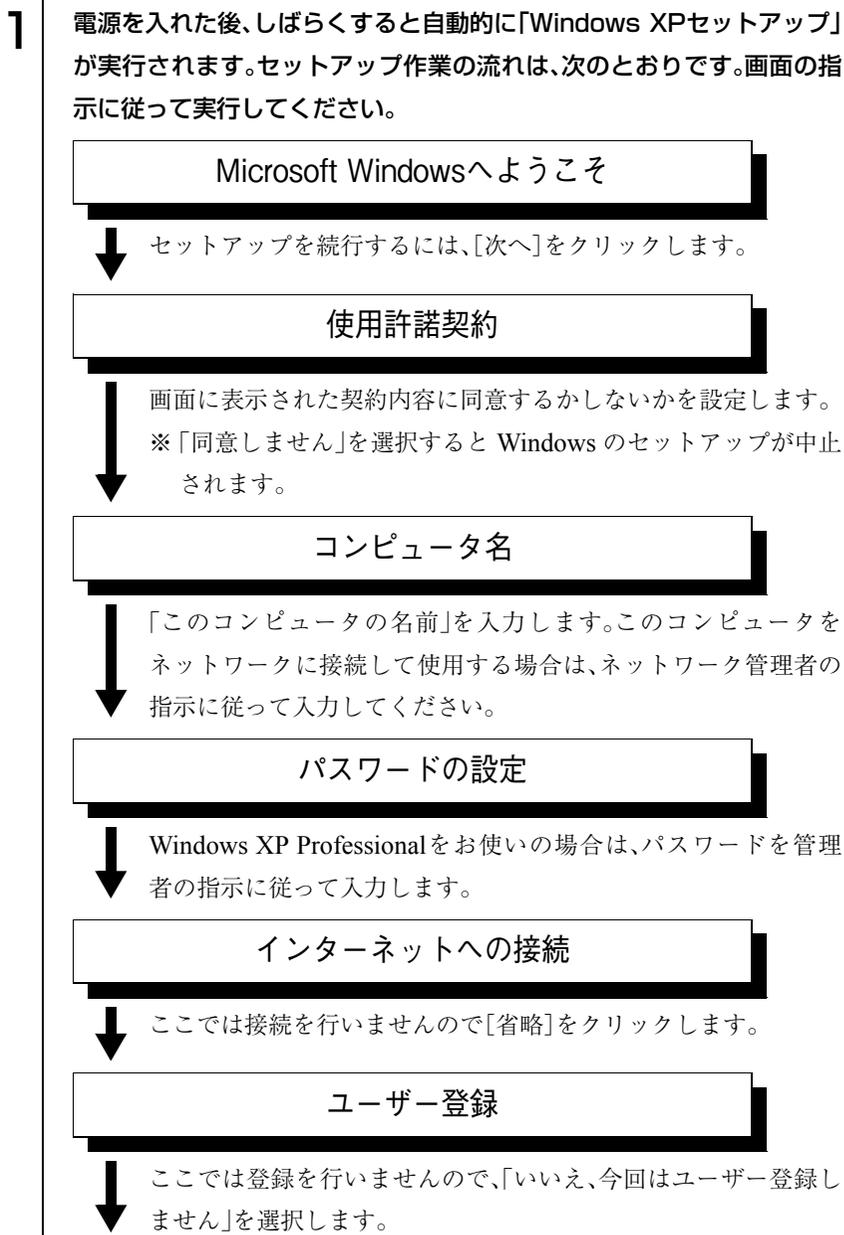
電源を入れたときに、次のような現象が発生した場合は、下記の内容を確認してください。

- 電源ランプが点灯しない場合
電源コードが正しく接続されているか確認してください。
- 画面に何も表示されない場合
ディスプレイが正しく接続され、ディスプレイの電源が入っているか確認してください。

▶ Windowsのセットアップ

Windows XPのセットアップ

Windows XPインストールモデルのセットアップは、次の手順で行います。



コンピュータを使用するユーザーの指定



このコンピュータを使用するユーザーの名前(最大5ユーザー)を入力します。少なくともユーザー名を1つ入力してください。

インストールの完了

Windows XPが正常にインストールされました。[完了]をクリックするとコンピュータが自動的に再起動します。

2

Windows XPが再起動すると、Windowsのデスクトップが表示されます。これで「Windows XPセットアップ」は終了です。



セットアップの際にユーザー名を2つ以上入力した場合は、Windows XPの再起動後に「ようこそ」画面が表示されます。ユーザー名をクリックすると上記の画面が表示されます。

続けてp.42「セットアップ終了後の作業」に移ります。



参考

ユーザー登録とライセンス認証(アクティベーション)について

- セットアップ中にスキップした、ユーザー登録を行う場合は、[スタート]-「ファイル名を指定して実行」-「REGWIZ □/R」(□はスペース)を実行し、ウィザード画面の指示に従ってください。ユーザー登録は、Microsoft社からWindowsに関するサポートを受けるためのものではありません。本機のサポートは弊社で行っています。
- 弊社より提供されたWindows XP(購入時にコンピュータにインストールされているもの、および「リカバリCD」より再インストールを行ったもの)は、ライセンス認証を行う必要はありません。

Windows 2000のセットアップ

Windows 2000インストールモデルのセットアップは、次の手順で行います。

1

電源を入れた後、しばらくすると自動的に「Windows 2000セットアップ」が実行されます。セットアップ作業の流れは、次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。

Windows 2000セットアップウィザードの開始



ライセンス契約



画面に表示された契約内容に同意するかしないかを設定します。
※「同意しない」を選択すると Windows のセットアップが中止されます。

ソフトウェアの個人用設定



ユーザー情報として名前と組織名を管理者の指示に従って入力します。
※名前を入力後 **Tab** を押すと組織名の欄にポインタが移動します。

コンピュータ名とAdministratorのパスワード



「コンピュータ名」、「Administratorのパスワード」を管理者の指示に従って入力します。

日付と時刻の設定



「日付と時刻」で現在の日時を設定し、「タイムゾーン」で地域を指定します。

Windows 2000セットアップウィザードの完了

Windowsが正常にインストールされました。[再起動]をクリックするとコンピュータが再起動します。

2

Windows 2000が再起動し、パスワードを入力すると、次の画面が表示されます。これで「Windows 2000セットアップ」は終了です。



続けてp.42「セットアップ終了後の作業」に移ります。

セットアップ終了後の作業

Windowsのセットアップが終了したら、次の作業を行います。

▶ バックアップディスクの作成



- バックアップディスクを作成する前にHDDをフォーマットしてしまうと、バックアップディスクは作成できません。
- バックアップディスクを作成しないと、ドライバやソフトウェアを再インストールすることができません。必ず作成してください。

バックアップディスクの作成は、「バックアップFD作成ユーティリティ」で行います。

「バックアップFD作成ユーティリティ」では、購入時にHDDにインストールされていても、「ドライバCD」などの添付ディスクに登録されていない、次のようなソフトウェアのバックアップディスクを作成します。

- 本機ของผู้사용자手册的PDF文件
- 添付的ディスク类に登録されているデバイスドライバ的最新版
- 添付的ディスク类に登録されていないデバイスドライバ

購入時のシステム構成によって、作成するディスクが異なります。バックアップFD作成ユーティリティ画面に表示されるすべてのディスクセットのバックアップディスクを作成してください。

バックアップディスクを作成するには、フォーマット済みのFDが必要です。

バックアップディスクの作成ユーティリティの起動

次の方法で、バックアップFD作成ユーティリティを起動します。

Windows XP : [スタート]—[すべてのプログラム]—[バックアップFD作成ユーティリティ]を実行します。

Windows 2000 : [スタート]—[プログラム]—[バックアップFD作成ユーティリティ]を実行します。

バックアップディスクの作成

バックアップディスクの作成は、次の手順で行います。

- 1 「バックアップFD作成ユーティリティ」が実行されると、「作成するディスクセットの選択」が表示されます。

バックアップが必要なディスクセットが表示されます。購入時のシステム構成によって、作成するディスクが異なります。



- 2 画面に表示されているディスクセットの中から作成したいディスクセットをクリックして、「次へ」をクリックします。

- 3 画面の指示に従ってバックアップディスクを作成します。

- 4 同様にして「作成するディスクセットの選択」画面に表示されるすべてのディスクセットを作成します。

作成したディスクにはディスク名を明記したラベルを貼り、ライトプロテクトをして大切に保管してください。

 p.59「ライトプロテクト(書き込み禁止)」



マニュアルディスクについて

バックアップFD作成ユーティリティで作成するマニュアルディスクは、デスクトップ上の「ユーザーズマニュアル.pdf」のバックアップです。Windowsを再インストールして、「ユーザーズマニュアル.pdf」をインストールする場合に、このディスクを使用します。

Norton AntiVirus2003のインストール

「Norton AntiVirus2003」は、コンピュータウイルスを検索し駆除するためのソフトウェアです。購入時には、「Norton AntiVirus2003」がインストールされていません。必ず「Norton AntiVirus2003」のインストールを行ってください。

 『Norton AntiVirus2003をご使用の前に』

ネットワークに接続する

ネットワーク機能を使用する場合は、ネットワークへの接続を行います。接続を行う際には、ネットワークに関する情報が必要です。お使いになるネットワーク機器に添付のマニュアルや、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

そのほかの設定

購入時にサウンドボードやFAXモデムボードなどの拡張ボードを装着している場合は、使用できるように必要な接続や設定を行ってください。

 各拡張ボードに添付のマニュアル

Windows使用時の確認事項

「セットアップ終了後の作業」が終わると、Windowsを使用できます。ご使用の前に次の事項の確認を行ってください。

▶ 2回目以降に電源を入れる

コンピュータの電源を入れるときには、次の点に注意してください。

- 電源が切れていることを電源ランプで確認してから電源を入れる。
省電力機能が働き、動作中でも画面の表示が消えていることがあります。
電源を入れるつもりで切ってしまうように注意しましょう。

 p.74「省電力機能を使う」

- 電源を入れなおすときは、20秒程度の間隔を開けてから電源を入れる。
電気回路に与える電気的な負荷を減らして、HDDなどの動作を安定させます。
- 周辺機器を接続している場合は、周辺機器の電源を先に入れる。
コンピュータよりも先に電源を入れておかないと、コンピュータに認識されない機器があります。

▶ Windows Updateについて

初めてインターネットに接続する場合、はじめに「Windows Update」を行います。「Windows Update」を行うと、本機の状態を診断して、コンピュータウイルスに感染することを防ぐためのプログラムや最新の機能などがインストールされ、Windowsを快適に使用することができるようになります。

「Windows Update」は、次の手順で行います。

Windows XP : [スタート]－[すべてのプログラム]－[Windows Update]

Windows 2000 : [スタート]－[Windows Update]

Windowsを再インストールした場合も、必ず「Windows Update」を行ってください。また、「Windows Update」では、常に新しいプログラムが登録されているので、定期的に「Windows Update」を行ってください。

さらに、本機に添付の「Norton AntiVirus2003」をインストールすることにより、本機のセキュリティが強化されます。本機に添付の「Norton AntiVirus2003」も合わせてインストールすることをおすすめします。

 『Norton AntiVirus2003をご使用前に』

省電力機能

本機では、一定時間マウスやキーボードの操作をしないと、省電力機能が働いて画面表示が消えます。電源ランプが点滅している場合は、スタンバイになっています(購入時の設定)。この場合は電源ボタンを押すと元に戻ります。

 p.80「復帰方法」

デバイスドライバをインストールするときは

デバイスドライバをインストールしたり、周辺機器を接続したりするときに「Windows CD-ROM」が要求されることがあります。このような場合は、添付の「リカバリCD Disc1 (Windows 2000では「リカバリCD」)」をセットしてください。

SBSIの実行について(Windows XPのみ)

「SBSI(ステップバイステップインタラクティブ)」を実行すると、Windows XPの使い方の詳細をデスクトップ上で見ることができます。「SBSI」の実行は、[スタート]-[すべてのプログラム]-[アクセサリ]-[Microsoftインタラクティブトレーニング]-[Microsoftインタラクティブトレーニング]をクリックします。

電源の切り方

本章では、電源の切り方について説明します。



制限

- 電源を切ってから、もう一度入れなおす場合には、HDDなどの動作を安定させるために、20秒程度の間隔を開けてください。
- HDDやFDDのアクセスランプ点灯中にコンピュータの電源を切ると、登録されているデータが破壊されるおそれがあります。
- 本機は電源を切っても、コンピュータ内部には微少な電流が流れています。本機の電源を完全に切るには、電源コンセントから電源プラグを抜いてください。

使い始めるまでの準備

▶ Windows XPの終了と電源の切り方

必ずWindows XPを終了させてから電源を切ります。

- 1 [スタート]—[終了オプション]をクリックします。
- 2 「コンピュータの電源を切る」画面で[電源を切る]をクリックします。
Windows XPが終了し、自動的に電源が切れます。
- 3 接続している周辺機器の電源を切ります。

Windows XP終了時の注意

Windows XPを複数のユーザーが使用している場合に、[終了オプション]—[電源を切る]を選択して電源を切ろうとすると、「ほかの人がこのコンピュータにログオンしています…」と画面に表示されます。この場合は、画面を切り替えて、ログオンしているすべてのユーザーのログオフを行ってください。

▶ Windows 2000の終了と電源の切り方

必ずWindows 2000を終了させてから電源を切ります。

- 1 [スタート]—[シャットダウン]をクリックします。
- 2 [Windowsのシャットダウン]画面で[シャットダウン]を選択し、[OK]をクリックします。
Windows 2000が終了し、自動的にコンピュータの電源が切れます。
- 3 接続している周辺機器の電源を切ります。

▶ 再起動

次のような場合には、Windowsを再起動する必要があります。

- 使用しているソフトウェアで指示があった場合
- Windowsの動作が不安定になった場合

ハードウェアを完全に初期化する場合には、コンピュータの電源を切ってください。

Windowsの再起動方法

Windowsの再起動方法は、次のとおりです。

Windows XP : [スタート]－[終了オプション]－[再起動]をクリック

Windows 2000 : [スタート]－[シャットダウン]－[再起動]を選択

▶ ハングアップしたときは

プログラムがハングアップ(キーボードやマウスからの入力を受け付けず、何も反応しなくなった状態)した場合は、Windowsを再起動します。ハングアップした場合のWindowsの再起動方法は、**Ctrl** + **Alt** + **Delete**を押して応答のないプログラムを終了してから、再起動します。

 p.166「コンピュータ本体の不具合」

Ctrl + **Alt** + **Delete**を押しても反応がない場合は、Windowsを強制終了します。

Windowsの強制終了

何も反応しない場合は、あわてず次のように対処します。

コンピュータの電源スイッチを押す



コンピュータの電源が切れないときは...

コンピュータの電源スイッチを5秒以上押し続ける

これでコンピュータの電源が切れます。



コンピュータの基本操作

キーボードやマウス、FDDの使い方など、コンピュータの基本的な操作方法について説明します。

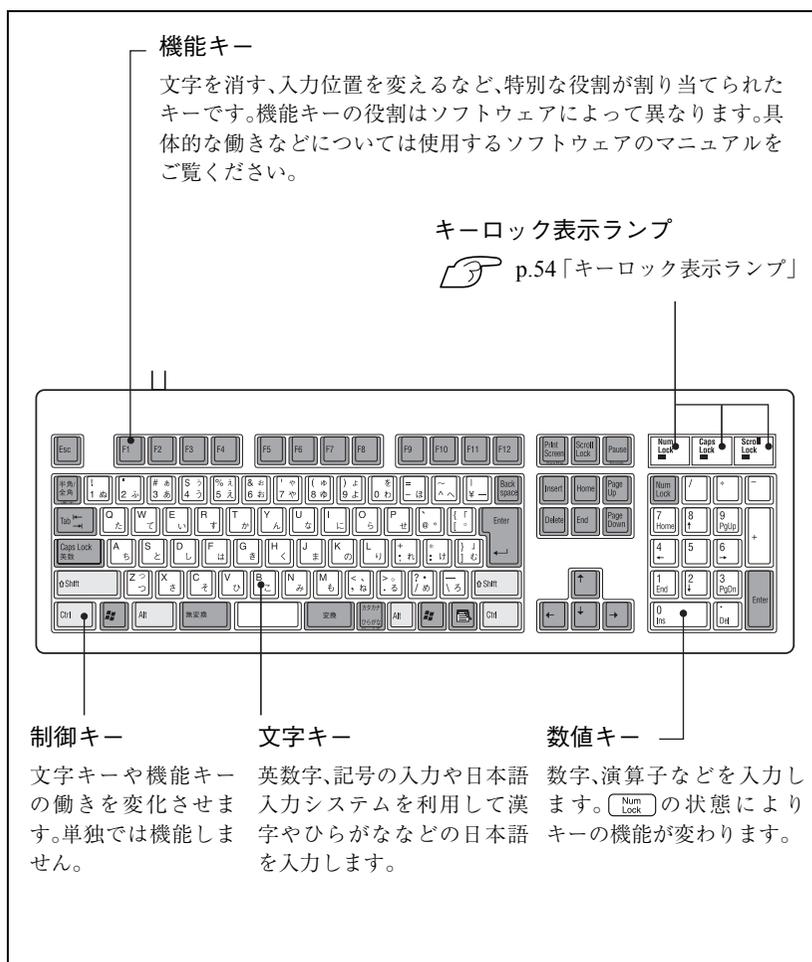
キーボードを使う

本機に標準で添付されているキーボードは、日本語対応109キーボードです。
キーボードの接続方法は、p.28「コンピュータの設置」をご覧ください。

▶ キーの種類と役割

109個のキーには、それぞれ異なった機能が割り当てられています。

入力キー



▶ 文字を入力するには

文字キーを押すとキートップに印字された文字が入力されます。

入力モードによって、入力される文字が異なります。

- 直接入力モード : キートップのアルファベットをそのまま入力します。
- 日本語入力モード
 - ローマ字入力 : キートップのアルファベットでローマ字を入力し、漢字やひらがなに変換します。
 - かな入力 : キートップのひらがなをそのまま入力し、漢字やひらがなに変換します。

入力モードの切り替え

直接入力モードと日本語入力モードの切り替えは、次のキー操作で行います。



日本語入力モードのローマ字入力とかな入力の設定は、日本語入力システムで行います。

▶ 日本語を入力するには

ひらがなや、漢字などの日本語の入力は、日本語入力システムを使用します。

本機には、日本語入力システム「MS-IME」が標準で搭載されています。

MS-IMEの使い方

MS-IMEパネルの主要なボタンの名称と働きは次のとおりです。ボタンをクリックして各設定を行ったりヘルプを参照します。



<Windows XP の場合>



<Windows 2000 の場合>

- ① 入力モード
入力モード(ひらがな、カタカナ、英数字など)を選択します。
- ② ヘルプ
日本語入力の方法が詳しく説明されているので参照してください。
- ③ かなキーロック
日本語入力モードの切り替えを行います。
ボタンが押されていない状態 : ローマ字入力
ボタンが押されている状態 : かな入力

MS-IME以外の日本語入力システムを使用する場合は、そのシステムに添付されているマニュアルをご覧ください。

▶ キーロック表示ランプ

キーボード右上の3つのランプは、キーボードの入力状態を表示しています。

Num Lock	役割 : 数値キーの状態を切り替え 切り替え :  を押します。 点灯時 : 数値を入力 消灯時 : カーソルの位置を制御 数値キーの    などが使えます。
Caps Lock	役割 : アルファベットの太文字/小文字の切り替え 切り替え :  +  を押します。 点灯時 : 太文字を入力 消灯時 : 小文字を入力
Scroll Lock	役割 : ソフトウェアによって異なります。 切り替え :  を押します。

▶ そのほかのキー

Windowsキー、アプリケーションキーを使用することにより、Windowsをより効率的に使用することができます。

キー名	機能
 (Windowsキー)	画面左下の[スタート]をクリックするのと同じ働きをします。
 (アプリケーションキー)	マウスの右クリックと同じ働きをします。 ソフトウェアによっては、機能が異なる場合があります。

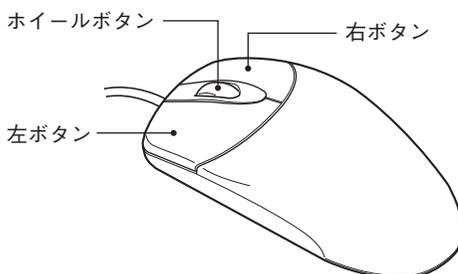
マウスを使う

本機に標準で添付されているマウスには、左右のボタンのほかにホイールボタンがあります。

▶ マウスの操作



アプリケーションソフトによっては、ホイールボタンが使用できない場合があります。



マウスの基本的な操作は、次のとおりです。

- クリック : マウскарソルを画面上の対象に合わせて、左ボタンを1回カチッと押します。
- ダブルクリック : マウскарソルを画面上の対象に合わせて、左ボタンを2回続けてカチカチッと押します。
- ドラッグアンドドロップ : マウскарソルを画面上の対象に合わせて左ボタンを押したままの状態でもうすを移動し、離します。
- スクロール : ホイールボタンを指先で回転させます。縦スクロール操作を行うことができます。

FDD(フロッピーディスクドライブ)を使う

FDDは、FDにデータを書き込んだり、FDからデータを読み出したりする装置です。FDには、記憶できる容量の違いによって2HD、2DDの種類があります。内蔵FDDでは、次のどちらのFDも使用できます。

- 3.5型2HD: 1.44MBの記憶容量のメディアとして使用できます。
- 3.5型2DD: 720KBの記憶容量のメディアとして使用できます。



制限

FDは消耗品です。読み書きを繰り返すと、磁性面が摩耗して読み取りエラーや書き込みエラーが発生する原因になります。このような場合には新しいFDと交換してください。

▶ FDのセットと取り出し

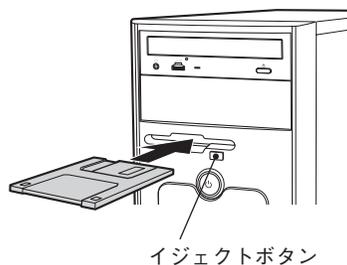


制限

- FDDアクセスランプ点灯中にFDを取り出したり、コンピュータの電源を切らないでください。
- コンピュータの電源を切る場合やコンピュータを再起動する場合は、必ずFDを取り出してください。

セット方法

- 1 ラベル面を上にして、アクセスカバー側からFDDに「カチッ」と音がするまで押し込みます。
- 2 正しくセットされると、イジェクトボタンが飛び出します。

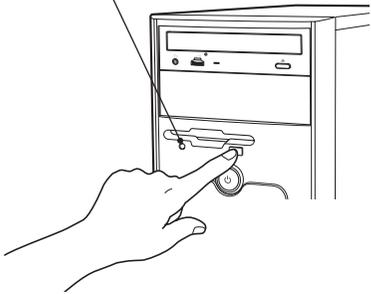


イジェクトボタン

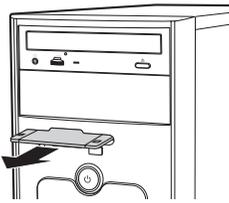
取り出し方法

1 FDDアクセスランプが点灯していないことを確認し、イジェクトボタンを押します。

FDD アクセスランプ



2 FDが飛び出しますので、静かに引き抜きます。



▶ FDのフォーマット

フォーマットとは、データを書き込むための領域を作成することで、初期化ともいいます。新しいFDを使用する場合や、登録されているデータをすべて消去する場合にフォーマットします。メディアの種類に合ったフォーマットを行わないと、データの読み書きエラーが発生します。



- FDをフォーマットすると、登録されているデータはすべて消失します。フォーマットする前に、重要なデータが登録されていないことを確認してください。
- Windows XPでは、720KBのFDをフォーマットできません。

フォーマット方法

Windowsのフォーマットユーティリティを使ったFDのフォーマット方法は、次のとおりです。



Windows 2000ではWindowsのフォーマットユーティリティを起動したまま、未フォーマットFDを2枚以上連続してフォーマットできません。未フォーマットFDを2枚以上連続してフォーマットする場合は、FDを入れかえて下記手順3～6を繰り返してください。

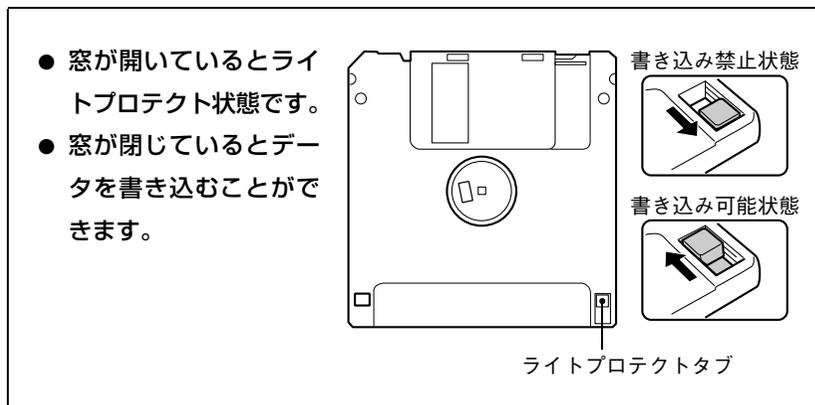
- 1 FDDにFDをセットします。
- 2 [スタート]—[マイコンピュータ]をクリックします。(Windows 2000では、「マイコンピュータ」をダブルクリックします。)
- 3 [3.5インチFD]を右クリックし「フォーマット」をクリックします。
- 4 フォーマットの種類などを設定して[開始]をクリックします。「警告」が表示された場合は[OK]をクリックします。
- 5 「フォーマットが完了しました」と表示されたら、[OK]をクリックします。
続けて別のFDをフォーマットする場合は、FDを入れかえて手順4～5を繰り返します。
- 6 [閉じる]をクリックし、フォーマットユーティリティを閉じます。

▶ データのバックアップ

大切なデータは別のFDに登録して予備を作成(バックアップ)しておきます。万一データを消失してしまった場合でも、予備のディスクからデータを複写して使用できるので安心です。

▶ ライトプロテクト(書き込み禁止)

ライトプロテクトをしたFDには、データの書き込み、削除、フォーマットができません。重要なデータを登録したFDは、ライトプロテクトをしておく心安心です。ライトプロテクトは、FD裏面のライトプロテクトタブで操作します。



HDD(ハードディスクドライブ)を使う

本機には、HDDが装着されています。HDDは、大容量のデータを高速に記録する記憶装置です。一般的には、FDのように交換して使用することはできません。



制限

- 誤った操作で重要なデータを破壊しないように次の点に注意してください。
 - ・ HDDを分解しないでください。
 - ・ HDDアクセスランプ点灯中に、コンピュータの電源を切ったり、再起動したりしないでください。アクセスランプ点灯中は、コンピュータがHDDに対してデータの読み書きを行っています。この処理を中断すると、HDD内部のデータが破壊されるおそれがあります。
- HDDが故障した場合、HDDのデータを修復することはできません。
- 本機を落としたり、ぶつけたりしてショックを与えるとHDDが破壊される恐れがあります。ショックを与えないように注意してください。

▶ データのバックアップ

HDD内の重要なデータは、別のメディアに予備を作成(バックアップ)しておきます。万一HDDの故障などでデータが消失してしまった場合でも、バックアップを取ってあれば、被害を最低限に抑えることができます。

バックアップには、次のような方法があります。

- 重要なファイルを作成したら、必ずFDなど別のメディアにも登録しておく。
- 専用のバックアップソフトウェアを使用して、複数のファイルを一度にバックアップする。

▶ HDDのフォーマット

HDDを増設・交換するなどして初めて使用する場合には、そのHDDの領域作成とフォーマットが必要です。また、登録されているデータをすべて消去する場合にもフォーマットします。

 p.190「HDD領域の作成」

購入時に装着されているHDDには、ソフトウェアがあらかじめインストールされていますので、フォーマットの必要はありません。



制限

すでにデータが登録されているHDDをフォーマットすると、そのHDDに登録されていたすべてのデータが消失します。フォーマットする前に、重要なデータが登録されていないことを確認してください。

HDDの増設

本機に新しいHDDを増設して使用する場合は、HDDを装着後に、HDDの領域作成とフォーマットが必要です。

 p.190「HDD領域の作成」

HDDの装着方法についてはp.87「システムの拡張」をご覧ください。



制限

Windows 2000では137GB以上のHDDを認識することができません。

購入時のHDD領域の設定について

購入時のHDD領域は、1台のHDDのすべての領域を1つの領域として確保し、NTFSでフォーマットしています。

1台目のHDD領域を変更したい場合は、Windowsの再インストールが必要です。

 p.150「Windowsのインストール」

2台目以降のHDD領域を変更したい場合は、Windowsの「ディスクの管理」で行います。

 p.190「HDD領域の作成」

CD-ROMドライブを使う

CD-ROMドライブは、データCDのほかに、音楽CD、ビデオCDやフォトCDなどを使用するための装置です。これらのCD-ROMの中には、別途専用ソフトウェアが必要なものもあります。

CD-ROMメディアの種類によっては、再生中に振動することがありますが故障ではありません。

本機にはCD-ROMドライブの代わりに、CD-R/RWドライブなどの5.25型ドライブが装着されているモデルがあります。メディアのセットや取り出しなどの具体的な操作方法はCD-ROMドライブと同じです。

各ドライブの詳しい使用方法を記載しているPDFマニュアルは、デスクトップ上に登録されています。

▶ CD-ROMのセットと取り出し

機種によりCD-ROMドライブの形状が異なりますが、基本的な操作は同じです。



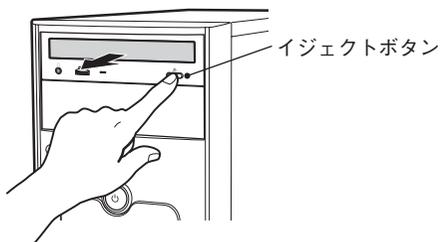
制限

- CD-ROMアクセスランプ点灯中にCD-ROMを取り出したり、コンピュータの電源を切らないでください。
- 必要な場合以外は、ディスクトレイは閉じておいてください。

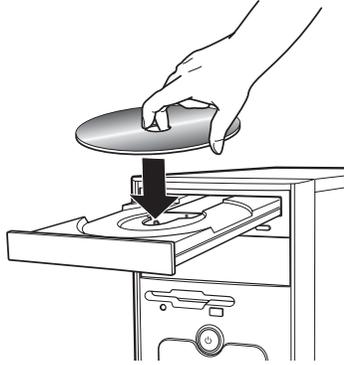
セット方法

1

イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを開きます。



- 2** 印刷面を上にしてCD-ROMをディスクトレイのくぼみの上に載せます。



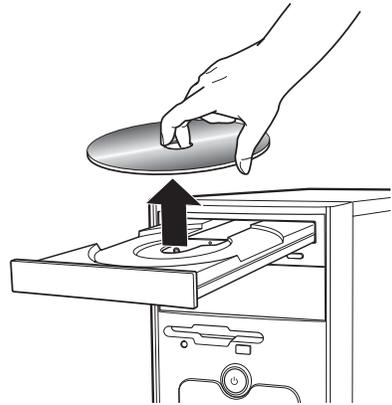
- 3** イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを閉じます。

取り出し方法

- 1** CD-ROMアクセスランプが点灯していないことを確認し、イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを開きます。

- 2** CD-ROMをディスクトレイから取り出します。

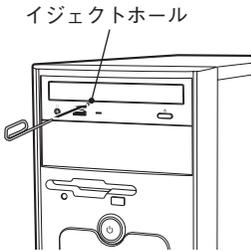
- 3** イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを閉じます。



▶ 強制的なCD-ROMの取り出し

以下のような場合には、強制的にCD-ROMを取り出すことができます。

- CD-ROMドライブが故障して、CD-ROMが取り出せない場合
- CD-ROMをセットしたまま、コンピュータの電源を切ってしまった場合

- 1 コンピュータの電源が入っている場合は、電源を切ります。
 p.47「電源の切り方」
- 2 イジェクトホールに丈夫な先の細いもの(ゼムクリップを引きのばしたようなもの)を差し込みます。
機種によりイジェクトホールの位置が異なります。

- 3 ディスクトレイが少し飛び出します。そのまま手でまっすぐ引き出します。

MOドライブを使う

(MOドライブ搭載モデルのみ)

MOドライブは、MOにデータを書き込んだり、MOからデータを読み出したりする装置です。

MOは、FDのように携帯性にも優れており、画像ファイルなど大容量データやプログラムの登録、HDDのバックアップなどに利用します。本章とあわせてMOドライブに添付のマニュアルもご覧ください。

▶ MOのセットと取り出し



- イジェクトボタン(アクセスランプ)点灯中にMOを取り出したり、コンピュータの電源を切らないでください。
- コンピュータの電源を切る場合は、必ずMOを取り出してください。

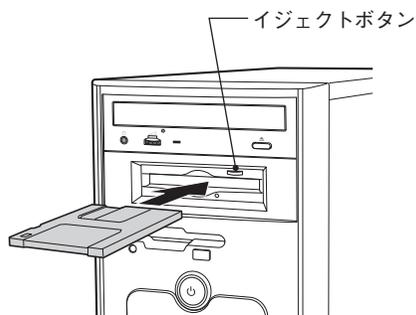
セット方法

1

MOの文字が印刷されているシャッタ面を上にして、MOドライブに「カチッ」と音がするまで静かに押し込みます。

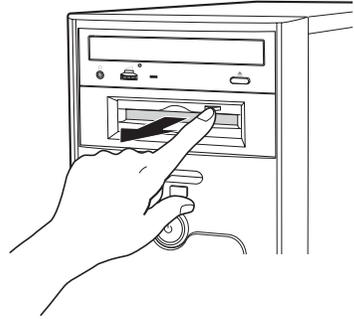
2

イジェクトボタンが点滅し、消灯すればMOのセットは完了です。



取り出し方法

- 1 イジェクトボタンが点灯していないことを確認し、イジェクトボタンを押します。



- 2 MOが少し飛び出しますので、まっすぐに引き抜きます。

▶ MOのフォーマット

フォーマットとは、データを書き込むための領域を作成することで、初期化ともいいます。新しいMOを使用する場合や登録されているデータをすべて消去する場合にフォーマットします。

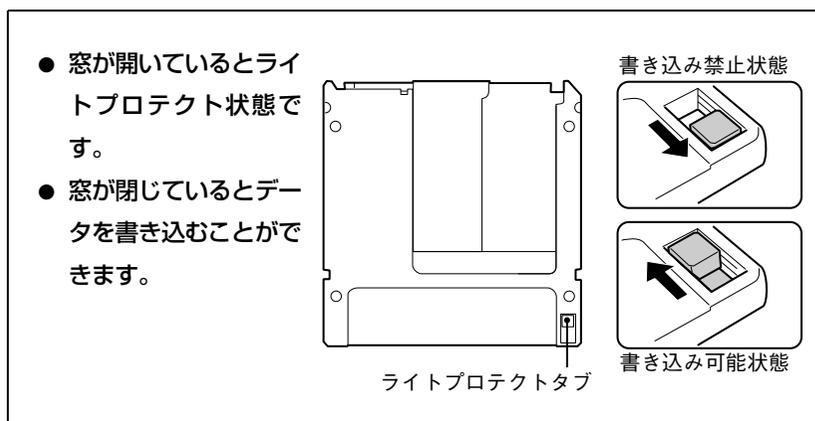


MOをフォーマットすると、登録されているデータはすべて消失します。フォーマットする前に、重要なデータが登録されていないことを確認してください。

▶ ライトプロテクト(書き込み禁止)

ライトプロテクトしたMOには、データの書き込み、削除、フォーマットができません。重要なデータを登録したMOは、ライトプロテクトをしておく心安心です。

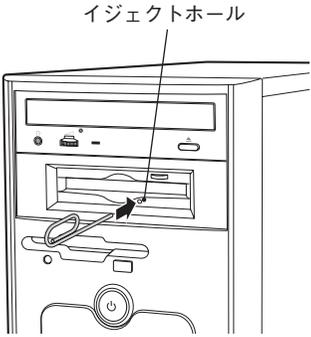
ライトプロテクトは、MO裏面のライトプロテクトタブで操作します。



▶ 強制的なMOの取り出し

以下のような場合には、強制的にMOを取り出すことができます。

- MOドライブが故障して、MOが取り出せない場合
- MOをセットしたまま、コンピュータの電源を切ってしまった場合

- 1 本機の電源が入っている場合は、電源を切り、約10秒程度待ちます。
これはMOドライブのモータが停止するのを待つためです。
- 2 イジェクトホールに丈夫な先の細いもの(ゼムクリップを引きのばしたようなもの)を差し込みます。
機種によりイジェクトホールの位置が異なります。
- 3 内部のロックが外れ、MOが少し飛び出します。MOをそのまま、まっすぐに引き抜きます。

解像度や表示色を変更する

本機のメインボード上にはディスプレイ機能が搭載されています。
本章では、メインボード上のディスプレイ機能の表示に関する各種設定方法について説明しています。
ビデオボードを同時購入された場合は、ビデオボードに添付のマニュアルをご覧ください。



参考

セーフモードでの起動

ディスプレイの設定が正しくない場合や、本機のディスプレイ機能では表示できない解像度を選択した場合、Windowsが再起動したときに画面が乱れる、何も表示されないなどの現象が起こることがあります。このような場合は、セーフモードで再起動して再設定を行ってください。

 p.173「ディスプレイの不具合」

▶ 表示に関する各種設定

画面表示に関する設定は「画面のプロパティ」画面の「設定」タブで行います。「画面のプロパティ」画面は次の場所にあります。

Windows XP : [スタート]—[コントロールパネル]—[デスクトップの表示とテーマ]—[画面解像度を変更する]

Windows 2000 : [スタート]—[コントロールパネル]—[画面]



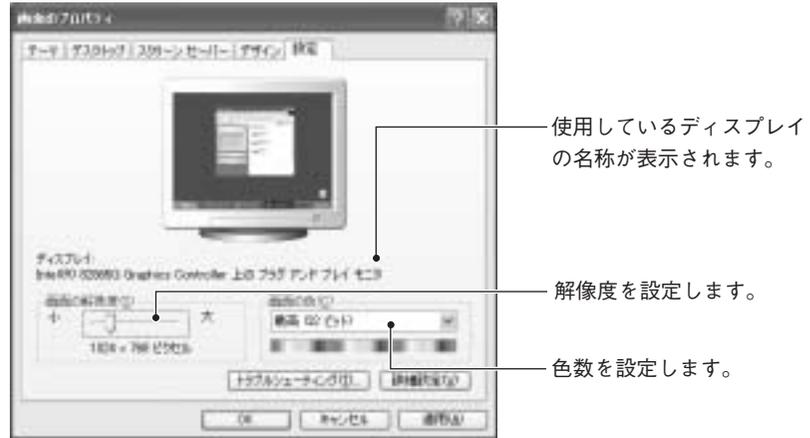
表示装置に関する設定を行います。

設定値変更後にクリックします。確認のメッセージが表示されます。

<Windows XPの場合>

▶ 解像度や表示色を変更するには

解像度と表示色は「設定」タブで変更します。



使用しているディスプレイの名称が表示されます。

解像度を設定します。

色数を設定します。

<Windows XPの場合>

表示できる解像度と表示色

本機のディスプレイ機能で表示可能な解像度と表示色は、次のとおりです。



- 本機では、次の一覧表以外の設定を選択することができますが、それらの設定に関しては保証していません。
- 接続しているディスプレイによっては正常に表示できない解像度や表示色もあります。
- 解像度や、表示色が高いと、動画ソフトなどを再生するとき、正常に表示できないことがあります。そのような場合は、解像度または表示色を下げてみてください。

Windows XPの場合

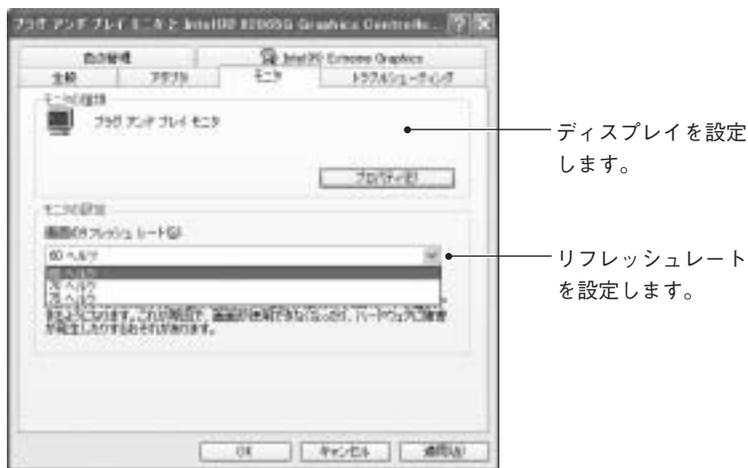
解像度 \ 表示色	中 (16ビット)	最高 (32ビット)
800×600ドット	○	○
1024×768ドット	○	○
1280×1024ドット	○	○
1600×1200ドット	○	○

Windows 2000の場合

解像度 \ 表示色	256色	High Color (16ビット)	True Color (32ビット)
640×480ドット	○	○	○
800×600ドット	○	○	○
1024×768ドット	○	○	○
1280×1024ドット	○	○	○
1600×1200ドット	○	○	○

▶ 表示装置に関する設定

画面のプロパティの「設定」タブ→[詳細設定](Windows 2000では[詳細])→「モニタ」タブでは次の設定を行うことができます。



<Windows XPの場合>

ディスプレイの設定

通常、接続しているディスプレイは自動的に検出されて設定されますが、接続しているディスプレイによっては正しく設定されない場合があります。その場合は[プロパティ]をクリックして設定を行ってください。詳しくは、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

リフレッシュレートの設定

CRTディスプレイを使用している場合に、画面がちらつく、文字がにじむといった現象が起こるときは、リフレッシュレートを上げると問題が解決することがあります。

省電力機能を使う

省電力機能を利用すれば、コンピュータを使用していない間、ディスプレイの電源を切ったり、省電力モードに移行して、消費電力を抑えることができます。



- 周辺機器を接続している場合や、アプリケーションを起動している場合などに、省電力機能が動作しないことがあります。
- 次の状態でスタンバイまたは休止状態に入ると、正常に復帰できない、接続が切断される、誤動作するなどの現象が起こることがあります。
 - ・ NetWare サーバーを利用している状態や NetBEUI を使用してネットワークに接続している状態
 - ・ ネットワーク上のファイルなどを開いたままの状態
 - ・ サウンド機能を使って録音・再生しているとき
 - ・ 電源管理機能との相性が良くない周辺機器を接続し動作させている場合
 - ・ アプリケーションを起動した状態または動作中

このような場合は、下記のいずれかの対処方法を取ってください。

- ・ 切断後に再度ログオンする (NetWare サーバーを利用している場合のみ)
- ・ 再起動する
- ・ 省電力モードを無効にする

▶ 省電力機能の種類

省電力機能には、次の3つのモードがあり、状況に応じて使い分けることができます。

- HDD/ディスプレイの電源を切る

HDDやディスプレイの電源を切ります。省電力の効果は、スタンバイより低いですが、通常モードにすぐに復帰できます。

- スタンバイ

作業内容をメモリに保持した状態でコンピュータの動作を中断します。そのため電力はほとんど消費されません。ディスプレイの電源が切れ、電源ランプは緑色に点滅します。

- 休止状態

作業内容をHDDに保存して電源を切ります。電源スイッチを切った状態と同様に電力を消費しません。通常モードへの復帰には多少時間がかかります。

休止状態を有効にするには設定が必要です。

 p.76「休止状態を有効にする」



制限

- スタンバイを実行しているときに電源コードが抜けたりすると、メモリへの電源供給が切れてしまい、次に本機の電源を入れたときに正常に起動しません。この場合は、本機の電源を切ってからもう一度入れ直してください。
- スタンバイが正常に動作しない場合は、相性の良くない周辺機器などを使用している可能性があります。その場合は、「BIOS Setup ユーティリティ」の「Power」メニュー画面－「Suspend to RAM」を「Disabled」に設定してください。「Disabled」にすると、スタンバイ実行時作業内容をメモリに保存した状態で、不必要な電源が切れます。電力消費は通常モードの約半分になります。

電源ランプの表示

省電力モードの状態は、電源ランプの点灯または点滅によって確認できます。

動作状態	電源ランプの表示
通常モード	緑点灯
HDD/ディスプレイの電源を切る	緑点灯
スタンバイ	緑点滅
休止状態	消灯
電源切断時	消灯

休止状態を有効にする

「休止状態」タブの「休止状態を有効にする (Windows 2000の場合は「休止状態をサポートする」)」にチェックを付けると休止状態が有効になります。

休止状態の設定は、次の画面で行います。

Windows XP : [スタート]—[コントロールパネル]—[パフォーマンスとメンテナンス]—[電源オプション]—[休止状態]タブ

Windows 2000 : [スタート]—[設定]—[コントロールパネル]—[電源オプション]—[休止状態]タブ



〈Windows XPの場合〉

▶ 実行方法

省電力機能を実行するには、大きく分けて2つの方法があります。万一正常に復帰できない場合に備え、省電力機能を実行する前に使用中のデータ(作成中の文書など)を保存しておくことをおすすめします。

①時間経過で実行

設定した時間を超えてコンピュータを使用しないと省電力モードに移行します。

②直ちに実行

席を外すときなどに、強制的に省電力モードに移行します。

省電力に関する各種設定は、次の画面の各タブで行います。

Windows XP : [スタート]—[コントロールパネル]—[パフォーマンスとメンテナンス]—[電源オプション]

Windows 2000 : [スタート]—[設定]—[コントロールパネル]—[電源オプション]

時間経過で実行

省電力モードに移行する時間の設定は、「電源設定」タブで行います。



設定した時間を超えて何も操作しないと、各モードに移行します。

< Windows XP の場合 >



購入時の設定

Windowsの再インストールを行うと、「電源設定」タブの設定値が変更されます。購入時の設定は次のとおりです。

- ・モニタの電源を切る:「なし」
 - ・システムスタンバイ:「20分後」
 - ・HDDの電源を切る:「なし」
-

直ちに実行

次の方法で、スタンバイ、または休止状態を強制的に実行します。

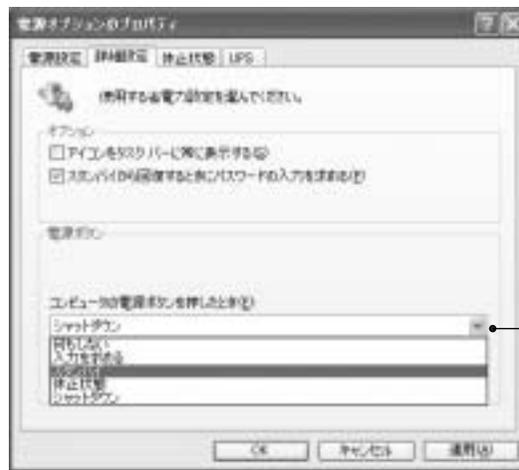
- スタートボタンから実行する

Windows XP : [スタート]—[終了オプション]から選択実行します。

Windows 2000 : [スタート]—[シャットダウン]から選択実行します。

- 電源スイッチを押して実行する

電源スイッチを押したときにどのモードに入るかを、あらかじめ「詳細設定」タブで設定しておきます。



電源スイッチを押したときの動作を設定します。

< Windows XP の場合 >

復帰方法

省電力モードから復帰して通常モードに戻る方法は、次のとおりです。

省電力モード	電源ランプ	復帰方法
HDD/ディスプレイの電源が切れている状態	緑点灯	キーボードやマウスを操作します(誤って電源スイッチを押さないでください)。
スタンバイ	緑点減	電源スイッチを押します。
休止状態	消 灯	電源スイッチを押します。

「BIOS Setup ユーティリティ」の「POWER」メニュー画面-「Suspend to RAM」を「Disabled」に設定してスタンバイを実行している場合は、キーボードやマウスの操作でスタンバイから復帰します(誤って電源スイッチを押さないでください)。

そのほかの機能

▶ サウンド機能

本機のメインボード上には、サウンド機能が搭載されています。サウンドボードを同時購入された場合は、サウンドボードに添付のマニュアルもあわせてご覧ください。

スピーカを使用する

本機で音を鳴らすにはスピーカを接続する必要があります。本機背面のライン出力コネクタにアンプ内蔵スピーカを接続してください。サウンドボードをお使いの場合は、サウンドボードのライン出力コネクタに接続します。位置はサウンドボードに添付のマニュアルで確認してください。

音を鳴らしたり、録音したりするには

Windows標準のサウンドユーティリティを使用します。音楽CD、WAVEファイル、MIDIファイルの再生や、WAVEファイルの作成なども可能です。サウンドユーティリティは、[スタート]-「(すべての)プログラム」-「アクセサリ」-「エンターテイメント」フォルダに登録されています。

Windows使用時に音が鳴らない、音が大きすぎるといった場合は、次の方法で音量を調節します。

画面右下のタスクバーに表示されている「スピーカ」アイコンをクリックすると「ボリュームコントロール」が表示されます。つまみを上下にドラッグして調節します。



サウンドボードを使用する

本機では、メインボード上のサウンド機能を使用せずに、サウンドボードを装着して使用することができます。サウンドボードを使用する場合は、「BIOS Setupユーティリティ」でメインボード上のサウンド機能を無効に設定してください。

サウンドボードを同時購入された場合は、「Disabled」(無効)に設定されています。

 p.132 「Advancedメニュー画面」-「Onboard Devices Configuration」
-「Onboard AC'97 Audio」

▶ ネットワーク機能

本機のメインボードには、ネットワーク機能が搭載されています。ネットワーク機能を使用して、ネットワークを構築するには、ほかのコンピュータと接続するために、ネットワークケーブルやハブ(サーバ)などが必要です。そのほかに、Windows上でネットワーク接続を行うのに必要となるプロトコルの設定なども必要になります。ネットワークの構築は、ネットワーク管理者の指示に従ってください。



- NetWareサーバを利用している場合や NetBEUIを使用してネットワークに接続している場合に、省電力モードに入ると、省電力モードからの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。
このような場合は次のいずれかの方法をとってください。
 - ・ 切断後に再度ログオンする。(NetWareのみ)
 - ・ 再起動する。
 - ・ 省電力モードを無効にする。
- ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力モードに移行すると、正常に通常モードへ復帰できない場合があります。

おもな機能について

本機では、ネットワークを構築して接続環境を整えると、Wakeup On LANやリモートブートなどの機能を使用できます。

● Wakeup On LAN

Wakeup On LANを使用すると、電源切断時にネットワークからの信号により本機を復帰させることができます。ただし、Windowsを正常に終了した状態でのみ使用可能です。Wakeup On LANの詳細な使用方法は、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

● リモートブート

リモートブートを使用すると、コンピュータ側のHDDにOSがインストールされていない場合でも、ネットワークを介して、サーバー上からOSをインストールすることができます。

リモートブートを行う場合は、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

ネットワークボードを使用する

本機では、メインボード上のネットワーク機能を使用せずに、ネットワークボードを装着して使用することができます。ネットワークボードを使用する場合は、「BIOS Setupユーティリティ」でメインボード上のネットワーク機能を無効に設定してください。

ネットワークボードを同時購入された場合は「Disabled」(無効)に設定されています。

 p.132 「Advancedメニュー画面」-「Onboard Devices Configuration」
-「Onboard LAN」

▶ USBコネクタ

本機にはUSB2.0に対応したUSBコネクタが、前面に2個、背面に4個用意されています。USBコネクタにはUSB対応の機器を接続します。6個のUSBコネクタは同じ機能ですので、どのコネクタを使用してもかまいません。

USB装置の接続

USBコネクタの抜き差しは、本機の電源が入った状態で行えます。ただし、タスクバーにアイコン(「PCカード」アイコンなど)が表示される場合は、Windows上で終了作業が必要です。また、USB機器によっては、専用のデバイスドライバが必要な場合があります。詳しくは、接続するUSB機器に添付のマニュアルをご覧ください。

USB2.0の転送速度

USB2.0のデータの転送速度は、最大480Mbpsです。USB2.0コントローラは、USB2.0コネクタに接続するすべての周辺機器で共用します。そのため、転送速度は接続する周辺機器が増えると低下します。



光学式USBマウスなどを使用する場合は

コンピュータの電源コードが接続されている状態では、常にUSBポートに5Vの電力が供給されています。たとえば、光学式のUSBマウスなどを接続しておくと、コンピュータの電源を切った状態でも、マウスが光り続けます。これは、製品の仕様で、故障ではありません。

▶ パラレルコネクタ

本機背面にはパラレルコネクタが1個用意されています。

パラレルコネクタには、プリンタやスキャナなどを接続します。本機では、パラレルポートの機能や使用するアドレスを変更することができます。通常はパラレルポートの設定を変更する必要はありません。使用する周辺機器で指示がある場合には、「BIOS Setupユーティリティ」で変更してください。

 p.132 「Advancedメニュー画面」-「Onboard Devices Configuration」

▶ シリアルコネクタ

本機背面にはシリアルコネクタが1個用意されています。

シリアルコネクタには、シリアルマウスや外付けのFAXモデム、TA(ターミナルアダプタ)などを接続します。本機では、シリアルポートで使用するアドレスや割り込み信号を変更することができます。通常は、シリアルポートの設定を変更する必要はありません。使用する周辺機器で指示がある場合には、「BIOS Setupユーティリティ」で変更してください。

 p.132 「Advancedメニュー画面」-「Onboard Devices Configuration」

▶ ハイパースレッディング機能(Windows XP)

Pentium4プロセッサを搭載しているモデルは、ハイパースレッディングに対応しています。この機能は、OSにひとつのCPUを仮想的に2つに見せかけることで、異なる2つの命令を同時に実行することができるものです。ハイパースレッディング機能に対応したアプリケーションでは、処理性能が向上します。

ハイパースレッディング機能の有効/無効は「BIOS Setupユーティリティ」で設定することができます。

 p.132 「Advancedメニュー画面」-「CPU Configuration」-「Hyper Threading Technology」

▶ コンピュータウィルスの検索・駆除

本機には、コンピュータウィルスを検出し、駆除するためのソフトウェア「Norton AntiVirus2003」が添付されています。購入時には、「Norton AntiVirus2003」がインストールされていませんので、インストールしてください。

インストール方法や、詳しい使い方は、『Norton AntiVirus2003をご使用前に』をご覧ください。

システムの拡張

コンピュータに内蔵オプション装置を装着して機能を拡張する方法を説明します。

拡張できる装置

本機には、次の各部に装置を増設・交換して機能を拡張することができます。ただし、購入時にいくつかの装置がすでに装着されているため、実際に拡張できる装置の数は異なります。

5.25型ドライブベイ

5.25型の装置(CD-ROMドライブなど)やマウントフレームを取り付けたMOドライブなどを2基まで装着することができます。

 p.104 「5.25型ドライブベイへの装着」

DIMMソケット

DIMMソケットが2組4本用意されています。内蔵メモリを2GBまで拡張することができます。

 p.93 「DIMMの増設」

拡張スロット

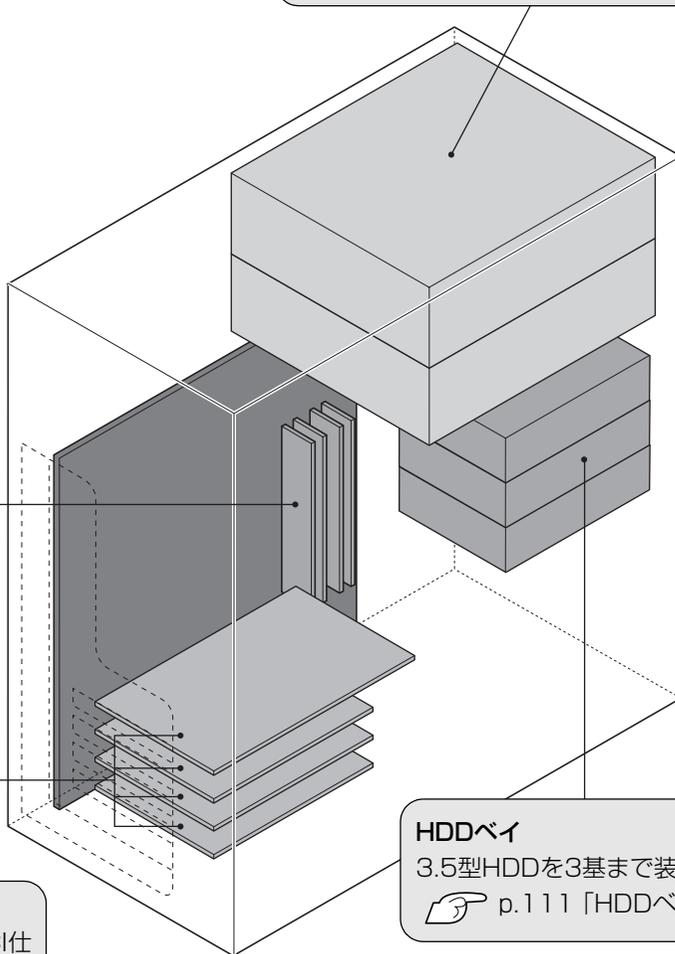
AGP仕様の拡張ボードを1枚、PCI仕様の拡張ボードを3枚まで装着できます。

 p.101 「拡張ボードの取り付け・取り外し」

HDDベイ

3.5型HDDを3基まで装着できます。

 p.111 「HDDベイへの装着」



作業時の注意

コンピュータ内部に装置を装着する場合は、必ず以下の点を確認してから作業を始めてください。



- 電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや感電・火災の原因となります。



- DIMM やドライブ装置の増設・交換、拡張ボードの装着などは、本製品の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、本製品の内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所(ぐらついた机の上や傾いた所など)で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



本機は電源を切っても、コンピュータ内部に微少な電流が流れています。必ず電源コンセントから電源プラグを外してください。

- 取り付ける装置に添付されているマニュアルを必ず参照してください。
- コンピュータおよび接続している周辺機器の電源を切ってください。
- コンピュータ内部のケースや基板には突起があります。装着作業の際には、けがをしないよう注意してください。
- 作業直前には、金属のものに触れるなどして、静電気を逃がしてから、作業を行ってください。
- DIMM、拡張ボードの端子部やコネクタ部に触れないでください。

拡張時の準備作業

装置の拡張作業を行う場合は次の準備作業が必要です。各装置の拡張手順に従って、下記の作業を必要に応じて行ってください。



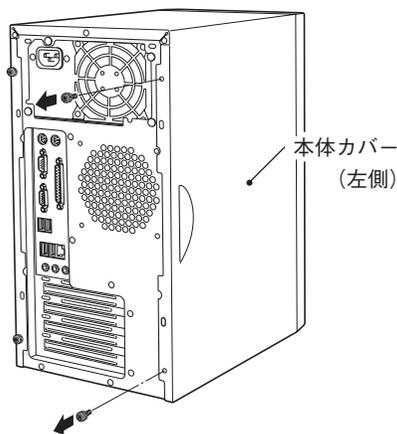
- 電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。感電・火傷の原因となります。

▶ 本体カバーの取り外し・取り付け

本機の内部に装置を装着する場合は、本体カバーを外す必要があります。本体カバーは、次の手順で取り外し・取り付けを行います。ここでは左側の本体カバーを取り外す手順を説明しています。右側のカバーを取り外す場合も同様の手順で行ってください。

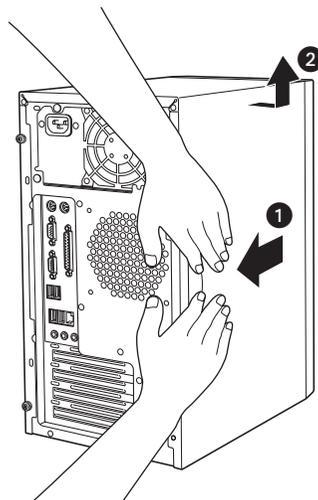
取り外し

- 1 コンピュータ本体の電源を切ります。
作業直前までコンピュータが動作していた場合は、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2 コンピュータ背面に接続しているケーブル類をすべて外します。
- 3 本体左背面のネジ(2本)を外します。



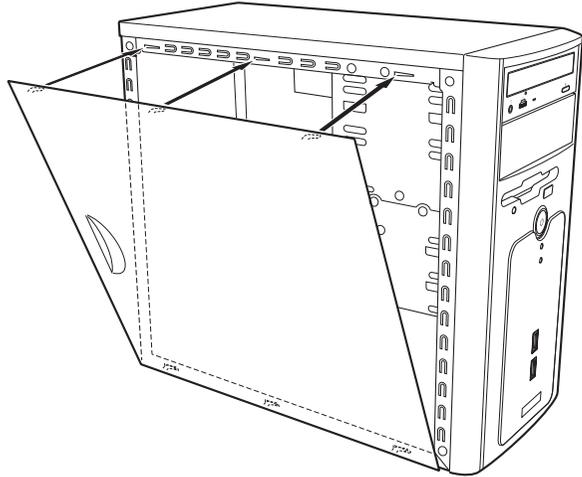
4 本体カバー(左側)を取り外します。

- ① 本体カバーを本体背面側にスライドさせます。
- ② 本体カバーを上を引き上げます。

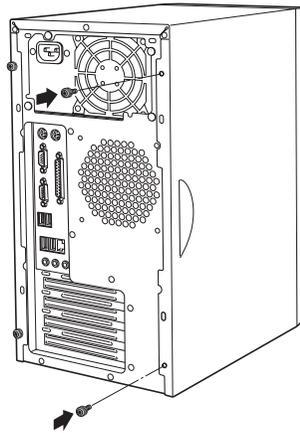


取り付け

- 1 本体カバーの突起を本体側面の穴に合わせます。
下側の突起(3個)を合わせてから上側の突起(3個)を合わせます。



- 2 本体カバーを前面側にスライドさせます。
- 3 ネジ(2本)で本体カバーを固定します。



DIMMの増設

本機で、使用可能なDIMM(メモリ)の仕様とDIMMの取り付け方法について説明します。

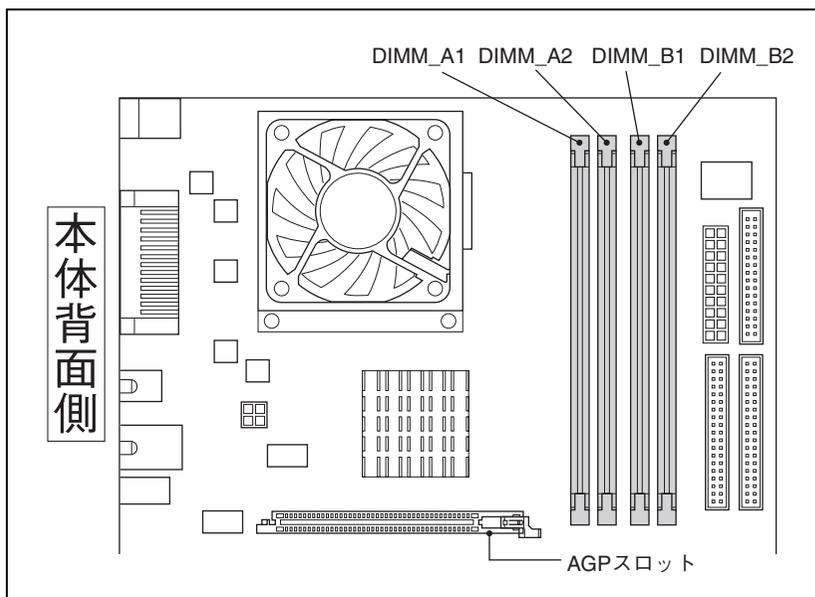
DIMMの仕様

本機には、2組4本のDIMMソケットが用意されています。DIMMを2枚単位で装着して、最大2GB(512MB×4)まで拡張できます。

本機は、同一容量のメモリを2枚1組で使用することにより、高速なメモリ転送速度を実現しています。

DIMMは、DIMM_A1、DIMM_B1ソケットから取り付けます。購入時は、DIMM_A1およびDIMM_B1ソケットにはあらかじめDIMMが取り付けられています(購入時の仕様により異なります)。

メインボード上のDIMMソケットの位置は、次のとおりです。



DIMMを増設する場合は、下記仕様と一致するDIMMを、弊社のオプション一覧より選択してください。

Pentium4搭載モデル

- ・ PC3200 DIMM(DDR400 SDRAM使用、184ピン)
- ・ メモリ容量 256MB、512MB
- ・ Non ECC

Celeron搭載モデル

- ・ PC2700 DIMM(DDR333 SDRAM使用、184ピン)
- ・ メモリ容量 128MB、256MB、512MB
- ・ Non ECC

* 今後、新しい容量のメモリを取り扱う場合があります。
最新のオプション一覧は、ホームページに掲載しています。ホームページのアドレスは『サポートサービスのご案内』または『サポートと保守サービスのご案内』をご覧ください。

DIMM装着時の制限

本機のDIMMソケットにDIMMを装着する場合、次のような制限があります。

- 必ず、同一容量のDIMMを2枚1組で装着してください。
なお、DIMMを4枚装着する場合、2組のDIMMソケットに装着するDIMMは、1組目と2組目の容量が異なっても問題ありません。
- DIMMを装着する順番とDIMMソケットの組み合わせは、次のとおりです。

DIMM装着順	DIMMソケット
1	DIMM_A1ソケット+DIMM_B1ソケット
2	DIMM_A2ソケット+DIMM_B2ソケット

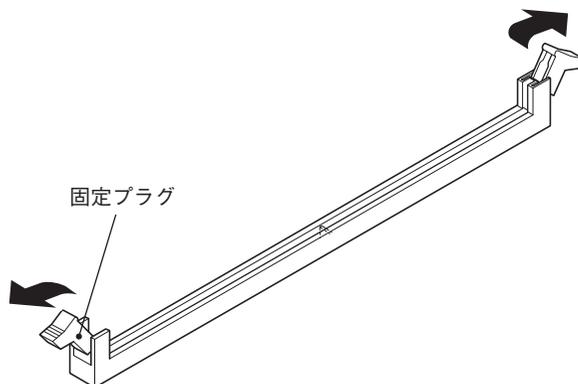
▶ DIMMの取り付け・取り外し

作業を始める前にp.89「作業時の注意」を必ずお読みください。

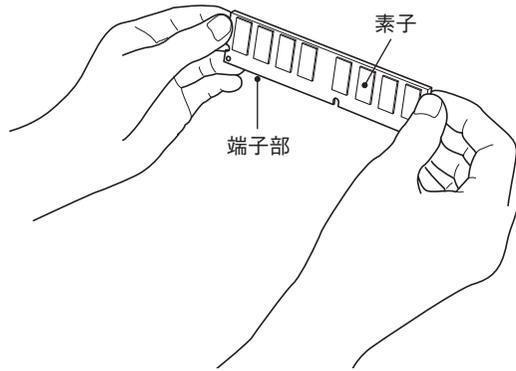
DIMMの取り付け作業をする場合は、コンピュータを横置きにしてください。

取り付け

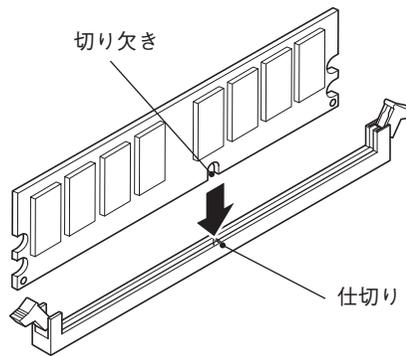
- 1** コンピュータの電源を切ります。
コンピュータが動作していた場合は、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2** コンピュータ背面に接続しているケーブル類をすべて外します。
- 3** 本体カバーを外します。
 p.90「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 4** AGPスロットに拡張ボードが装着されている場合は、拡張ボードを外します。
 p.101「拡張ボードの取り付け・取り外し」
- 5** DIMMソケットの固定プラグを開きます。



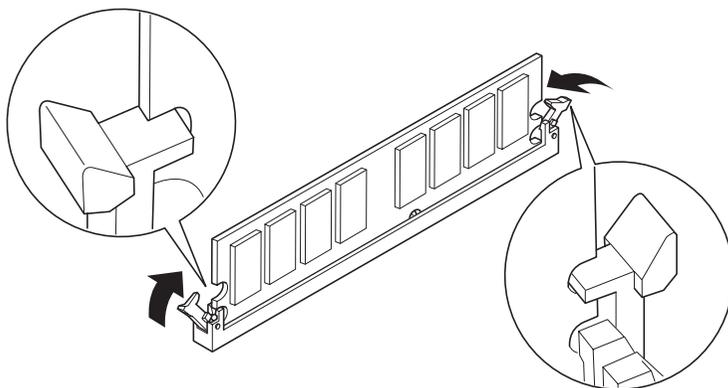
- 6** DIMMを静電防止袋から取り出します。DIMMの端子部や素子に触れないように注意します。



- 7** DIMMソケットにDIMMを差し込みます。
① DIMMの切り欠きをDIMMソケット内の仕切りに合わせます。



- ② さらに押し込むと、固定プラグが閉じて、DIMMが固定されます。
必ず、DIMMが固定されたことを確認してください。



本機ではDIMMを2枚単位で取り付けるため、該当するDIMMソケット(2本)に対してそれぞれ作業を行ってください。

 p.94 「DIMM装着時の制限」

- 8 手順4で拡張ボードを外した場合は、もとどおりに装着します。

 p.101 「拡張ボードの取り付け・取り外し」

- 9 本体カバーを取り付けます。

 p.90 「本体カバーの取り外し・取り付け」

- 10 コンピュータを使用できるように、本体背面のケーブル類をもとどおりに接続します。

- 11 メモリ容量を確認します。

- ① コンピュータを起動します。**[Delete]**を押して、「BIOS Setupユーティリティ」を実行します。

 p.124 「BIOS Setupユーティリティの操作」

- ② 「Main」メニュー画面の「System Information」-「System Memory」に表示されている総メモリ容量を確認します。

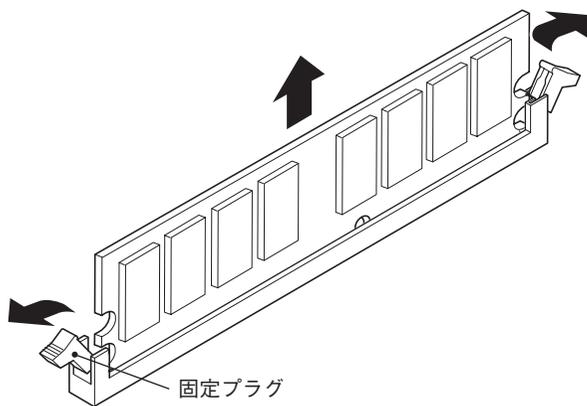
本機は、メインメモリの一部をビデオメモリとして使用します。装着している総メモリ容量から、ビデオメモリで使用するメモリ容量を引いた容量が表示されます。

装着したDIMMの容量だけメモリ容量が増えていればDIMMは正しく取り付けられています。増えていない場合は、正しく取り付けられていないことが考えられます。すぐに電源を切り、正しく取り付け直してください。

取り外し

DIMMを取り外す場合は、該当するDIMMソケット2本に対してそれぞれ作業を行ってください。

1 DIMMの両端を固定している固定プラグを開きます。



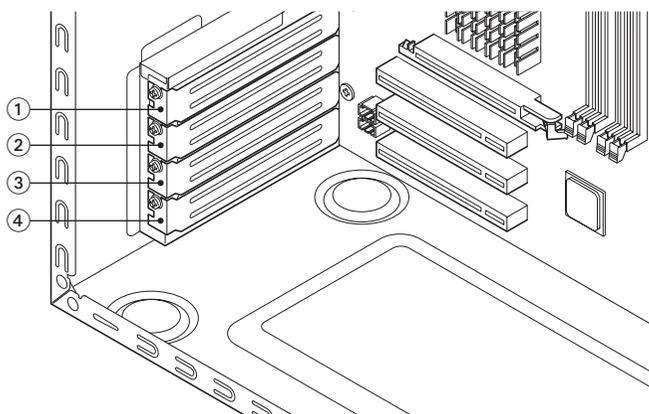
2 DIMMが外れたら静かに取り外します。
静電気防止袋に入れて保管してください。

拡張ボードの装着

拡張スロットの仕様と拡張ボードを取り付ける方法について説明します。

▶ 拡張スロットの仕様

本機には4つの拡張スロットがあり、各スロットの仕様は次のとおりです。



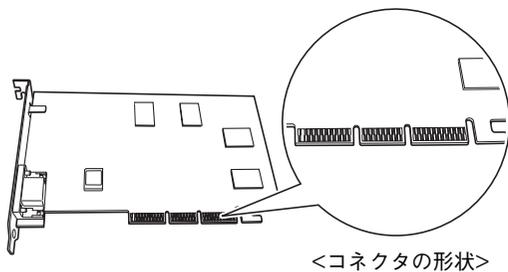
スロット番号	コネクタ仕様	装着可能な拡張ボードサイズ**
①	AGP*	ボード長312mmまで
②	PCI	ボード長312mmまで
③	PCI	ボード長312mmまで
④	PCI	ボード長312mmまで

* AGP2.0(1.5V仕様)およびAGP3.0(0.8V仕様)対応ボードのみ装着可能

**装着可能なサイズでもボードの形状により、装着できない場合があります。

AGPコネクタの仕様

本機のAGPコネクタには、AGP2.0(1.5V仕様)およびAGP3.0(0.8V仕様)対応ボードのみ装着可能です。仕様の異なるAGPボードは、コネクタの形状が異なるため装着することができません。本機に装着可能なAGPボードは、次のようなコネクタの形状をしています。



▶ 拡張ボードの取り付け・取り外し



- 拡張スロットには機器の性能を維持するため鋭いエッジがあります。手を傷つけないように作業してください。

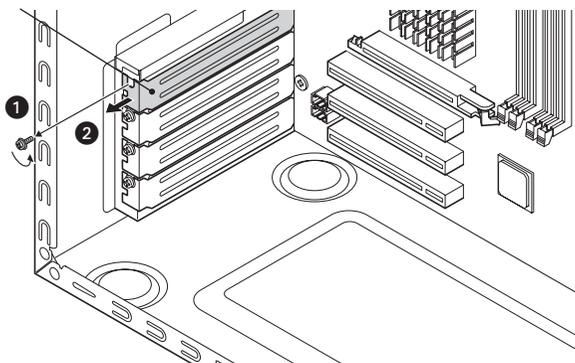
作業を始める前にp.89「作業時の注意」と「拡張ボードに添付のマニュアル」を必ずお読みください。

取り付け

作業を行う場合は、コンピュータを横置きにしてもかまいません。

- 1 コンピュータの電源を切ります。**
コンピュータが動作していた場合は、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2 コンピュータ背面に接続しているケーブル類をすべて外します。**
- 3 本体カバーを外します。**
 p.90「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 4 拡張カードを装着するスロットのスロットカバーを外します。**
 - ① スロットカバーを固定しているネジを外します。
 - ② スロットカバーを手前に引き抜きます。

スロットカバー



外したスロットカバーは、大切に保管してください。拡張ボードを外したあと、別の拡張ボードを装着しない場合は、本体内部にほこりなどが入らないように再び装着してください。



5

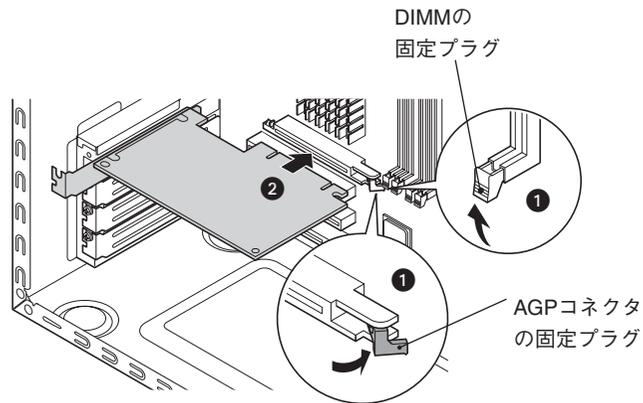
拡張ボードを差し込みます。

AGPボードの場合

①AGP コネクタの固定プラグを倒します。また、DIMMの固定プラグが倒れている場合は、起こします。

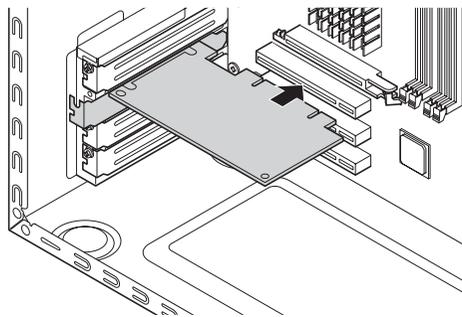
②AGPボードの端子部を、コネクタに軽く触れる程度に差し込みます。コネクタに無理な力がかかっていないことを確認してゆっくり押し込みます。

しっかり固定されると固定プラグが起き上がり「カチッ」と音がします。

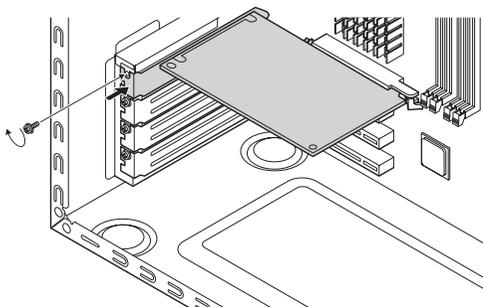


PCIボードの場合

PCIボードの端子部を、コネクタに軽く触れる程度に差し込みます。コネクタに無理な力がかかっていないことを確認してゆっくり押し込みます。



6 拡張ボードをネジで固定します。



サウンドボードなど、拡張ボードによっては、コンピュータ内部のコネクタとのケーブル接続が必要な場合があります。拡張ボードに添付のマニュアルで確認してください。

7 本体カバーを取り付けます。

 p.90「本体カバーの取り外し・取り付け」

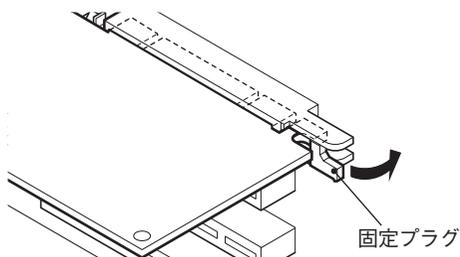
8 コンピュータを使用できるように、本体背面のケーブル類をもとどおりに接続します。

取り外し

1 拡張ボードを固定しているネジを外します。

2 拡張ボードを引き抜きます。

AGPボードを取り外す場合は、AGPボードを固定している固定プラグを倒してから引き抜きます。



< AGP ボードの場合 >

3 拡張ボードを取り外したスロットに別の拡張ボードを装着しないときは、スロットカバーを取り付けておきます。

ドライブベイへのドライブ装着



3.5型ドライブベイのドライブ装置(FDD)は交換できません。3.5型のMOドライブを増設する場合は、5.25型マウントフレームに取り付け、5.25型ドライブベイに装着します。

▶ 5.25型ドライブベイへの装着

作業を始める前にp.89「作業時の注意」を必ずお読みください。
作業はコンピュータを横置きにして行ってもかまいません。

取り付け

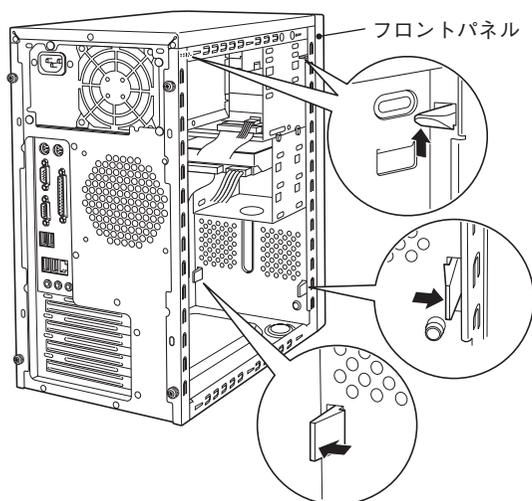
ここでは2台目の5.25型ドライブを増設する手順を説明します。

- 1 あらかじめ装着する装置に添付のマニュアルを参照して、必要に応じてジャンプスイッチの設定などを行います。
 p.115「IDE装置の装着」
- 2 コンピュータの電源を切ります。
コンピュータが動作していた場合は、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 3 コンピュータ背面に接続しているケーブル類をすべて外します。
- 4 本体カバー(左右両側)を取り外します。
 p.90「本体カバーの取り外し・取り付け」

5 フロントパネルを取り外します。

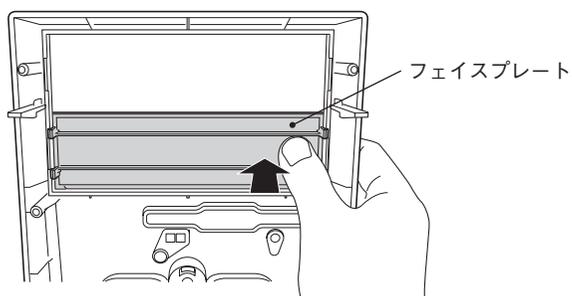
上、下2個ずつあるフックを矢印の方向に押し外します。

すでに装着されている装置を交換する場合は手順5～7は必要ありません。



6 フェイスプレートを取り外します。

フロントパネルの裏側から、フェイスプレートの片側を押し出します。

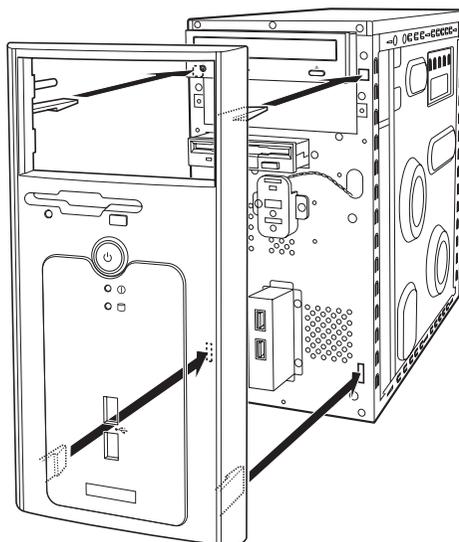


外したフェイスプレートは大切に保管してください。

7

フロントパネルを取り付けます。

フロントパネルのフックを本体の穴に合わせて押し込みます。

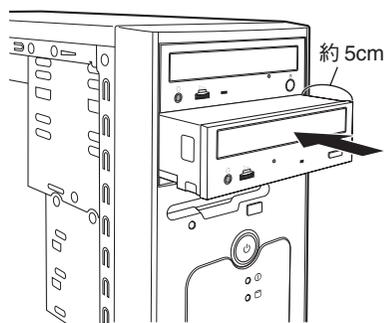


8

ドライブベイにドライブ装置を取り付けます。

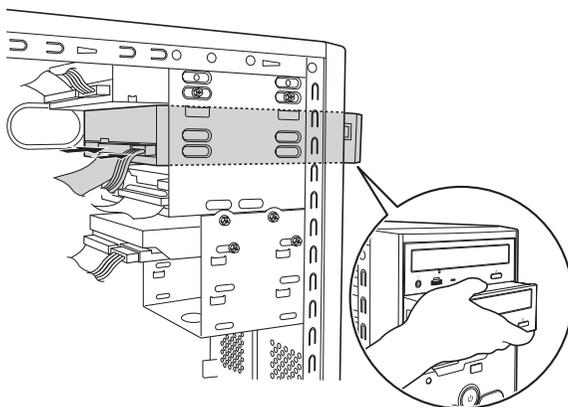
① ドライブ装置を前面から押しこみます。

このとき、ドライブを前面側に5cm程出しておきます。

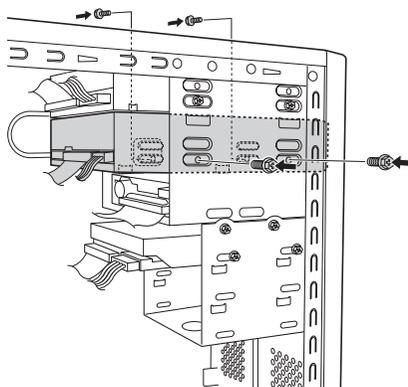


- ② 右手でドライブ装置を固定して、装置にケーブル類を接続します。
 すでに装着されているドライブ装置が作業の妨げになる場合は、そのドライブ装置のネジ(左右各2本)を外し、前面側に移動させて空間を作ります。

 p.117「ドライブ装置の接続例」



- ③ ドライブ装置を押し込み、ネジ穴を合わせてネジ(左右各2本)で固定します。
 手順②で、すでに装着されているドライブ装置を前面側に移動させた場合は元の位置に戻し、ネジ(左右各2本)で固定します。



- 9 本体カバーを取り付けます。

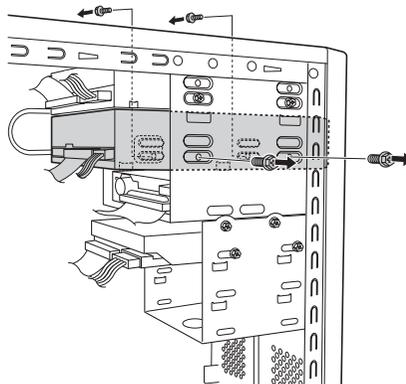
 p.90「本体カバーの取り外し・取り付け」

- 10 コンピュータを使用できるように、本体背面のケーブル類をもとどおりに接続します。

取り外し

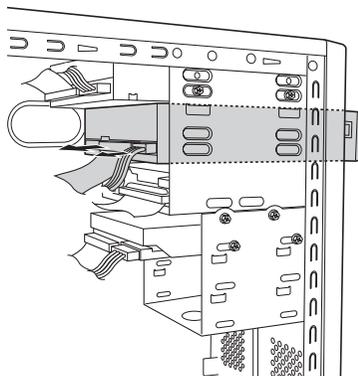
ここでは2台目の5.25型ドライブを取り外す手順を説明します。

- 1 **コンピュータの電源を切ります。**
コンピュータが動作していた場合は、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2 **コンピュータ背面に接続しているケーブル類をすべて外します。**
- 3 **本体カバー(左右両側)を取り外します。**
 p.90「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 4 **ドライブベイからドライブ装置を取り外します。**
 - ① **ドライブ装置を固定しているネジ(左右各2本)を外します。**

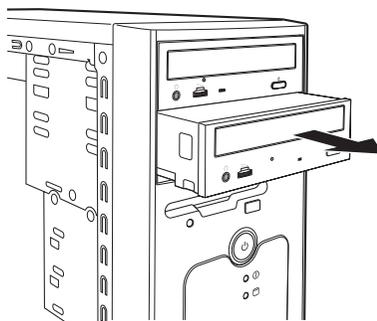


- ② ドライブ装置を前面側に5cm程移動させます。
- ③ 右手でドライブ装置を固定し、ケーブル類を外します。

1台目のドライブ装置が作業の妨げになる場合は、1台目のドライブ装置を固定しているネジ(左右各2本)を外して、前面に移動させ空間を作ります。



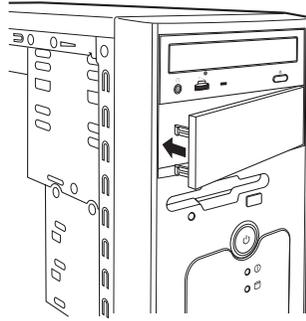
- ④ ドライブ装置を前面側から引き抜きます。



5

前面側からフェイスプレートを押し込んで、取り付けます。

装置を取り外したドライブベイにほかの装置を取りつける場合はこの作業は必要ありません。



6

本体カバーを取り付けます。

 p.90「本体カバーの取り外し・取り付け」

7

コンピュータを使用できるように、本体背面のケーブル類をもとどおりに接続します。

▶ HDDベイへの装着

作業を始める前にp.89「作業時の注意」を必ずお読みください。

新しいHDDを使用する場合は、装着後にHDDの領域作成とフォーマットが必要です。

 p.61「HDDのフォーマット」

取り付け

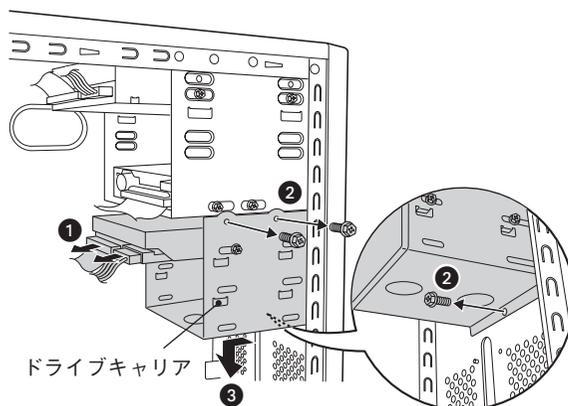
ここでは、2台目のHDDを増設する手順を説明します。

作業はコンピュータを横置きに行ってもかまいません。

- 1 あらかじめ装着するHDDに添付のマニュアルを参照して、必要に応じてジャンプスイッチやディップスイッチの設定などを行います。
 p.115「IDE装置の装着」
- 2 コンピュータの電源を切ります。
コンピュータが動作していた場合は、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 3 コンピュータ背面に接続しているケーブル類をすべて外します。
- 4 本体カバー(左側)を取り外します。
 p.90「本体カバーの取り外し・取り付け」

5 ドライブキャリアを本体から取り外します。

- ① HDDのケーブル類を外します。
- ② コンピュータ本体とドライブキャリアを固定しているネジ(3本)を外します。
- ③ ドライブキャリアを矢印のとおりはずらして取り外します。



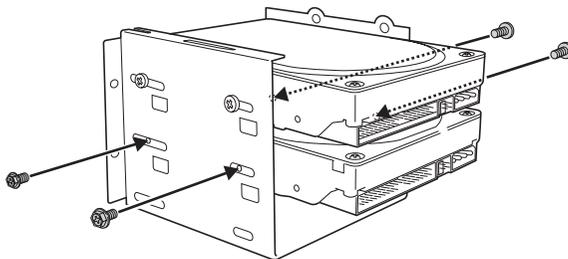
6 ドライブキャリアにHDDを取り付けます。

- ① 装着されているHDDと同じ向きに合わせ、ドライブキャリアに差し込みます。

ドライブキャリアにHDDがうまく挿入できない場合はすでに装着されているHDDの片側のネジをゆるめてください。

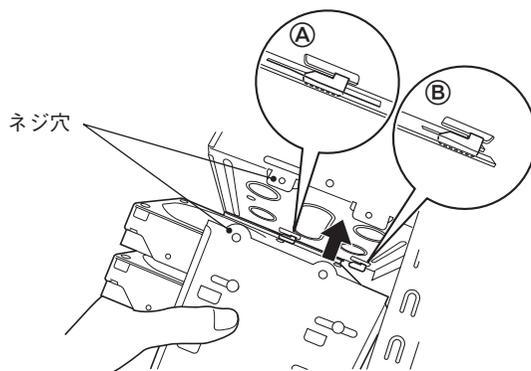
- ② ドライブキャリアとHDDのネジ穴を合わせて、ネジ(4本)で固定します。

すでに装着されているHDDのネジをゆるめた場合は忘れずにネジを締めてください。



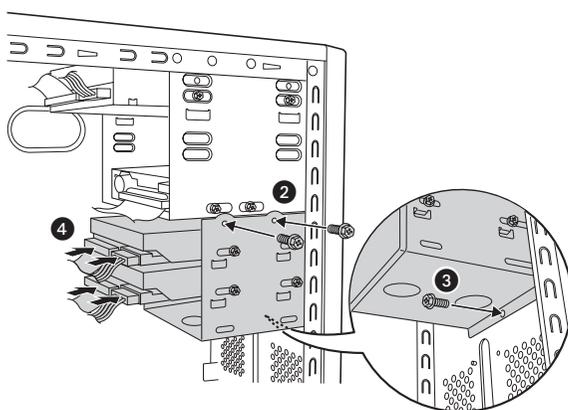
7 ドライブキャリアを本体に取り付けます。

- ① ドライブキャリアを (A) と (B) のツメに合わせ、ドライブキャリアのネジ穴を本体のネジ穴に被せるように起こします。



- ② ドライブキャリアを前面側にスライドします。
- ③ ドライブキャリアと本体のネジ穴を合わせてネジ(3本)で固定します。
- ④ HDDにケーブル類を接続します。

 p.117「ドライブ装置の接続例」



8 本体カバーを取り付けます。

 p.90「本体カバーの取り外し・取り付け」

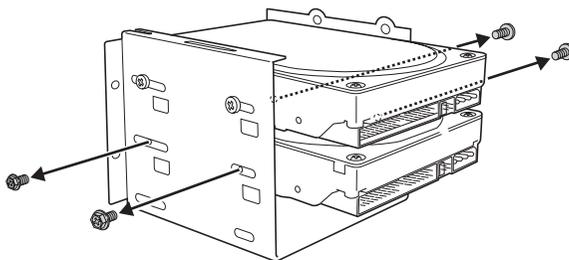
- ⑨ コンピュータを使用できるように、本体背面のケーブル類をもとどおりに接続します。

取り外し

ドライブキャリアの取り外し方・取り付け方については、前項「HDDベイへの装着」の手順を参照してください。

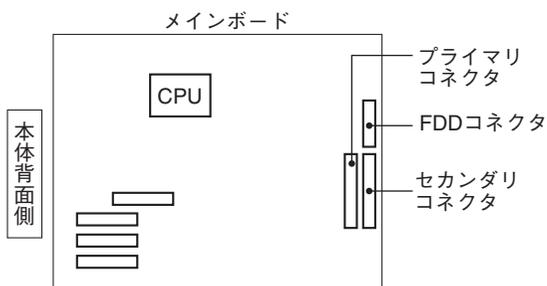
ドライブキャリアからHDDを取り外します。

ドライブキャリアとHDDを固定しているネジ(4本)を外し、ドライブキャリアからHDDを外します。



IDE装置の装着

本章では、IDEコネクタの仕様とドライブ装置の接続方法について説明します。本機のメインボード上には、IDEコネクタが2個搭載され、IDE仕様のドライブ装置を取り付けることができます。コネクタの位置は、次のとおりです。



▶ IDEコネクタ

本機のIDEコネクタには、HDDやCD-ROMドライブなどのドライブ装置を合計4基接続できます。4基の装置には優先順位を設定します。順位の設定を誤ると、装置がコンピュータに認識されない場合があります。優先順位は、装置を接続するメインボード側のコネクタ（プライマリ、セカンダリ）と装置側のジャンパ設定（マスタ、スレイベ、ケーブルセレクト）で決定します。4基の装置の関係は、次のとおりです。

メインボード側	装置	順位	購入時の装置*	増設例
プライマリコネクタ	マスタ	1	HDD	
	スレイベ	2		HDD(2台目)
セカンダリコネクタ	マスタ	3	CD-ROMドライブ	
	スレイベ	4		MOドライブなど

* 購入時のシステム構成により異なります。



制限

- Windows は、プライマリコネクタにマスタ設定で接続された HDD にインストールしてください。
- HDD は、CD-ROM ドライブ (CD-R/RW ドライブ、コンボドライブなど) よりも優先順位の高い設定にしてください。HDD が認識されない可能性があります。

プライマリコネクタとセカンダリコネクタ

メインボード上のIDEコネクタは、プライマリコネクタとセカンダリコネクタに分けられます。

IDEコネクタの優先順位は、次のとおりです。

- 優先順位: 1. プライマリコネクタ
2. セカンダリコネクタ

マスタ・スレイブ・ケーブルセレクト

IDEコネクタに接続するIDEケーブルには、2基の装置を接続することができます。2基の装置には、優先順位を設定します。優先順位の設定は、装置側のジャンプスイッチで行います。

- 優先順位: 1. マスタ
2. スレイブ

優先順位を設定するには、次の2とおりの方法があります。

- 装置側のジャンプスイッチで、「マスタ」、「スレイブ」を設定します。
- 装置側のジャンプスイッチで、「ケーブルセレクト」を設定します。この場合、接続するIDEケーブルのコネクタの色によって「マスタ」、「スレイブ」が設定されます。

「ケーブルセレクト」設定した装置は、次のとおり設定されます。

黒色のコネクタに接続：マスタとして設定

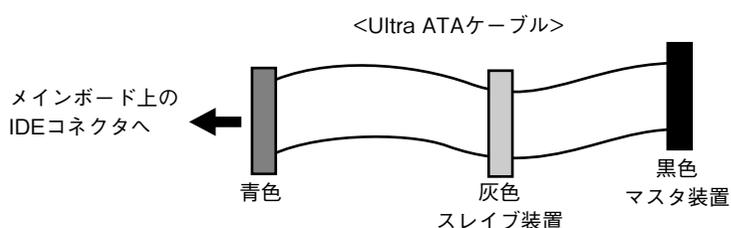
灰色のコネクタに接続：スレイブとして設定

ジャンプスイッチの位置や設定方法は、ドライブ装置のマニュアルを参照してください。

IDEケーブル

本機のIDEコネクタに接続している2本のIDEケーブルは、「Ultra ATAケーブル」です。

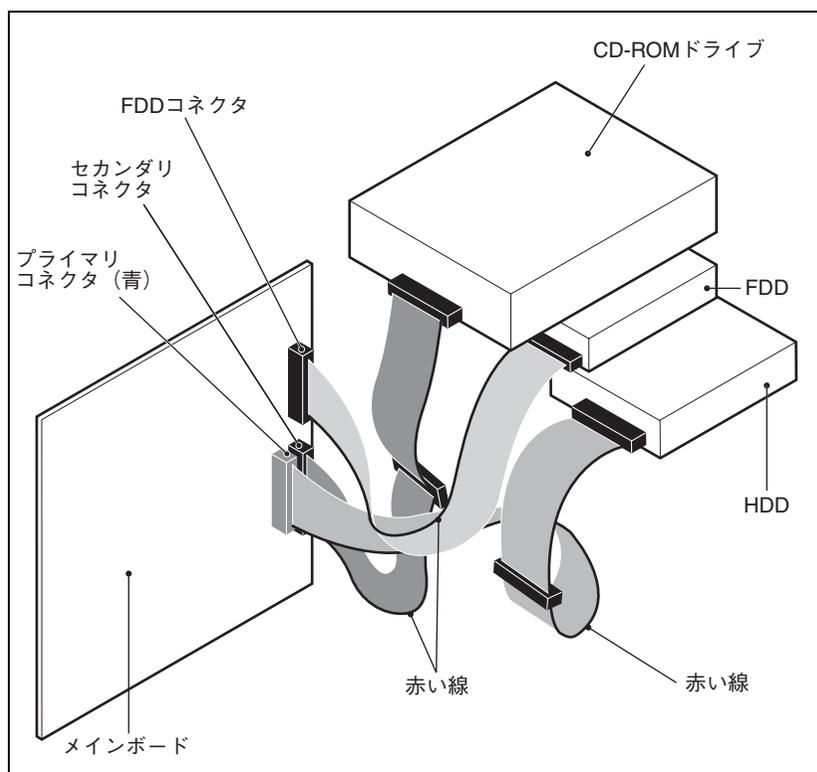
「Ultra ATAケーブル」は、次のように接続します。



▶ ドライブ装置の接続例

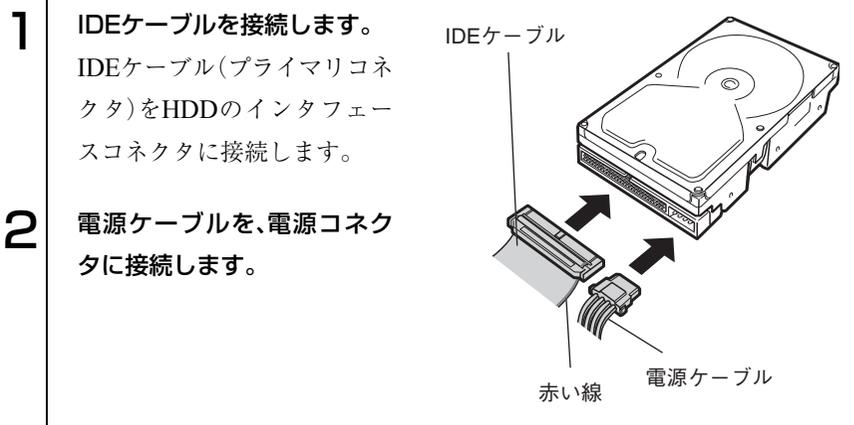
メインボードとの接続

ドライブ装置の一般的なケーブル接続の方法は、次のとおりです。
ドライブ装置を増設または交換する際には、ドライブ装置に添付のマニュアルもあわせてご覧ください。



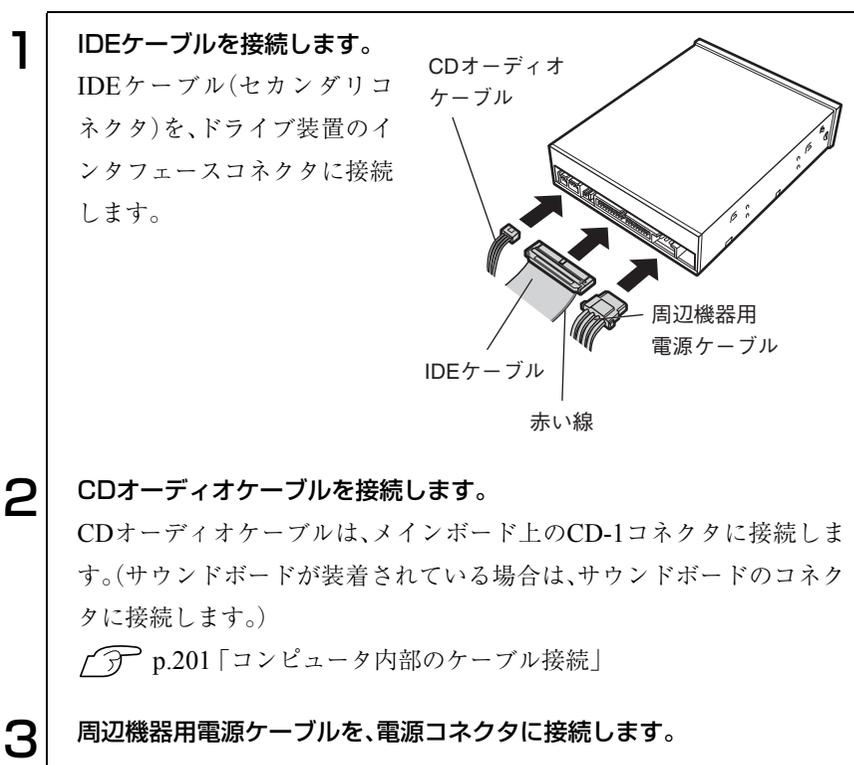
HDDの接続例

HDDの場合、次のように接続します。



CD-ROMドライブの接続例

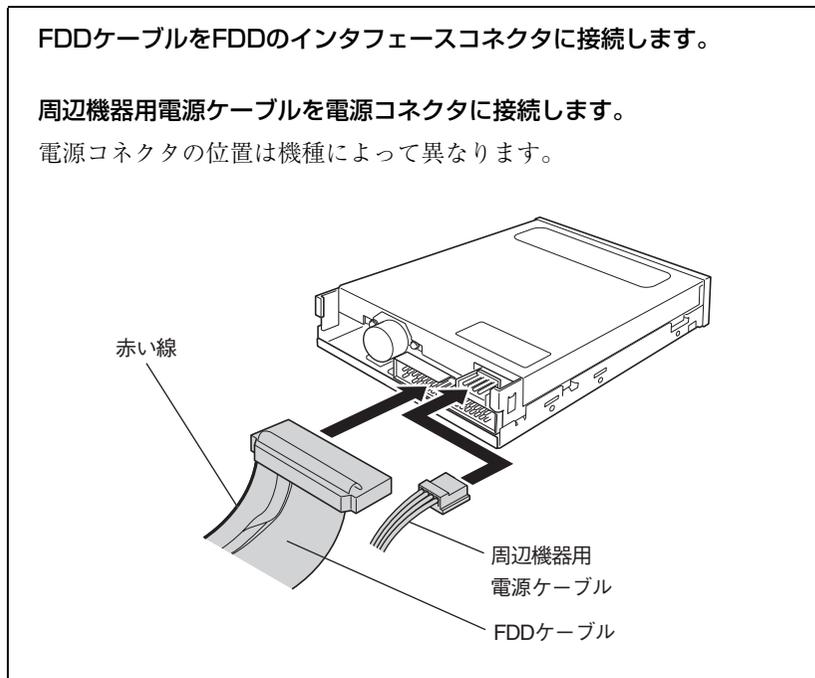
CD-ROMやCD-R/RWドライブなどの場合、次のとおり接続します。



3.5型FDDの接続例

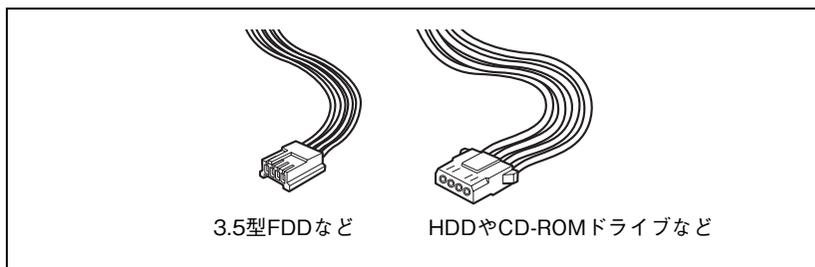
3.5型FDDの場合、次のとおり接続します。

- 1 FDDケーブルをFDDのインタフェースコネクタに接続します。
- 2 周辺機器用電源ケーブルを電源コネクタに接続します。
電源コネクタの位置は機種によって異なります。



周辺機器用電源ケーブル

電源ユニットには、ドライブベイに装着する装置に電源を供給するための周辺機器用電源ケーブルがついています。周辺機器用電源ケーブルには、大小2種類の電源コネクタがいくつか付いています。一般的に大きいコネクタは、HDDやCD-ROMドライブなどに、小さいコネクタは3.5型FDDに使用します。





BIOSの設定

コンピュータの基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

BIOSの設定を始める前に

BIOSは、コンピュータの基本状態を管理しているプログラムです。このプログラムは、メインボード上にROMとして搭載されています。

BIOSの設定は、「BIOS Setupユーティリティ」で変更できますが、購入時のシステム構成に合わせて最適に設定されているため、通常は変更する必要はありません。BIOSの設定を変更するのは、次のような場合です。

- 本書やお使いの装置のマニュアルで指示があった場合
- パスワードを設定する場合

BIOSの設定値を間違えると、システムが正常に動作しなくなる場合があります。設定値をよく確認してから変更を行ってください。BIOS Setupユーティリティで変更した内容はCMOS RAMと呼ばれる特別なメモリ領域に保存されます。このメモリはリチウム電池によってバックアップされているため、コンピュータの電源を切ったり、再起動しても消去されることはありません。



参考

リチウム電池の寿命

BIOS Setupユーティリティの内容は、リチウム電池で保持しています。本機のリチウム電池の寿命は数年です。日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうなどの現象が頻発するような場合にはリチウム電池の寿命が考えられます。リチウム電池を交換してください。

 p.196「リチウム電池の交換」



制限

- 「BIOS Setupユーティリティ」で、設定を変更する場合には、必ず購入時の設定値(初期値)と、変更後の設定値を記録しておいてください。万一、システムが動作しなくなった場合や、リチウム電池の寿命などでCMOS RAMのデータが失われた場合でも、もとに戻すことができます。

 p.140「BIOSの設定値」

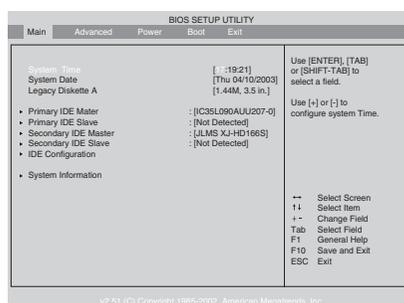
- 「BIOS Setupユーティリティ」には、ハードウェアに依存した詳細な項目も含まれています。このような項目を誤って変更すると、システムが起動しなくなったり、動作が不安定になります。万一、システムが起動しなくなったり、動作が不安定になった場合には「Load Setup Defaults」(初期値に戻す)を実行してください。

 p.126「設定値をもとに戻すには」

BIOS Setupユーティリティの操作

▶ BIOS Setupユーティリティの起動

- 1 コンピュータの電源を入れます。すでに電源が入っている場合は再起動します。
- 2 コンピュータの起動直後、黒い画面の中央にロゴが表示されたら、すぐにキーボードの **Delete** を押します。
Windowsが起動してしまった場合は、再起動してください。
- 3 「BIOS Setupユーティリティ」が起動してMainメニュー画面が表示されます。



BIOS Setupユーティリティ画面(イメージ)

仕様が前回と異なるとき

コンピュータの状態が、前回使用していたときと異なる場合は、コンピュータの電源を入ると、次のメッセージが表示されることがあります。

Press F1 to Run SETUP

このメッセージが表示されたら **F1** を押して「BIOS Setup ユーティリティ」を起動します。通常は、そのまま「Exit & Save Changes」を実行して「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

 p.127 「BIOS Setupユーティリティの終了」

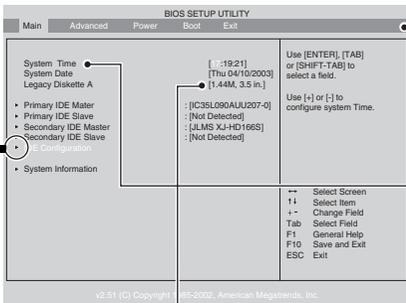
▶ BIOS Setupユーティリティの操作

「BIOS Setupユーティリティ」の操作は、キーボードで行います。
操作は、次の順番で行います。

- ① 処理メニューを選択 → ② 設定項目を選択 → ③ 設定値を選択

詳しい操作方法は、次のとおりです。各設定項目の説明は、p.129をご覧ください。

<メニュー画面>



① 「処理メニュー」を選択
→ ← で変更します。
起動直後は、「Main メニュー画面」が表示されています。

② 「設定項目」を選択
↑ ↓ で変更します。

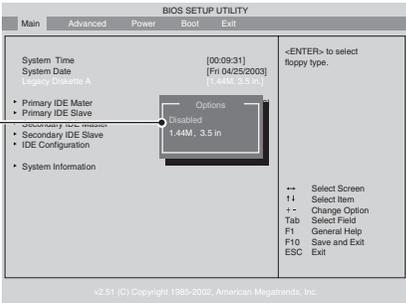
③ 「設定値」を選択

青字表示されていると、設定変更可能です。
+ / - を押すと値が変わります。
↓ を押すと「選択ウィンドウ」が表示されます。

↓

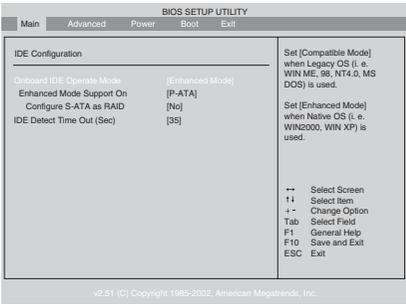
<選択ウィンドウ>

選択ウィンドウ内の設定値を ↑ ↓ で変更し、↓ で設定します。



▶ マークの付いている設定項目を選択して ↓ を押すと、「サブメニュー画面」が表示されます。

<サブメニュー画面>



「サブメニュー画面」での設定方法は、「メニュー画面」での設定方法と同様です。
Esc を押すと「メニュー画面」に戻ります。

キー操作

キー	操作できる内容
	ヘルプを表示します。
	・変更した内容を破棄し、終了するかどうかを確認するメッセージを表示します。 ・「サブメニュー画面」から「メニュー画面」に戻ります。
 , 	設定を変更する項目を選択します。
 , 	処理メニューを選択します。
 , 	項目の値を変更します。
	・メニュー画面中の▶マークの付いている項目で押すとサブメニュー画面を表示します。 ・選択項目の選択ウィンドウを表示します。 ・設定値を選択します。
	全設定項目の値を、初期値に変更します。
	変更した設定値を保存して終了します。
 , 	画面の中の最初の項目に移動します。
 , 	画面の中の最後の項目に移動します。

▶ 設定値をもとに戻すには

「BIOS Setup ユーティリティ」の設定を間違えてしまい、万一コンピュータの動作が不安定になってしまった場合などには、「BIOS Setup ユーティリティ」の設定を前回保存した値や初期値に戻すことができます。

Load Setup Defaults(初期値に戻す)

「BIOS Setup ユーティリティ」の設定を、BIOSの初期値に変更します。

1 を押す、または「Exit」メニュー画面-「Load Setup Defaults」を選択すると次のメッセージが表示されます。

Load Setup Defaults	
<input type="button" value="[OK]"/>	<input type="button" value="[Cancel]"/>

2 BIOSの設定を初期値に戻す場合は、[OK]を選択して を押しします。
変更しない場合は[Cancel]を選択して を押しします。

次のような場合は、Load Setup Defaults を実行したあとに、BIOS の設定値を設定しなおしてください。

- サウンドボードをお使いの場合
「Advanced」メニュー画面-「Onboard Devices Configuration」-「Onboard AC'97 Audio」を「Disabled」に設定する。
- ネットワークボードをお使いの場合
「Advanced」メニュー画面-「Onboard Devices Configuration」-「Onboard LAN」を「Disabled」に設定する。

Discard Changes(前回保存した設定値に戻す)

「BIOS Setup ユーティリティ」を終了せずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。

- 1 「Exit」メニュー画面-「Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Discard Changes ?	
[OK]	[Cancel]

- 2 BIOSの設定を前回保存した値に戻す場合は、[OK]を選択して  を押します。

▶ BIOS Setupユーティリティの終了

「BIOS Setup ユーティリティ」を終了するには、次の2とおりの方法があります。

Exit & Save Changes(変更した内容を保存し終了する)

変更した設定値を保存して、「BIOS Setup ユーティリティ」を終了します。

- 1  を押す、または「Exit」メニュー画面-「Exit & Save Changes」を選択すると次のメッセージが表示されます。

Save configuration changes and exit now?	
[OK]	[Cancel]

- 2 変更した設定値を保存して終了する場合は[OK]を選択し、 を押します。

Exit & Discard Changes(変更した内容を破棄し終了する)

変更した設定値を保存せずに、「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

- 1 を押す、または [Exit] メニュー画面 - 「Exit & Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Discard configuration changes and exit now?	
[OK]	[Cancel]
- 2 変更した設定値を保存せずに終了する場合は [OK] を選択し、 を押します。

BIOS Setupユーティリティの設定項目

本章では、「BIOS Setup ユーティリティ」で設定できる項目と、設定方法などについて説明します。「BIOS Setup ユーティリティ」のメニュー画面には、次の5つのメニューがあります。

- Main メニュー画面 : 日付、時間、FDD、HDDなどの設定を行います。
- Advancedメニュー画面 : CPUに関する設定、I/O関係の動作設定やPCIバス関係の設定などを行います。
- Powerメニュー画面 : 省電力機能に関する設定を行います。
- Bootメニュー画面 : システムを起動するドライブの順番の設定やコンピュータの動作状態、パスワードの設定などを行います。
- Exitメニュー画面 : BIOS Setupユーティリティを終了したり、BIOSの設定値を初期値に戻します。

表の見方

各メニュー画面の設定項目の表では、次のように記載しています。

* : 表示のみの項目

■ : 項目の初期値

▶ Mainメニュー画面

System Time (hh:mm:ss) 時間の設定	時刻を設定します。
System Date (mm:dd:yy) 日付の設定	日付を設定します。
Legacy Diskette A (FDDの設定)	接続しているFDDのタイプを選択します。標準はLegacy Diskette Aに3.5型1.44MB対応FDDが接続されています。 Disabled : FDD未接続 1.44M,3.5in : 3.5型1.44MB対応FDD



Primary IDE Master		IDE装置の仕様を設定します。
Primary IDE Slave	* Device	IDE装置の機器の名称を表示します。
Secondary IDE Master	* Vendor	IDE装置の型番を表示します。
Secondary IDE Slave	* Size	HDDの容量を表示します。
Third IDE Master	* LBA Mode	LBA(Logical Block Addressing)をサポートしているかどうかを表示します。
Fourth IDE Master (IDE装置の設定)	* Block Mode	一度に何セクタ転送できるかを表示します。
※ 表示される詳細項目は、選択するドライブにより異なります。	* PIO Mode	IDE装置の転送モードを表示します。
	* Async DMA	IDE装置のDMA転送モードとチャンネルを表示します。
	* Ultra DMA	Ultra DMA対応装置の転送モードとチャンネルを表示します。
	* SMART Monitoring	S.M.A.R.T(Self Monitoring Analysis and Reporting Technology)をサポートしているかどうかを表示します
	Type	IDE装置の仕様を設定します。 Not Installed : IDE装置を使用しない場合に選択します。 Auto : BIOSが自動的にIDE装置の仕様を設定します。
	LBA / Large Mode	LBA(Logical Block Addressing)を使用するかどうかを表示します。 Auto : LBAを使用します。 Disabled : 使用しません。
	Block (Multi-Sector Transfer) Mode	一度に何セクタ転送できるかを表示します。 Disabled : 使用しません。 Auto : BIOSが自動的に最適な速度に設定します。
	PIO Mode	IDE装置の転送モード(PIO)を設定します。 Auto : BIOSが自動的に最適な転送モードを設定します。 0/1/2/3/4 : 転送モードを設定します。
	DMA Mode	IDE装置のDMA転送モードを設定します。 Auto : BIOSが自動的に最適な転送モードを設定します。 SWDMA0/SWDMA1/SWDMA2/MWDMA0/MWDMA1/MWDMA2/UDMA0/UDMA1/UDMA2/UDMA3/UDMA4/UDMA5
	SMART Monitoring	初期値[Disabled]のまま使用します。
	32Bit Data Transfer	初期値[Disabled]のまま使用します。

IDE Configuration		IDE 装置の仕様を設定します。
	Onboard IDE Operate Mode	初期値 [Enhanced Mode] のまま使用します。
	Enhanced Mode Support On	初期値のまま使用します。
	IDE Detect Time Out (Sec)	ATA/ATAPI 装置検知のタイムアウトの値を設定します。 0/5/10/15/20/25/30/35
System Information		本機の仕様を表示します。
	AMI BIOS	BIOS の情報を表示します。
	* Version	BIOS のバージョンを表示します。
	* Build Date	BIOS のバージョンの制定日を表示します。
	* ID	BIOS の ID を表示します。
	Processor	本機に搭載されている CPU の情報を表示します。
	* Type	本機に搭載されている CPU のタイプを表示します。
	* Speed	本機に搭載されている CPU の周波数を表示します。
	* Count	本機に搭載されている CPU の数です。
	System Memory	本機に搭載されているメモリ容量の情報を表示します。
	* Size	本機に搭載されているメモリ容量を起動時に自動的に計算して表示します。

▶ Advancedメニュー画面

CPU Configuration	本機に搭載されているCPUに関する情報を表示します。
* Manufacturer	メーカーを表示します。
* Brand String	型番を表示します。
* Frequency	周波数を表示します。
* Ratio Status	CPUクロックの設定を表示します。
* Ratio Actual Value	ベースクロックに対する倍率を表示します。
Hyper Threading Technology	ハイパースレディング機能の有効/無効を設定します。Pentium4プロセッサを搭載しているモデルに表示されます。ただし、Windows 2000 では [Enabled] に設定しても処理性能は向上しません。 Enabled : 有効にします。 Disabled : 無効にします。
Chipset	メインボード上の機能に関する設定をします。
DDR Reference Voltage	メモリの電源電圧を設定します。 Auto : 自動的に最適な電源電圧に設定されます。 2.55V : 2.55V に設定します。 2.65V : 2.65V に設定します。
DRAM Frequency	メモリの周波数を設定します。 266Mhz/320Mhz/400Mhz : メモリがサポートしている周波数です。 Auto : 自動的に最適な周波数に設定されます。
Configure DRAM Timing by SPD	DRAM SPD に従うか、または手動で DRAM タイミングパラメータを使用するかどうかを設定します。初期値 [Enabled] のまま使用します。
Graphics Aperture Size	初期値 [64M] のまま使用します。
Onboard Devices Configuration	メインボード上のデバイスに関する設定を行います。
OnBoard AC'97 Audio (サウンド機能の設定)	メインボード上のサウンド機能を使用するかを設定します。サウンドボード使用時は、[Disabled] に設定します。 Auto : 使用します。 Disabled : 使用しません。
Onboard LAN (ネットワーク機能の設定)	メインボード上のネットワーク機能を使用するかを設定します。ネットワークボード使用時は、[Disabled] に設定します。 Enabled : 使用します。 Disabled : 使用しません。
OnBoard LAN Boot ROM (リモートブート機能の設定)	リモートブート機能の有効/無効を設定します。 Disabled : リモートブート機能を無効にします。 Enabled : リモートブート機能を有効にします。

Serial Port1 Address (シリアルポートの設定)	シリアルポートのアドレスと IRQ 信号を設定します。 Disabled: シリアルポートを使用しません。 3F8/IRQ4, 2F8/IRQ3, 3E8/IRQ4, 2E8/IRQ3
Parallel Port Address (パラレルポートの設定)	パラレルポートが使用するアドレスを設定します。 Disabled: パラレルポートを使用しません。 378, 278, 3BC
Parallel Port Mode (パラレルポートの設定)	パラレルポートの動作モードを設定します。接続する周辺装置で指示がある場合のみ変更します。 Normal : 標準の設定です。 Bi-Directional : EPP+ECP モードまたは双方向モードに設定します。 EPP : EPP モードに設定します。 ECP : ECP モードに設定します。
Parallel Port IRQ (パラレルポートの設定)	パラレルポートが使用する IRQ を設定します。 Disabled: パラレルポートを使用しません。 IRQ7, IRQ5
EPP Version	「Parallel Port Mode」で[EPP]を選択すると表示されます。初期値[1.9]のまま使用します。
ECP Mode DMA Channel (パラレルポートのDMA設定)	「Parallel Port Mode」で[ECP]を選択すると表示されます。初期値のまま使用します。
Parallel Port IRQ (パラレルポートのIRQ信号の設定)	パラレルポートが使用する IRQ を設定します。 Disabled: パラレルポートを使用しません。 IRQ7, IRQ5
PCIPnP	PCIPnPに関する設定をします。
Plug And Play O/S	PCI スロットのリソース管理方法を設定します。初期値[No]のまま使用します。
USB Configuration	USB コントローラの設定をします。
USB Function	初期値[Enabled]のまま使用します。 Enabled : Disabled :

▶ Power メニュー画面

パワーマネジメント(省電力)の設定を行います。

Suspend to RAM	スタンバイモードを Suspend to RAMで行うかを設定します。 Disabled : 使用しません。 Enabled : 使用します。
ACPI APIC support	初期値[Enabled]のまま使用します。
Power Up Control(起動方法の設定)	起動する方法や条件を設定します。
Restore on AC Power Loss	電源スイッチを押さずに、電源供給時に起動するかどうかを設定します。分電盤などによる複数のコンピュータの同時起動を行うと、コンピュータの動作に悪影響を及ぼす可能性がありますのでご注意ください。 Power Off : 電源が供給されても、電源スイッチを押さない限り起動しません。 Power On : 電源オフ時に、電源が供給されると、電源スイッチを押さなくてもコンピュータが起動します。 Last State : コンピュータの動作中に、雷などの影響で突然電源が切断された後に電源が再び供給されると、電源スイッチを押さなくてもコンピュータが起動します。コンピュータを正常終了させた状態では、電源が供給されてもコンピュータは起動しません。
Power On By PCI Devices (LANからの起動設定)	電源切断時、ネットワークからの信号により、起動するかどうかを設定します。この機能は、Windows を正常に終了した状態でのみ使用可能です。 Enabled : 設定します。 Disabled : 設定しません。

▶ Bootメニュー画面

「Boot」メニュー画面では、起動するドライブの順番やパスワードに関する設定を行います。

起動ドライブの初期設定は、FDD、CD-ROMドライブ、HDDの順番です(システムの構成により異なります)。HDDやCD-ROMドライブは、それぞれPM-XXXXXX、SM-XXXXXXのように表示されます(PMはPrimary Master、SMはSecondary Masterの略でXXXXXXには装置の名称が入ります。)

ドライブを選択して を押すと、そのドライブの順番が1つ上がります。

ドライブを選択して を押すと、そのドライブの順番が1つ下がります。

Boot Device Priority	システムを起動するドライブの順番を設定します。	
	1st Boot Device	1 番目に起動するドライブを設定します。初期値は、「1st FLOPPY DRIVE」です。
	2nd Boot Device	2 番目に起動するドライブを設定します。初期値は、接続されている 5.25 型ドライブの型番です。
	3rd Boot Device	3 番目に起動するドライブを設定します。初期値は、接続されている HDD の型番です。
	4th Boot Device ^{**}	ネットワークから起動する場合に使用します。OnBoard LAN のリモートブート機能を有効にすると表示されます。
Hard Disk Drives	異なる仕様の HDD を 2 台以上装着すると型番を自動的に検出して表示します。初期値のまま使用します。	
	1st Drive 2nd Drive 3rd Drive	
CDROM Drives	2 台以上の CD-ROM ドライブを装着すると、型番を自動的に検出して表示します。初期値のまま使用します。	
	1st Drive 2nd Drive	
Removable Drives	外付けの記憶装置(USB FDD など)を接続すると型番を自動的に検出して表示します。接続した記憶装置を使用するかどうかを設定します。 外付けの記憶装置: 外付け記憶装置を使用します。 Disabled: 外付け記憶装置を使用しません。	
	1st Drive 2nd Drive	
Boot Settings Configuration	システム起動時の設定をします。	
	Bootup Num-Lock	起動時の NumLock の状態を設定します。 Off: NumLock が押されていない状態にします。 On: NumLock が押された状態にします。

^{**}「Advanced」メニュー画面-「Onboard Devices Configuration」で「Onboard LAN Boot ROM」を「Enabled」に設定すると表示されます。

<p>Security</p> <p>*Supervisor Password/User Password</p>	<p>システム起動時や「BIOS Setup ユーティリティ」起動時などのパスワードを設定します。</p> <p>Supervisor Password (管理者用パスワード)と User Password (ユーザーパスワード)が設定されているかどうかを表示します。</p> <p>Installed :パスワードが設定されています。</p> <p>Not Installed :パスワードが設定されていません。</p> <p>管理者用のパスワードを設定すると以下の4項目が表示されます。</p>
<p>Change Supervisor Password (管理者パスワードの設定)</p>	<p>管理者用パスワードを設定します。「BIOS Setupユーティリティ」やシステム起動時にパスワード入力を要求します。</p> <p>を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。</p>
<p>User Access Level</p>	<p>「Supervisor Password」(管理者パスワード)を設定すると表示されます。</p> <p>「User Password」(ユーザーパスワード)を入力したユーザーが「BIOS Setupユーティリティ」にアクセスすることを4段階で制限します。</p> <p>No Access : 「BIOS Setupユーティリティ」を起動することができません。</p> <p>View Only : 「BIOS Setupユーティリティ」を閲覧できますが、設定項目の変更はできません。</p> <p>Limited : 「BIOS Setupユーティリティ」を閲覧できるほかに、「日付」と「時間」のみ変更できます。</p> <p>Full Access : 管理者と同一の権利を許可します。ただし、管理者パスワードの変更はできません。BIOSセットアップユーティリティのすべての項目を設定したり閲覧したりすることができます。</p>
<p>Change User Password (ユーザーパスワードの設定)</p>	<p>ユーザーパスワードを設定します。「BIOS Setupユーティリティ」起動時やシステム起動時にパスワード入力を要求します。</p> <p>を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。</p>
<p>Clear User Password</p>	<p>ユーザーパスワードを削除します。</p> <p>を押すと、ユーザーパスワードの削除ウィンドウが表示されます。</p>
<p>Password Check</p>	<p>パスワードを設定している場合に、パスワード入力を要求するタイミングを設定します。</p> <p>Setup : BIOS Setupユーティリティ起動時にパスワード入力を要求します。</p> <p>Always : BIOS Setupユーティリティ起動時、システム起動時、省電力モードから復帰時にパスワード入力を要求します。</p>

▶ Passwordの設定

システム起動時や「BIOS Setup ユーティリティ」起動時などのパスワードに関する設定を行います。

パスワード機能は、コンピュータを使用するユーザーを限定するための機能です。システム起動時または「BIOS Setup ユーティリティ」起動時にパスワードの入力を要求し、正しいパスワード入力が行われないとコンピュータを使用することができません。

管理者パスワードおよび、ユーザーパスワードの設定・変更

管理者パスワードおよび、ユーザーパスワードの設定・変更方法は次のとおりです。

ユーザーパスワードは、管理者パスワードを設定すると、設定できるようになります。

- 1 「Change Supervisor Password」または、「Change User Password」を選択して を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter Password:
- 2 パスワードを入力し、 を押します。
「*」が表示されない文字は、パスワードとして使用できません。アルファベットの大文字と小文字は区別されません。パスワードは6文字まで入力可能です。
- 3 続いて次のメッセージが表示されます。確認のためにもう一度同じパスワードを入力し、 を押します。
同じパスワードを入力しないと、「Passwords do not Match」というメッセージが表示されます。[OK]が選択された状態で を押すと、BIOSのメニュー画面に戻ります。

Confirm Password:
- 4 「Password Installed.」というメッセージが表示されたら、[OK]が選択された状態で を押します。



- 5 パスワードの設定が完了すると、「Supervisor Password」または「User Password」項目の値が「Installed」に変わります。



制限

登録したパスワードを忘れないようにしてください。パスワードは、書き写して保管しておくことをおすすめします。

万一、パスワードを忘れた場合は、「CMOS RAMの初期化(p.199)」を実行します。

管理者パスワードの削除

- 1 「Change Supervisor Password」を選択して  を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter Password:

- 2 何も入力せずに  を押すと、次のメッセージが表示されます。

Password uninstalled.

[OK]

- 3 「OK」が選択された状態で  を押します。「Supervisor Password」項目の表示が「Not Installed」に変わります。これでパスワードが削除されます。

ユーザーパスワードの削除

1 「Clear User Password」を選択して、 を押すと、次の画面が表示されます。

Clear User Password?	
<input type="button" value="[OK]"/>	<input type="button" value="[Cancel]"/>

2 [OK]を選択して、 を押します。「User Password」項目の表示が、「Not Installed」に変わります。これで、ユーザーパスワードが削除されます。

▶ Exitメニュー画面

「Exit」メニュー画面は、BIOS Setup ユーティリティの終了方法などを設定する場合に使用します。設定項目と詳細は、次のとおりです。

Exit & Save Changes	変更した内容(設定値)を保存してから、BIOS Setup ユーティリティを終了します。
Exit & Discard Changes	変更した内容(設定値)を保存せずに、BIOS Setup ユーティリティを終了します。
Discard Changes	BIOS Setup ユーティリティを終了させずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
Load Setup Defaults	BIOS Setup ユーティリティの設定値を、BIOSの初期設定値に戻します。

▶ BIOSの設定値

BIOS Setup ユーティリティで設定を変更した場合は、変更内容を下表に記録しておくると便利です。購入時の設定は必ず記録してください。

Main メニュー画面

項目	購入時の設定	変更内容
Legacy Diskette A	Disabled 1.44M 3.5 in	Disabled 1.44M 3.5 in

Advanced メニュー画面

項目		購入時の設定		変更内容	
CPU Configuration	Hyper Threading Technology	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Chipset	Configure DRAM Timing by SPD	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Graphics Aperture Size	4MB 8MB 16MB 32MB 64MB 128MB 256MB		4MB 8MB 16MB 32MB 64MB 128MB 256MB	
OnBoard Devices Configuration	Onboard AC'97 Audio	Auto	Disabled	Auto	Disabled
	OnBoard LAN	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	OnBoard LAN Boot ROM	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Serial Port1 Address	Disabled 3F8/IRQ4 3E8/IRQ4	2F8/IRQ3 2E8/IRQ3	Disabled 3F8/IRQ4 3E8/IRQ4	2F8/IRQ3 2E8/IRQ3
	Parallel Port Address	Disabled 378 278 3BC		Disabled 378 278 3BC	
	Parallel Port Mode	Normal EPP	Bi-Directional ECP	Normal EPP	Bi-Directional ECP
	Parallel Port IRQ	IRQ7	IRQ5	IRQ7	IRQ5
PCI PnP	Plug And Play O/S	No	Yes	No	Yes
USB Configuration	USB Function	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

Power メニュー画面

項目		購入時の設定			変更内容		
Suspend to RAM		Disabled	Enabled		Disabled	Enabled	
ACPI APIC support		Disabled	Enabled		Disabled	Enabled	
Power Up Control	Restore on AC Power Loss	Power Off	Power On	Last State	Power Off	Power On	Last State
	Power On By PCI Devices	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled	

Boot メニュー画面

項目		購入時の設定			変更内容		
Boot Device Priority	1st Boot Device	Disabled	()	Disabled	()
	2nd Boot Device	Disabled	()	Disabled	()
	3rd Boot Device	Disabled	()	Disabled	()
Boot Settings Configuration	Bootup Num-Lock	Off	On		Off	On	

ソフトウェアの 再インストール

ソフトウェアを再インストールする手順について説明します。

再インストールする前に必ずお読みください

ソフトウェアの再インストールを行う前に知っておいていただきたい情報について記載しています。

本書では、HDDをフォーマットして、Windowsやデバイスドライバなどのソフトウェアを新しくインストールしなおす作業のことを「再インストール」と記載しています。

▶ 再インストールが必要な場合

再インストールは次のような場合に行います。通常は必要ありません。

- なんらかの原因でWindowsが起動しなくなった場合
- HDD領域の構成を変更したい場合

▶ 重要事項

再インストールする前に、次の重要事項を必ずお読みください。

- 弊社製以外のBIOSに、絶対にアップデートしないでください。弊社製以外のBIOSにアップデートすると、再インストールができなくなります。
- Norton AntiVirus2003で、90日経過後に更新権を購入してウイルス定義ファイルの更新サービスを継続している場合、再インストールを行うと更新権が無効になります。更新権が無効になってしまった場合は、シマンテックストアまでご連絡ください。

 『Norton AntiVirus2003をご使用前に』

- バックアップディスクを作成していない場合は、必ず作成しておいてください。再インストールすると、バックアップディスクを作成することができなくなります。

 p.42「バックアップディスクの作成」

- インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認して、紙類が添付されている場合は、その手順に従って作業をすすめてください。
- HDD上の重要なデータは、FDなどの別のメディアに、必ずバックアップしておいてください。再インストールするときは、HDDをフォーマットするため、Cドライブのデータはすべて消去されます。
- Windowsの再インストールをすることにより、「Windows Update」のプログラムがインストールされていない状態に戻ります。本機のWindowsを再インストールしてから、初めてインターネットに接続する際は、はじめに必ず「Windows Update」を行ってください。

 p.45 「Windows Updateについて」

ソフトウェアの再インストールを行う

本章では、再インストールの方法について記載しています。

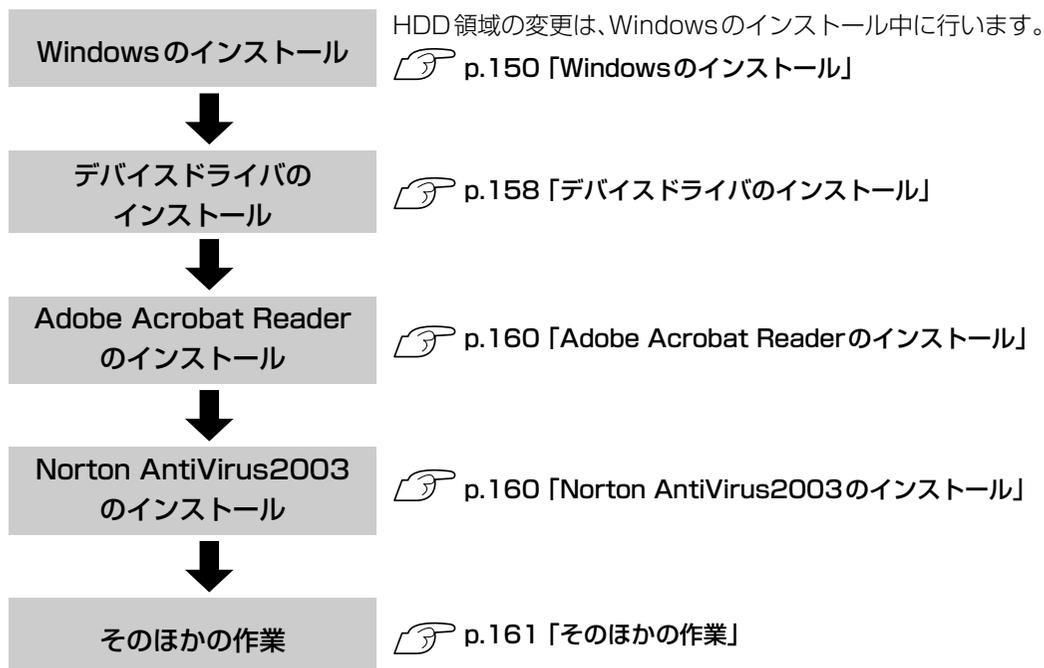
▶ 必要なメディア

再インストールするには、次のメディアが必要です。

- リカバリCD
Windowsが登録されているCD-ROMです。
Windows XPは、Disc1とDisc2の2枚組になっています。
- ドライバCD
各種デバイスドライバ、Adobe Acrobat Reader、Norton AntiVirus2003が登録されているCD-ROMです。
- バックアップFD作成ユーティリティで作成したFD
Windowsのセットアップ終了後に作成したFDです。作成していない場合は、必ず作成してください。
 p.42「バックアップディスクの作成」
- そのほか必要なメディア
ビデオボードやサウンドボードを使用している場合など、システム構成によって必要なメディアは異なります。

▶ インストールの順番

再インストールは、次の順番で行います。



オプション製品の種類によっては上記の順番ではインストールできないものがあります。製品に添付のマニュアルで確認してください。

インストール作業における確認事項

再インストールを始める前に、下記の点をご確認ください。

システム構成

本章のインストール手順は、購入時のシステム構成を前提にしています。インストールは、BIOSの設定とシステム構成を購入時の状態に戻して行うことをおすすめします。

HDDのファイルシステム

購入時のHDDは、NTFSを使用して領域を作成し、Windowsをインストールしています。Windowsのインストールは、必ずNTFSを使用してください。

ドライブ名

本章の説明では、ドライブ構成が次のようになっているものとします。
CD-ROMドライブのドライブ名は、HDD領域の数によって異なります。

Aドライブ:FDD

Cドライブ:HDD

Dドライブ:CD-ROMドライブ

入力文字

インストール手順中の入力文字の表記は、すべて大文字で記載していますが、入力する際は、大文字・小文字のどちらで入力してもかまいません。

Windows CD-ROMを要求されたら

デバイスドライバ類のインストール時に「WindowsCD-ROM」を要求されることがあります。本書でなにも記載がない場合は、リカバリCD Disc1 (Windows 2000ではリカバリCD)をセットしてください。

管理者権限でログイン

デバイスドライバのインストール作業は、「コンピュータの管理者(Administrator)」権限でログインして行ってください。

5.25型ドライブ2台装着時

本機に、IDE仕様のCD-ROMドライブなどの5.25型ドライブを2台装着している場合、Windowsのインストールは、マスタ設定されたドライブから行ってください。スレーブ設定されたドライブからは、インストールすることができません。

5.25型ドライブのマニュアル

CD-R/RWドライブなどの5.25型ドライブ(CD-ROMドライブ以外)搭載モデルの場合、Windowsの再インストールを行うと、デスクトップに登録されている5.25型ドライブのPDFマニュアルが消去されます。必要に応じて、別のメディアにバックアップを作成しておいてください。なお、5.25型ドライブのPDFマニュアルは弊社ホームページよりダウンロードすることも可能です。

 p.162「5.25型ドライブマニュアルのダウンロード」

メーカー情報

Windowsのインストールを行うと、次の場所に表示されているメーカーロゴとサポート情報は消去されますので、あらかじめご了承ください。

Windows XP : [スタート]—[コントロールパネル]—[パフォーマンスとメンテナンス]—[システムのプロパティ]

Windows 2000 : [スタート]—[設定]—[コントロールパネル]—[システムのプロパティ]

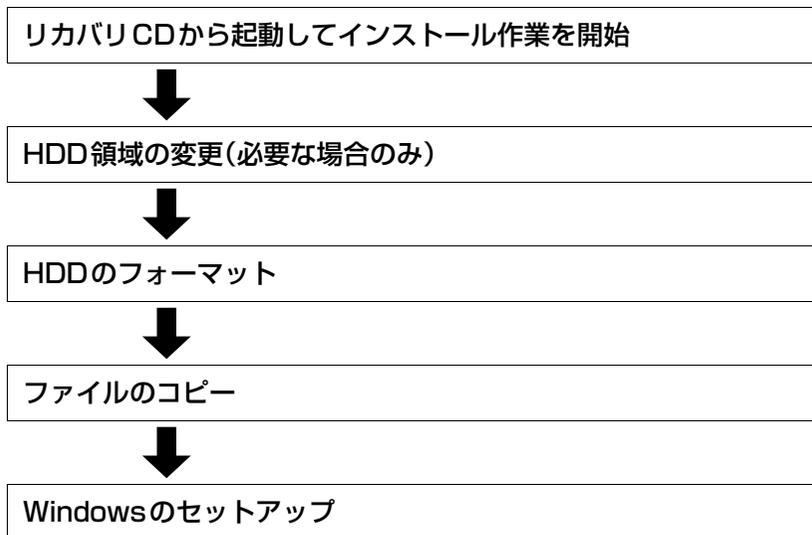
各種設定の確認

ネットワークやモデム、インターネットなどを使用している場合は、Windowsをインストールすると、再設定が必要になります。設定を書き移しておいてください。

▶ Windowsのインストール

インストールの流れ

Windowsのインストールの主な流れは次のとおりです。
インストール作業は、次ページからの手順に従ってください。



HDD領域の変更

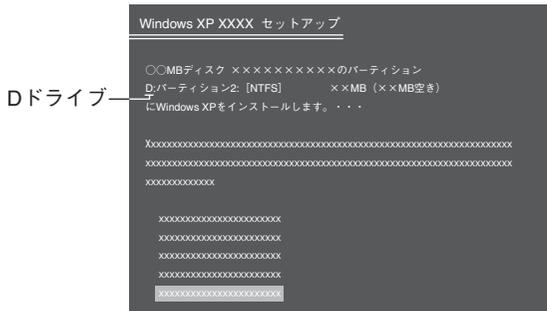
HDDを分割して使用したい場合は、「Windowsのインストール」作業中にHDD領域の変更を行います。Windowsをインストールする領域は、作業中にフォーマット、インストールを行いますが、残りの領域(未設定領域)はインストール終了後にWindowsの「ディスクの管理」で設定します。

 p.190「HDD領域の作成」

Windows XPのインストールモデルの場合

Windows XPのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「リカバリCD Disc 1」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 コンピュータを再起動します。
- 3 起動時に「Press any key to boot from CD.」と表示されたら、どれかキーを押します。
一定時間内にキーを押さないと、HDD内のWindowsが起動してしまいます。
HDD領域が複数ある場合は手順4に、HDD領域が1つの場合は、手順5に進みます。次の画面が表示されるまで少し時間がかかります。
- 4 HDD領域が複数ある場合は、次の画面が表示されます。この場合は、**Esc** を押します。



↓ を押すとDドライブにWindowsがインストールされるため、Dドライブに登録されているデータは消えてしまいます。



5

「次の一覧にはこのコンピュータ上の既存のパーティションと未使用の領域が表示されています。…」と表示されます。

HDD領域を変更しない場合は「C:」が選択された状態で、を押します。

HDD領域を変更する場合は「C:」が選択された状態で  (削除)を押して、下記の手順①～⑥を行います。

HDD 領域を変更する場合

① 「削除しようとしたパーティションは…」と表示されたら、を押します。

② 「〇〇 MB ディスク××から次のパーティションを削除します。…」と表示されたら を押します。

③ 「次の一覧にはこのコンピュータ上の…」と表示されたら、 (パーティションの作成)を押します。

④ 「〇〇 MB ディスク××に新しいパーティションを作成します。」と表示されたら、「作成するパーティションのサイズ」に任意の数値を入力して、を押します。

⑤ 「次の一覧にはコンピュータ上の…」と表示されたら、「C:パーティション1(未フォーマット)」を選択して を押します。
「未設定領域」はインストール終了後「管理ツール」で領域作成を行ってください。

 p.161「領域の作成」

⑥ 「選択されたパーティションはフォーマットされていません。」と表示されたら、「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択して を押します。

手順9に移ります。

6

「別のオペレーティングシステムのあるパーティションに…」と表示された場合は、を押します。

7

「…にWindows XPをインストールします。」と表示されたら、「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択して を押します。

「現在のファイルシステムをそのまま使用(変更なし)」を選択すると、上書きインストールになります。

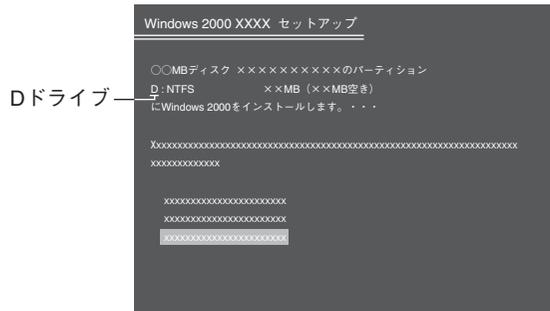
- 8 「警告:このドライブをフォーマットすると…」と表示されたら、
を押します。
- 9 フォーマットと、ファイルのコピーが行われます。終了すると、自動的に
コンピュータが再起動します。
- 10 「Windows XP ライセンス契約」が表示されたら、契約内容に同意する
か、しないかを設定します。
「同意しない」を選択するとWindows XPのインストールが中止されま
す。
- 11 「Windows XP セットアップ」画面が表示されます。画面の指示に従っ
て設定を行います。
- ソフトウェアの個人用設定
ここでは「名前」を必ず入力してください。
 - コンピュータ名(Windows XP Home Edition)または
コンピュータ名とAdministratorのパスワード
(Windows XP Professional)
コンピュータ名とAdministratorのパスワードを入力します。
 - 日付と時刻の設定
コンピュータ設置場所の日付と時刻の設定を行います。
 - ワークグループまたはドメイン名(Windows XP Professional)
購入時の構成によっては、表示されない場合があります。表示されな
い場合は次の手順に移ります。
ネットワーク管理者の指示に従って必要事項を入力します。
- 12 再起動後に「ディスプレイの設定」画面が表示されたら、[OK]をクリック
します。
- 13 「モニタの設定」画面が表示された場合は、[OK]をクリックします。
- 14 「Microsoft Windowsへようこそ」と表示されたら、画面右下の を
クリックします。

- 15 「インターネットに接続する方法を指定してください。」と表示されたら、画面右下にある  (省略) をクリックします。
購入時の構成によっては、表示されない場合があります。表示されない場合は、次の手順に移ります。
- 16 「Microsoftにユーザー登録する準備はできましたか？」と表示されたら、「いいえ、今回はユーザー登録しません。」にチェックを付けて  をクリックします。
購入時の構成によっては、表示されない場合があります。表示されない場合は、次の手順に移ります。
- 17 「このコンピュータを使うユーザーを指定してください」と表示されたら、ユーザー名を入力して  をクリックします。
- 18 「設定が完了しました」と表示されたら、 をクリックします。
- 19 Windows XPのデスクトップ画面が表示されたら、CD-ROMを取り出します。これでWindows XPのインストールは終了です。

Windows 2000のインストールモデルの場合

Windows 2000のインストールは、次の手順で行います。

- 1 「リカバリCD」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 コンピュータを再起動します。
- 3 起動時に「Press any key to boot from CD.」と表示されたら、どれかキーを押します。
一定時間内にキーを押さないと、HDD内のWindowsが起動してしまいます。
HDD領域が複数ある場合は手順4に、HDD領域が1つの場合は、手順5に進みます。次の画面が表示されるまで少し時間がかかります。
- 4 HDD領域が複数ある場合は、次の画面が表示されます。この場合は、**Esc**を押します。



Enterを押すとDドライブにWindowsがインストールされるため、Dドライブに登録されているデータは消えてしまいます。



5

「次の一覧にはこのコンピュータ上の既存のパーティションと未使用の領域が表示されています。…」と表示されます。

HDD領域を変更しない場合は「C:」が選択された状態で、を押します。

HDD領域を変更する場合は「C:」が選択された状態で、 (削除)を押して、下記の手順①～⑥を行います。

HDD領域を変更する場合

① 「削除しようとしたパーティションは…」と表示されたら、を押します。

② 「○○ MB ディスク××から次のパーティションを削除します。…」と表示されたら を押します。

③ 「次の一覧には、このコンピュータ上の…」と表示されたら、 (パーティションの作成)を押します。

④ 「○○ MB ディスク××に新しいパーティションを作成します。」と表示されたら、「作成するパーティションのサイズ」に任意の数値を入力して、を押します。

⑤ 「次の一覧には、このコンピュータ上の…」と表示されたら、「C:新規 (未フォーマット)」を選択して を押します。

「未設定領域」はインストール終了後「管理ツール」で領域作成を行ってください。

 p.161 「領域の作成」

⑥ 「選択されたパーティションはフォーマットされていません。」と表示されたら、「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択して を押します。

手順9に移ります。

6

「別のオペレーティングシステムがあるパーティションに…」と表示された場合は、を押します。

7

「…にWindows 2000をインストールします。」と表示されたら、「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択し、を押します。

「現在のファイルシステムをそのまま使用(変更なし)」を選択すると、上書きインストールになります。

- 8 「警告:このドライブをフォーマットすると…」と表示されたら、
 を押します。
- 9 フォーマットと、ファイルのコピーが行われます。終了すると、自動的に
コンピュータが再起動します。
- 10 「ライセンス契約」と表示されたら、契約内容に同意するかしないかを設
定します。
「同意しません」を選択するとWindows 2000のインストールが中止され
ます。
- 11 「Windows 2000 Professionalセットアップ」画面が表示されます。
画面の指示に従ってセットアップを行います。
- ソフトウェアの個人用設定
ここでは「名前」を必ず入力してください。
 - コンピュータ名とAdministratorのパスワード
コンピュータ名とAdministratorのパスワードを入力します。
 - 日付と時刻の設定
コンピュータ設置場所の日付と時刻の設定を行います。
- 12 「Windowsへログオン」画面が表示されます。設定したAdministrator
のパスワードを入力します。
手順11でパスワードを設定しなかった場合は、そのまま[OK]をクリッ
クします。
- 13 Windows 2000のデスクトップが表示されたら、CD-ROMを取り出し
ます。これでWindows 2000のインストールは終了です。

▶ デバイスドライバのインストール

本機のメインボード上に搭載しているデバイスのドライバを一括してインストールします。

ただし、次のデバイス類のドライバはインストールされません。「一括インストール」終了後、各デバイスに添付のマニュアルをご覧ください、別途インストールを行ってください。

- 拡張ボード(ビデオボードや、サウンドボード、ネットワークボードなど、メインボード上の各機能を使用せずに拡張ボードを使用している場合)
- オプションで購入した製品(FAXモデムボードなど)

一括インストール

インストール手順は次のとおりです。

- 1 「ドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。正しくセットされると自動的に「ドライバソフトウェアのインストール」画面が表示されます。
表示されない場合は、([スタート]-)「マイコンピュータ (Windows 2000の場合は、「マイコンピュータ」をダブルクリック)」-「EPSON_CD」をダブルクリックします。
- 2 表示された項目から「一括インストール」を選択して[開始]をクリックします。
- 3 「ご注意」画面が表示されます。内容をよくお読みになり[OK]をクリックします。
- 4 表示されたドライバを確認して[インストール開始]をクリックします。
インストールするドライバが自動的に検出されます。
- 5 「確認」画面が表示されたら[OK]をクリックします。
各ドライバが自動的にインストールされます。インストールには数分かかります。
- 6 「インストールの完了」画面が表示されます。内容をよくお読みになり[OK]をクリックします。

- 7 「Windowsの再起動」画面が表示されたら[はい]をクリックします。
- 8 Windowsが再起動します。Windows 2000インストールモデルの場合はこれでデバイスドライバのインストールは終了です。

Windows XPインストールモデルの場合は、以降の手順が必要です。
Windows 2000インストールモデルの場合は必要ありません。
- 9 [スタート]－[マイコンピュータ]－[EPSON_CD]をダブルクリックします。
- 10 表示された項目から[Microsoft.NET Framework]を選択して、[開始]をクリックします。
- 11 「セットアップ」画面が表示されたら[今すぐインストール]をクリックします。
「マイコンピュータ」画面の下に隠れている場合があります。
- 12 「セットアップはコンピュータが再起動された後に再開します。」と表示されたら、[今すぐ再起動]をクリックします。
- 13 Window XP再起動後に「セットアップ完了」画面が表示されます。[完了]をクリックします。これで、デバイスドライバのインストールは終了です。

各種ドライバのインストール

「一括インストール」ではインストールできないオプション製品や、拡張ボードのドライバのインストールを行います。

インストールにはオプション製品や、拡張ボードなどに添付されていたディスクや、バックアップFD作成ユーティリティで作成したFDが必要です。インストール方法は、製品に添付のマニュアルをご覧ください。

▶ Adobe Acrobat Readerのインストール

Adobe Acrobat Readerのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「ドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。正しくセットされると自動的に「ドライバソフトウェアのインストール」画面が表示されます。
表示されない場合は、([スタート]-)「マイコンピュータ」(Windows 2000の場合は、「マイコンピュータ」をダブルクリック)-「EPSON_CD」をダブルクリックします。
- 2 表示された項目から「Adobe Acrobat Readerのインストール」を選択して[開始]をクリックします。
- 3 「Acrobat Readerのセットアップ」画面が表示されたら、[次へ]をクリックします。
- 4 「インストール先の選択」画面が表示されたら、[次へ]をクリックします。
- 5 「情報」画面が表示されたら、[OK]をクリックします。これでAdobe Acrobat Readerのインストールは終了です。

▶ Norton AntiVirus2003のインストール

Norton AntiVirus2003をインストールします。本機に添付の『Norton AntiVirus2003をご使用前に』をご覧ください。

▶ そのほかの作業

領域の作成

Windowsのインストール中にHDD領域を変更した場合、未設定領域は、そのままでは使用できません。Windowsの「ディスクの管理」を使用して、領域の作成を行います。

 p.190「HDD領域の作成」

Windows Update

本機をインターネットに接続する場合は、本機を快適に使用するために「Windows Update」を行ってください。

 p.45「Windows Updateについて」

ユーザーズマニュアルのインストール

『ユーザーズマニュアル』(本書)のPDFファイルをインストールします。

- 1 「マニュアルディスク1」をFDDにセットします。
- 2 [スタート]—「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 3 「名前」に次のとおり入力して[OK]をクリックします。
A:¥SETUP
- 4 以降は画面の指示に従います。
セットアップが終了するとデスクトップ上に「ユーザーズマニュアル」アイコンが表示されます。

5.25型ドライブマニュアルのダウンロード



マニュアルのダウンロードを行うには、インターネットに接続できる環境が必要です。

CD-R/RWドライブやコンボドライブなどの5.25型ドライブをお使いの場合、必要に応じて、5.25型ドライブのPDFマニュアルを弊社ホームページからダウンロードしてください。

マニュアルは、5.25型ドライブの種類(型番)ごとに異なります。あらかじめ、5.25型ドライブの型番検索ツールでお使いのドライブの種類を確認してから、該当するマニュアルをダウンロードしてください。

5.25型ドライブの型番検索ツールを実行する手順は、次のとおりです。

- 1 「ドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。
「ドライバソフトウェアのインストール」画面が表示された場合は、「終了」をクリックして画面を閉じてください。
- 2 「スタート」-「ファイル名を選択して実行」をクリックします。
- 3 名前に次のとおり入力して、「OK」をクリックします。
D: ¥DRIVE ¥CHECK
- 4 以降は、画面の指示に従ってください。

SBSIのインストール(Windows XPのみ)

Windows XPの使い方の詳細がデスクトップ上でいつでも見られるように、「SBSI(ステップバイステップインタラクティブ)」をインストールします。



インストール中に「警告」が表示された場合には

Norton AntiVirus2003がインストールされている場合は、インストール中に「警告」画面が表示されることがあります。このような場合は、メッセージ内の「処理」欄から「スクリプト全体を1回実行する」を選択して、インストール作業を続行します。

インストールは、次の手順で行います。

- 1 「リカバリCD Disc2」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート]—「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 3 「名前」に次のとおり入力して、[OK]をクリックします。
D:¥SBSI¥SETUP¥SETUP
- 4 「ようこそ」画面が表示されたら、[次へ]をクリックします。
- 5 「製品ライセンス契約」画面が表示されたら、[はい]をクリックします。
- 6 「Microsoftインタラクティブトレーニング」画面が表示されたら、「名前」と「会社名」を入力して[次へ]をクリックします。
- 7 「この登録情報は正しいですか？」と表示されたら、入力した「名前」と「会社名」を確認して[はい]をクリックします。
- 8 「セットアップが完了しました。…」と表示されたら、[完了]をクリックします。
- 9 「Readme」ファイルが表示されます。内容を確認したら右上にある☒をクリックします。



10

Windowsを再起動します。

[スタート] - [終了オプション]からWindowsを再起動してください。

Windowsが再起動すると、ステップバイステップインタラクティブのインストールは終了です。

こんなときは

困ったときの確認事項や対処方法などについて説明します。

困ったときに

困ったときの確認事項と対処方法を説明します。不具合が発生した場合に参考にしてください。



ホームページのサポート情報について

弊社ホームページには、お客様からよく寄せられる質問や技術情報などを掲載しています。本章とあわせてご覧ください。アドレスは『サポートサービスのご案内』または『サポートと保守サービスのご案内』をご覧ください。

▶ コンピュータ本体の不具合



電源を切ってから、もう一度入れなおす場合には、20秒程度の間隔を空けてください。20秒以内に電源を入れなおすと、電源が異常と判断され、正常にシステムが起動しなくなる場合があります。

現象 起動時に電源ランプが点灯しない。

確認と対処

- 電源コードが正しく接続されているか確認します。
 p.28「コンピュータの設置」
- 電源コンセントに電源が供給されているか確認します。ほかの電気製品を接続して確認してください。
- 電源コード、電源コンセントに問題がない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

現象 起動時に画面に警告メッセージが表示される、または起動しない。

確認と対処

- 現象が発生する前に周辺機器の増設やアプリケーションのインストールを行った場合には、それらが原因となっている可能性があります。周辺機器の取り外しやアプリケーションの削除をして、現象の発生する前の状態に戻してください。

- 起動時の自己診断テスト終了後(Windowsの起動中)に警告メッセージが表示されている場合には、Windowsが正常に動作していない可能性があります。エラーメッセージの内容をメモして、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

- 起動時にエラーメッセージが表示される場合には、警告メッセージを確認してください。起動時の自己診断テストの結果、ハードウェアに問題が発生している可能性があります。問題点が解決できない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

 p.185「警告メッセージが表示されたら」

- スタンバイを実行しているときに電源コードが抜けたりすると、メモリへの電源供給が切れてしまい、次に本機の電源を入れたときに正常に起動しなくなります。この場合は、本機の電源を切ってからもう一度入れ直してください。

- BIOSの設定が正常でない可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」で設定値を初期値に戻してください。

 p.126「設定値をもとに戻すには」

- BIOS初期値に戻しても問題が解消されない場合は、CMOS RAMを初期化してみてください。

 p.199「CMOS RAMの初期化」

- ビープ音が鳴って起動中に止まってしまう場合は、起動時の自己診断テストにて異常が発見されています。音の種類、音の長さなどをメモして、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

現象 起動時に次のようにパスワードの入力が要求される。また、パスワードを入力しても起動しない。

Enter Password:

確認と対処 ● 「BIOS Setupユーティリティ」でパスワードが設定されています。正しいパスワードを入力してください。

 p.137「Passwordの設定」

● パスワードを正しく入力しているか確認します。 の状態により数値が入力されない場合があります。

 p.52「キーボードを使う」

● パスワードを忘れてしまった場合には、強制的に解除することができます。

 p.199「CMOS RAMの初期化」

現象 起動時に次のようなメッセージが表示されてWindowsが起動しない。

- ・DISK BOOT FAILURE, INSERT SYSTEM DISK AND PRESS ENTER
- ・Invalid system disk Replace the disk, and then press any key
- ・Operating system not found

確認と対処 ● HDDを増設したあと起動しなくなった場合には、HDDが正しく装着されているか確認してください。

 p.115「IDE装置の装着」

● システムが登録されていないFDがセットしてある場合はFDを抜いてください。

現象 ハングアップしてしまい何も反応しない。

確認と対処 ● タスクマネージャで応答のないプログラムを終了させます。
応答のないプログラムを終了させる手順は、次のとおりです。

1

 +  +  を押します。

2

「Windowsのセキュリティ」画面が表示されたら「タスクマネージャ」をクリックします。

- 3 「Windowsタスクマネージャ」画面-「アプリケーション」タブで、「応答なし」と表示されているタスクを選択して、「タスクの終了」をクリックします。
プログラムが終了します。
- 4 画面右上のをクリックして、「Windowsタスクマネージャ」を終了します。

- 応答のないプログラムを終了させることができない場合には、電源スイッチを押して電源を切ってから再起動してください。
- 電源スイッチを押しても電源が切れない場合は、5秒以上電源スイッチを押してください。これで電源が切れます。

現象 「BIOS Setupユーティリティ」の情報、日付、時間などの設定が変わってしまう。

確認と対処 ● 本体内部のリチウム電池の残量が少なくなり、データを保持できなくなっている可能性があります。リチウム電池を交換してください。

 p.196「リチウム電池の交換」

省電力機能に関する不具合

現象 正しく省電力モードに移行できない。または省電力モードから復帰できない

確認と対処

- 使用しているアプリケーションや常駐ソフト、増設している周辺機器の影響により省電力機能が正常に働かない可能性があります。アプリケーションの削除や常駐ソフトの解除、周辺機器の一時的な取り外しを行い、省電力機能が正常に働くか確認してください。
- 「BIOS Setupユーティリティ」の「Power」メニュー画面-「Suspend to RAM」を「Disabled」に設定してください。
- スタンバイを実行しているときや、休止状態のときは、キーボードやマウスの操作では省電力モードから復起しません。電源スイッチを押して本機を復帰させてください。

 p.80「復帰方法」

▶ キーボードの不具合

現象 数値キーを押しても数値が入力されない。

確認と対処 ● 数値キーは  の状態により機能が変わります。 キーを押してオフの状態にします。

 p.52「キーボードを使う」

現象 どのキーを押しても応答がない。

確認と対処 ● キーボードが正しく接続されているか確認します。キーボードの接続は、電源を入れる前に行ってください。

 p.28「コンピュータの設置」

● マウスを操作してください。マウスで操作できる場合もあります。

● アプリケーションソフトが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。アプリケーションソフトのマニュアルをご覧ください。

● プログラムがハングアップしている可能性もあります。このような場合には、タスクマネージャでプログラムを終了してください。

 p.166「コンピュータ本体の不具合」

現象 キートップにある文字や記号が入力できない。

確認と対処 ● 直接入力モードで日本語を入力することはできません。

● Windows上でキーボードが正常に設定されていない可能性があります。

Windows上で次のキーボードが選択されていることを確認します。

101/102英語キーボードまたはMicrosoft Natural PS/2キーボード

確認方法は次のとおりです。

Windows XP : [スタート]—[コントロールパネル]—[プリンタとその他のハードウェア]—[キーボード]をクリック

Windows 2000 : [スタート]—[設定]—[コントロールパネル]—[キーボード]アイコンをダブルクリック

▶ マウスの不具合

現象 マウスを動かしても、マウスポインタが動かない。

確認と対処

- マウスが正しく接続されているか確認します。マウスの接続は、電源を入れる前に行ってください。

 p.28「コンピュータの設置」

- キーボードを操作してみてください。キーボードで操作できる場合もあります。
- アプリケーションソフトが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。アプリケーションソフトのマニュアルをご覧ください。
- プログラムがハングアップしている可能性もあります。しばらく待っても反応がない場合は、タスクマネージャでプログラムを終了してください。

 p.166「コンピュータ本体の不具合」

現象 OSやアプリケーションソフトでマウスポインタが表示されない。

確認と対処

- マウスが正しく接続されているか確認します。

 p.28「コンピュータの設置」

- MS-DOSアプリケーションでマウスを使用する場合は、専用のマウスドライバをインストールする必要があります。本機にはMS-DOS用のマウスドライバは添付されていません。

現象 マウスポインタの動きが悪い。

確認と対処

- マウスのクリーニングを行ってください。

 p.188「マウスのお手入れ」

▶ ディスプレイの不具合

現象 起動時にディスプレイに何も表示されない。

確認と対処

- ディスプレイの電源ランプが点灯しているか確認します。ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。
- ディスプレイの接続コードがVGAコネクタに正しく接続されているか確認します。
 p.28「コンピュータの設置」
- ディスプレイの画面の明るさやコントラストを調節してください。ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。
- コンピュータの電源を切ってから20秒以内に電源を入れると、システム管理機能が電源を異常と判断する場合があります。一度電源を切って、20秒以上待ってから電源を入れてみてください。
- ビープ音が鳴った場合は、起動時の診断テストにて異常が発見された可能性があります。音の種類、音の長さなどを確認した上で、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

現象 使用中に何も表示されなくなった。

確認と対処

- ディスプレイが省電力モードになっている可能性があります。キーボードを操作してみてください。電源ランプが点滅している場合は、スタンバイになっています。この場合は電源ボタンを押すと元に戻ります。
 p.74「省電力機能を使う」
- ディスプレイの画面の明るさやコントラストを調節してください。ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。
- ディスプレイの接続コードがVGAコネクタに正しく接続されているか確認してください。
 p.28「コンピュータの設置」
- ディスプレイの故障の場合には、ディスプレイの販売会社などにご確認ください。

現象 画面がちらつく、文字がにじむ。

確認と対処 ● CRTディスプレイを使用している場合は、リフレッシュレートを変更してみてください。

 p.73「リフレッシュレートの設定」

現象 画面の解像度などを変更したあと、画面が乱れたり何も表示されなくなった。

確認と対処 ● ディスプレイの選択を誤っている可能性があります。ディスプレイのマニュアルを参照して確認してください。

● 使用中のディスプレイでは、表示できない解像度を選択した可能性があります。セーフモードで起動し直してみてください。

Windows XPの場合

Windows XPをセーフモードで起動する方法は、次のとおりです。セーフモードは、Windows XPを基本的な設定で起動するモードです。

- 1 コンピュータの電源を切り、20秒程放置した後、電源を入れます。
- 2 電源を入れた直後に **F8** を押し、そのまま離さずしばらく押し続けます。
- 3 「Windows拡張オプションメニュー」が表示されたら、「セーフモード」を選択し、**↵** を押します。
以降は画面の指示に従ってください。

Windows 2000の場合

Windows 2000をセーフモードで起動する方法は、次のとおりです。セーフモードは、Windows 2000を基本的な設定で起動するモードです。

- 1 コンピュータの電源を切り、20秒程放置したあとに電源を入れます。
- 2 画面下に、次のメッセージが表示されます。このメッセージが表示されている間に **F8** を押します。押さない場合は通常モードでWindowsが起動します。
Windows 2000の問題解決と拡張オプションについてはF8を押してください
- 3 「Windows 2000拡張オプションメニュー」が表示されたら、「セーフモード」を選択し、**←** を押します。
以降は画面の指示に従ってください。

FDDの不具合

現象 FDに正常にアクセスできない。

確認と対処 ● 次のようなエラーメッセージが表示される場合には、FDが正しくセットされていない可能性があります。正しくセットし直してください。

A: ¥にアクセスできません。
デバイスの準備ができていません。
[再試行] [キャンセル]

ディスクの挿入
A: ドライブにディスクを挿入してください。
[キャンセル]

● 次のようなエラーメッセージが表示される場合には、FDがフォーマットされていないか、DOS/V機以外のコンピュータで使用しているFDの可能性がります。

ドライブAのディスクはフォーマットされていません。
今すぐフォーマットしますか？
[はい] [いいえ]

● 使用しているFDが、本機で使用できるフォーマット形式でフォーマットされているか確認してください。

 p.56 「FDD(フロッピーディスクドライブ)を使う」

● 別のFDで読み書きを行ってください。正常に読み書きできる場合は、FDに異常があることが考えられます。

● 別のFDでも読み書きできない場合には、「BIOS Setupユーティリティ」のFDDに関する項目がすべて初期値となっているか確認してください。

現象 FDに書き込みできない。

確認と対処 ● ライトプロテクトされていないか確認します。
 p.68「ライトプロテクト(書き込み禁止)」

現象 FDDから異常な音がする。

確認と対処 ● 販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターにご連絡ください。

HDDの不具合

現象 それまで問題なく使用していたHDDが認識されなくなった。

確認と対処 ● HDDに問題が発生している可能性があります。IDE HDDの場合は、「BIOS Setupユーティリティ」を実行してHDDの設定を確認してください。
 p.129「Mainメニュー画面」

現象 特定のファイルのみ読み書きできなくなった。

確認と対処 ● ファイルのデータが壊れている可能性があります。HDDのメンテナンスユーティリティなどを実行してみてください。

● 上記の処置を行ってもこの現象が頻繁に発生する場合は、必要なファイルのバックアップを取ってから、HDDをフォーマットしなおしてください。HDDをフォーマットしても改善されない場合には販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターにご連絡ください。

現象 増設したHDDが使用できない。

確認と対処 ● 新しいHDDを使用する場合には、装着後にHDDの領域確保とフォーマットを行う必要があります。
 p.190「HDD領域の作成」

● 増設したHDDの設定(マスタ/スレイベ)、接続しているIDEコネクタ(プライマリ/セカンダリ)、HDDの電源ケーブルを確認します。
 p.115「IDE装置の装着」

- ケーブル類が逆差しされていないか確認します。



p.117「ドライブ装置の接続例」

- 「BIOS Setupユーティリティ」でHDDの設定を確認します。「BIOS Setupユーティリティ」-「Main」メニュー画面で、増設したHDDのTypeが「Not Installed」になっている場合は「Auto」に変更します。



p.129「Mainメニュー画面」

現象

HDDからWindowsが起動しない。

確認と対処

- 起動するHDDの順番が正しく設定されているか確認してください。



p.135「Bootメニュー画面」

▶ CD-ROMドライブの不具合

現象 セットしたCDにアクセスできない。

確認と対処

- CD-ROMなどのメディアを挿入した直後、アクセスランプの点灯中は読み込みの準備のためアクセスできません。この場合はアクセスランプの消灯を待って、もう一度アクセスしてください。
- CD-ROMなどのメディアの表面に傷などがいないか確認してください。
- 別のCD-ROMにアクセスできるか確認してください。問題がない場合は、アクセスできないCD-ROMメディアに問題がある可能性があります。
- 特殊なフォーマット形式のCD-ROMメディアの場合、アクセスできない可能性があります。本機で扱えるフォーマット形式を確認してください。
- セットしたCDが書き込み済みのCD-RメディアまたはCD-RWメディアの場合、CD-ROMドライブとの相性によりアクセスできない可能性があります。

現象 CDをセットすると画面が開いてしまう。

確認と対処

- セットしたCDに自動再生機能があると、自動的に画面が開きます。CDに登録されている内容を見たい場合は、[キャンセル]や、をクリックして、画面を閉じます。その後、[スタート]-「マイコンピュータ」(Windows 2000の場合「マイコンピュータ」をダブルクリック)のCD-ROMドライブを右クリックして、[開く]を選択します。

現象 **音楽用CDの音が聞こえない。**

確認と対処

- アンプ内蔵スピーカを、本体背面(サウンドボードを装着している場合は、サウンドボード)のライン出力コネクタに接続しているか確認します。
- ボリュームコントロールが「ミュート」または「レベル0」に設定されていないか確認します。
- CD-ROMドライブのオーディオコネクタと、メインボードの「CD-1」コネクタ(サウンドボードを装着している場合は、サウンドボード)を、CDオーディオケーブルで接続しているか確認します。
 p.201「コンピュータ内部のケーブル接続」
- Windows XPでは、ヘッドフォンジャックにヘッドフォンを接続しても音声を出力することはできません。

▶ アプリケーションソフトの不具合

現象 アプリケーションソフトの使用中に突然停止(ハングアップ)した。

- 確認と対処**
- 過度の電源ノイズ、瞬時電圧低下などが発生した可能性があります。電源ノイズによる現象には、ディスプレイのノイズ、システムの再起動、停止(ハングアップ)などが含まれます。アプリケーションソフトを再度実行してみてください。
 - ケーブルの接続不良や、キーボード内のごみやほこり、電源の出力不安定、もしくは、そのほかの部品の不良によって不具合が発生する場合があります。点検を行ってみてください。
 - HDDに対するデータの読み書きの最中に振動が加わると、システムがハングアップする場合があります。

現象 アプリケーションソフトが起動しない。

- 確認と対処**
- アプリケーションソフトの起動に必要なとされるシステムリソース(メモリ容量やHDDの使用可能な容量など)が整っているか確認してください。エラーメッセージなどが表示される場合は、アプリケーションソフトのマニュアルを参照して必要な対処を行ってから、再度起動してみてください。
 - アプリケーションソフトを正しい方法でインストールしたか、アプリケーションソフトの起動手順を正しく実行しているか確認してください。
 - 実行しようとしているフォルダが正しいか確認してください。FDやCD-ROMなどから起動しようとしている場合は、ドライブおよびフォルダの指定が正しく行われているか確認してください。
 - アプリケーションソフトの使用許諾を受けていない場合(違法コピーなど)、アプリケーションソフトが動作しないことがあります。アプリケーションソフトの正式版を使用してください。
 - アプリケーションソフトの使用方法をもう一度確認してください。どうしてもアプリケーションソフトの不具合が解決できないときは、アプリケーションソフトの販売元にお問い合わせください。

▶ メモリの不具合

現象 表示されるメモリ容量が実際の容量と違う。

確認と対処

- 起動時のメモリチェックや、Windows上ではメモリ容量が正しく表示されないことがあります。「BIOS Setupユーティリティ」を実行し、「Main」メニュー画面-「System Information」でメモリ容量を確認してください。

 p.124 「BIOS Setupユーティリティの操作」

- 本機は、メインメモリの一部をビデオメモリとして使用します。メモリ容量の表示は、ビデオメモリ容量を差し引いて表示されます。
- DIMMを増設した場合は、DIMMのタイプが合っているか、ソケットの奥までしっかりと差し込まれているか確認してください。また、DIMMのソケットの組み合わせが正しいか確認してください。

 p.93 「DIMMの増設」

- 購入時から不具合がある場合は、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

▶ インストール時の不具合

現象 インストールがマニュアルどおりにできない。

確認と対処

- 本書では、インストール手順中のCD-ROMドライブのドライブレターを「D:」と記載しています。CD-ROMドライブのドライブレターは、HDD領域の数によって変わります。CD-ROMドライブのドライブレターを確認してください。

CD-ROMドライブのドライブレターの確認は「マイコンピュータ」で行うことができます。

- 本書の手順は、HDDのフォーマット後にインストールを行うことを前提に記載しています。それ以外の場合は、手順が異なることがあります。不明な点はインフォメーションセンターまたはテクニカルセンターにお問い合わせください。
- インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認してみてください。

▶ 拡張ボード、周辺機器の増設に関する不具合

現象 拡張ボード、周辺機器を増設したらコンピュータの動作がおかしくなった。

確認と対処 ● 増設した機器が対応する拡張スロットおよびコネクタに正しく装着されているか確認してください。

- 増設した装置のジャンプスイッチやディップスイッチの設定が正しいかどうか確認してください。例えば、同じIRQ信号を2つ以上の拡張ボードで重複して設定していると、コンピュータは正しく動作しない場合があります。詳細は拡張ボード、周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

IRQ信号やDMAの設定は、次の場所で確認できます。

Windows XP : [スタート]—[コントロールパネル]—[パフォーマンスとメンテナンス]—[システム]—[ハードウェア]タブ—[デバイスマネージャ]

Windows 2000 : [スタート]—[設定]—[コントロールパネル]—[システム]—[ハードウェア]タブ—[デバイスマネージャ]

- 周辺機器を追加するために拡張ボードを装着した場合、周辺機器と拡張ボードの接続が正しいか、正しいケーブルを使用しているかを確認してください。
- 拡張ボードによっては、拡張スロットに装着するだけでなく、メインボードやコンピュータのコネクタとの接続が必要なものがあります。拡張ボードに添付のマニュアルを確認してください。
- 拡張ボードを使用するアプリケーションソフトが正しく実行されているか確認してください。アプリケーションソフトに添付のマニュアルをご覧ください。
- 上記の処置を行っても改善が見られない場合は、拡張ボード、周辺機器の販売元にお問い合わせください。

▶ プリンタの不具合

現象 印刷できない。

確認と対処

- プリンタの電源および印刷するための準備が完了しているかどうか確認してください。
- プリンタの設定が正しいかどうか、プリンタのマニュアルで確認してください。
- Windows では、プリンタドライバをインストールする必要があります。プリンタドライバのインストール方法については、プリンタに添付のマニュアルをご覧ください。

▶ スピーカの不具合

現象 システムは正常に動作しているのにブザーの音がしない。

確認と対処

- 内蔵スピーカのコネクタが接続されているか確認します。
 p.201「コンピュータ内部のケーブル接続」
- 内蔵スピーカの不良が考えられます。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

現象 音が鳴らない。

確認と対処

- 本機の内蔵スピーカはブザーの音を出すためのものです。それ以外の音を鳴らしたい場合は、アンプ内蔵スピーカを本体背面(サウンドボードを装着している場合はサウンドボード)の「ライン出力コネクタ」に接続してください。

警告メッセージが表示されたら

本機は、起動時に本体内蔵の自己診断テストを行い、内部ハードウェアの状態を診断します。起動時に次の警告メッセージが表示された場合には、各警告メッセージの処置を行ってください。それでも直らない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

警告メッセージ	説明および対処方法
No keyboard detected	キーボードが検出できません。キーボードが正しく接続されているか確認してください。
No floppy disk detected	FDDが検出できません。コンピュータの電源を切り、20秒以上待ってから再起動してください。
No IDE hard disk detected	HDDが検出できません。コンピュータの電源を切り、20秒以上待ってから再起動してください。
CPU temperature too high	CPUが高温になっています。コンピュータの電源を切り、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上待ってから電源を入れてください。それでもこのエラーが生じるときは、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。
CPU fan failed	CPUファンが正常に動作していません。コンピュータの電源を切り、20秒以上待ってから再起動してください。
CPU voltage out of range	CPUの電源電圧が異常です。コンピュータの電源を切り、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上待ってから電源を入れてください。それでもこのエラーが生じるときは、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

付 録

お手入れ方法、CMOS RAMの初期化、リチウム電池の交換、仕様などについて説明します。

お手入れ

▶ 本機のお手入れ

コンピュータ本体やキーボード、マウスなどの外装の汚れを拭き取るときは、柔らかい布に中性洗剤を滴らない程度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。



制限

ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。

▶ マウスのお手入れ

マウスを長い間使っていると、マウスボールにホコリやゴミが付着します。マウスボールの汚れをそのままにして使い続けると、誤操作や故障の原因となります。マウスボールが汚れてきたらクリーニングを行ってください。クリーニングはコンピュータ本体の電源を切ったあと、マウスをコンピュータから取り外した状態で行ってください。

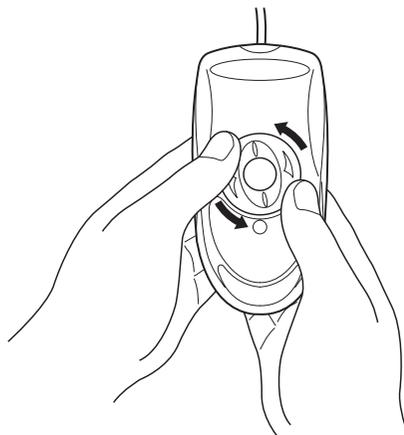


警告

- 小さなお子様の手の届くところに、マウスボールやフレームを取り外したまま放置しないでください。口に入れたりすると窒息する危険があります。
- マウスボールは、絶対に投げないでください。マウスボールの芯には鋼球が入っていますので、人に当たるとけがをする危険があります。

クリーニングの手順は、次のとおりです。

- 1** マウス底面のボールフレームを外します。
ボールフレームの滑り止め部分に親指を置いて、左回りに回します。



- 2** マウスボールを取り出します。
マウス底面を静かに下に向けると、ボールフレームとマウスボールが外れます。

- 3** マウスボールの汚れを乾いた布で拭き取ります。
- マウスボールの汚れがひどい場合は、中性洗剤をうすめた溶液で洗い、水でよくすすぎます。水洗い後は、マウスボールを乾いた布で拭き、十分乾燥させてから装着します。
 - クリーニング中は、マウス本体内部にゴミなどが入らないように注意してください。

- 4** マウスボールをマウス底面の穴に入れます。

- 5** ボールフレームをもとどおりに取り付けます。
右回りに回してマウス本体に装着します。



制限

マウスボールの着脱を必要以上に繰り返さないでください。故障の原因となります。

HDD領域の作成

HDDは、未割り当ての領域にHDD領域を作成することで、使用できるようになります。購入時のHDDはあらかじめHDD領域が作成されていますので、HDD領域の作成は必要ありません。

次のような場合にHDD領域の作成が必要です。

- 増設したHDDを初めて使用する場合
増設したHDDの全領域は未割り当ての領域です。HDD領域を作成すると、HDDが使用できるようになります。
- Windowsの再インストール中にHDD領域を変更した場合
Windowsがインストールされていない領域は未割り当ての領域です。HDD領域を作成すると、割り当てられた領域が使用できるようになります。

▶ HDD領域の概要

HDDの未割り当ての領域には、HDD領域(パーティション)を作成します。パーティションを作成すると、そのパーティションの領域は、新しいドライブとしてWindowsに認識されます。

作成できるパーティションは、次のとおりです。

- プライマリパーティション
プライマリパーティションは1つのドライブとしてWindowsに認識されます。
- 拡張パーティション
拡張パーティションには論理ドライブを作成する必要があります。論理ドライブは、複数作成でき、1つ1つがドライブとしてWindowsに認識されます。

1つのHDDには、これらのパーティションを最大4つまで作成できます。そのうち、拡張パーティションは、1つのHDDに対して1つのみ作成できます。プライマリパーティション、拡張パーティションを組み合わせると、1つのHDDに新しいドライブを5つ以上作成することもできます。

▶ HDD領域の作成手順

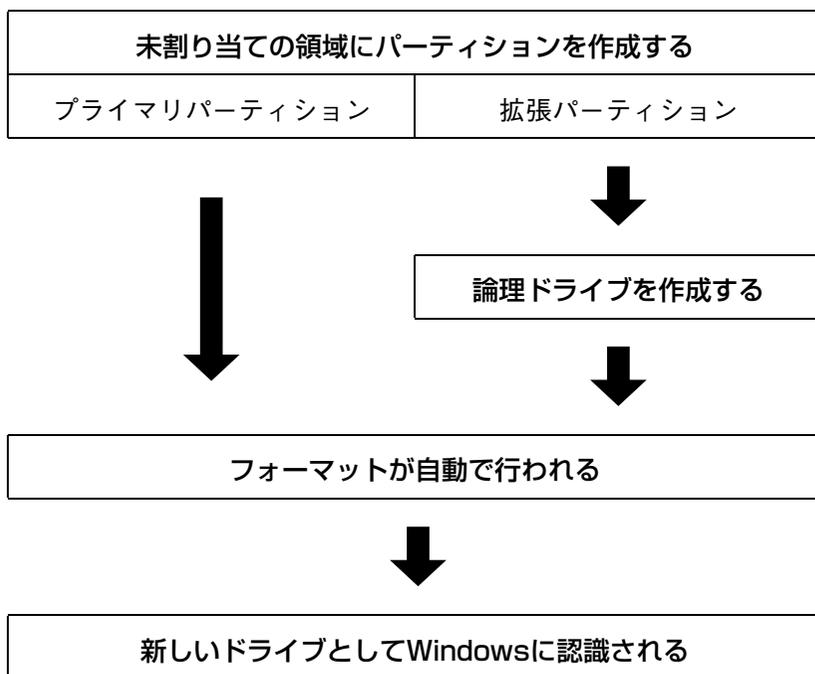
HDD領域(パーティション)の作成は、Windowsの「ディスクの管理」で行います。



「ディスクの管理」では、「Cドライブ(Windowsがインストールされている領域)」の HDD 領域は変更できません。HDD 領域を変更したい場合は、Windowsを再インストールする必要があります。

HDD領域の作成の流れ

HDD領域の作成の流れは次のとおりです。



HDD領域の作成手順

HDD領域を作成する手順は、次のとおりです。

ここでは、増設したHDDのHDD領域を作成する手順について説明します。

1 [スタート]—[コントロールパネル]—[パフォーマンスとメンテナンス]—[管理ツール]—[コンピュータの管理]をダブルクリックします。

Windows 2000の場合は、[スタート]—[設定]—[コントロールパネル]—[管理ツール]—[コンピュータの管理]をダブルクリックします。

2 [コンピュータの管理]画面が表示されたら、画面左下の「ディスクの管理」をクリックします。画面右下のウィンドウにHDD領域の状態が表示されます。

Windows 2000の場合は、画面左下の「ディスクの管理」をクリックすると「ディスクのアップグレードと署名ウィザード」画面が表示されます。[キャンセル]をクリックすると、画面右下のウィンドウにHDD領域の状態が表示されます。



Windows XP で HDD を増設しているときの画面

増設したHDDに次のようなマークが付いている場合



ディスク1を右クリックして、表示されたメニューから「初期化」をクリックします。

Windows 2000の場合は、ディスク1を右クリックして、表示されたメニューから「署名」を選択し、「署名する」画面で署名するディスクを選択して[OK]をクリックします。

HDDの種類が「ベーシック」に変更されます。

3 パーティションを設定したい「未割り当て」の領域を右クリックして、表示されたメニューから「新しいパーティション(Windows 2000では「パーティションの作成」)」をクリックします。

4 「新しいパーティションウィザード(Windows 2000では「パーティションの作成ウィザード」)」画面が表示されたら、[次へ]をクリックします。

5 「パーティションの種類を選択」と表示されたら、パーティションの種類を選択して[次へ]をクリックします。

6 「パーティションサイズの指定」と表示されたら、「パーティションサイズ(Windows 2000の場合は、「使用するディスク領域」)」に任意の値を入力して[次へ]をクリックします。

複数のパーティションを作成する場合は、画面に表示されている「最大ディスク領域」以下の値を入力します。

7 手順5で拡張パーティションを作成した場合は、「新しいパーティションウィザードの完了」と表示されます。[完了]をクリックします。続いて拡張パーティション内に論理ドライブを作成します。

 p.195「論理ドライブの作成」



- 8 「ドライブ文字またはバスの割り当て」と表示されたら、「ドライブ文字の割り当て:」に任意のドライブレターを選択して、[次へ]をクリックします。
「ドライブレター」は、ドライブの識別記号になります。
- 9 「パーティションのフォーマット」と表示されたら、「このパーティションを以下の設定でフォーマットする」が選択された状態で [次へ] をクリックします。
表示されている設定値を変更する必要はありません。
- 10 「新しいパーティションウィザードの完了(Windows 2000の場合は、「パーティションの作成ウィザード」)」と表示されたら、[完了]をクリックします。
- 11 [完了]をクリックすると自動的にフォーマットが行われます。フォーマットが終了するとHDD領域の作成は終了です。
複数のパーティションを作成する場合は、手順3～11の作業を繰り返します。

論理ドライブの作成

拡張パーティションを作成した領域は、「空き領域」として表示されます。拡張パーティションの「空き領域」に論理ドライブを作成する手順は、次のとおりです。

- 1 「空き領域」を右クリックして、表示されたメニューから「新しい論理ドライブ(Windows 2000では「論理ドライブの作成」)」をクリックします。
- 2 「新しいパーティションウィザード(Windows 2000では「パーティションの作成ウィザード」)」画面が表示されたら、[次へ]をクリックします。
- 3 「パーティションの種類を選択」と表示されたら、「論理ドライブ」が選択された状態で、[次へ]をクリックします。
- 4 「パーティションサイズの指定」と表示されたら、「パーティションサイズ(Windows 2000の場合は、「使用するディスク領域」)」に任意の値を入力して[次へ]をクリックします。
複数の論理ドライブを作成する場合は、画面に表示されている「最大ディスク領域」以下の値を入力します。
- 5 「ドライブ文字またはバスの割り当て」と表示されたら、「ドライブ文字の割り当て:」に任意のドライブレターを選択して、[次へ]をクリックします。
「ドライブレター」は、ドライブの識別記号になります。
- 6 「パーティションのフォーマット」と表示されたら、「このパーティションを以下の設定でフォーマットする」が選択された状態で [次へ]をクリックします。
表示されている設定値を変更する必要はありません。
- 7 「新しいパーティションウィザードの完了(Windows 2000の場合は、パーティションの作成ウィザード)」と表示されたら、[完了]をクリックします。
- 8 [完了]をクリックすると自動的にフォーマットが行われます。フォーマットが終了すると論理ドライブの作成は終了です。
複数の論理ドライブを作成する場合は、手順1～8の作業を繰り返します。

リチウム電池の交換

「BIOS Setupユーティリティ」で設定した情報は、本体内部のリチウム電池により保持されます。

本機のリチウム電池の寿命は数年です。リチウム電池の残量が少なくなると情報を保持できなくなり、時間や設定した値が何もしないのに変わってしまいます。このような場合、リチウム電池を交換してください。

本機で使用するリチウム電池は次のとおりです。

- CR2032(または同等品)



- 小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。飲み込むと化学物質による被害の原因となります。万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。
- 電源コンセントに電源プラグを接続したままで分解しないでください。感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。



- リチウム電池の交換は、本製品の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所(ぐらついた机の上や傾いた所など)で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。

リチウム電池の交換は次の手順で行います。作業を行う場合は、コンピュータを横置きにしてもかまいません。

1

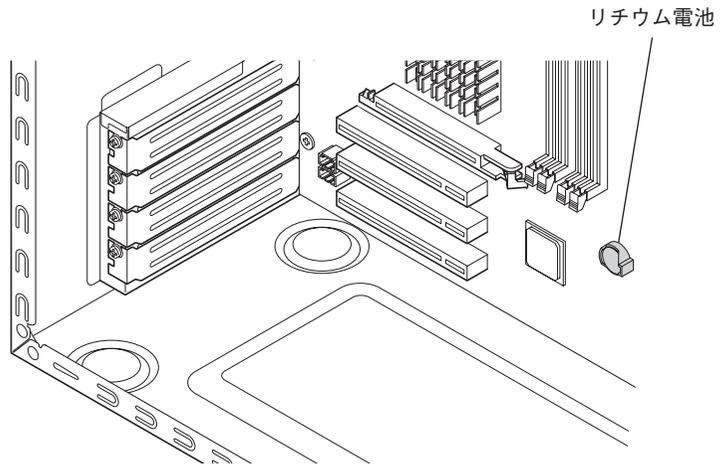
本体カバーを取り外します。必ず電源コードも外します。

 p.90「本体カバーの取り外し・取り付け」

2

リチウム電池の位置を確認します。

リチウム電池はメインボード上の次の位置にあります。



3

必要に応じて、作業の妨げになる拡張ボードを取り外します。

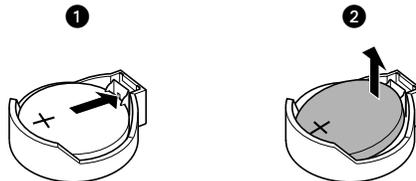
 p.101「拡張ボードの取り付け・取り外し」

4

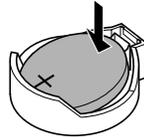
リチウム電池を抜きます。

① 電池ホルダの留め金を押します。

② リチウム電池が浮き上がったら、電池を抜きます。



- 5** 新しいリチウム電池を取り付けます。
刻印面(+側)が上側になるようにして、新しいリチウム電池を取り付けます。
取り付ける時には、「カチッ」と音が鳴ります。



- 6** 手順3で拡張ボードを取り外した場合は、もとどおりに取り付けます。

 p.101「拡張ボードの取り付け・取り外し」

- 7** 本体カバーを取り付けます。

 p.90「本体カバーの取り外し・取り付け」

- 8** コンピュータを使用できるように、本体背面のケーブル類をもとどおりに接続します。

- 9** コンピュータの電源を入れます。

- 10** ログ画面表示後、黒い画面の下部に「CMOS Settings Wrong」と表示されたら、 を押して、「BIOS Setup ユーティリティ」を実行します。

 p.123「BIOS Setup ユーティリティの操作」

- 11** 「Exit」メニュー画面-「Load Setup Defaults(初期値に戻す)」を実行します。

 p.126「Load Setup Defaults(初期値に戻す)」

- 12** 日付、時刻やそのほか変更の必要のある項目の再設定を行います。

- 13** 「Exit」メニュー画面-「Exit & Save Changes」を選択して「BIOS Setup ユーティリティ」を終了します。

CMOS RAMの初期化

CMOS RAMには「BIOS Setupユーティリティ」で設定した各種情報などが保存されています。通常はCMOS RAMを初期化する必要はありません。しかし「BIOS Setupユーティリティ」で設定したパスワードを忘れていたり、設定を誤ったりしてコンピュータが起動しなくなった場合には、CMOS RAMを初期化することで動作が可能になる場合があります。



警告

- 小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。飲み込むと化学物質による被害の原因となります。万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。
- 電源コンセントに電源プラグを接続したままで分解しないでください。感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。



注意

- CMOS RAMの初期化は、本製品の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、本製品の内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所(ぐらついた机の上や傾いた所など)で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



制限

CMOS RAMを初期化すると、現在のBIOSの設定情報がクリアされます。CMOS RAMを初期化する前に、BIOSの設定値を記録しておくことをおすすめします。

 p.140「BIOSの設定値」

CMOS RAMの初期化は、次の手順で行います。作業を行う場合は、コンピュータを横置きにしてもかまいません。

- 1 本体カバーを取り外します。必ず電源コードも外します。
 p.90「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 2 リチウム電池を抜きます。
 p.196「リチウム電池の交換」
- 3 約1分間放置します。
- 4 リチウム電池を取り付けます。
 p.196「リチウム電池の交換」
- 5 本体カバーを取り付けます。
 p.90「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 6 コンピュータを使用できるように、本体背面のケーブル類をもとどおりに接続します。
- 7 コンピュータの電源を入れます。
- 8 ログ画面表示後、黒い画面の下部に「CMOS Settings Wrong」と表示されたら、 を押して、「BIOS Setup ユーティリティ」を実行します。
 p.123「BIOS Setup ユーティリティの操作」
- 9 「Exit」メニュー画面－「Load Setup Defaults(初期値に戻す)」を実行します。
 p.126「Load Setup Defaults(初期値に戻す)」
- 10 日付、時刻やそのほか変更の必要のある項目の再設定を行います。
- 11 「Exit」メニュー画面－「Exit & Save Changes」を選択して「BIOS Setup ユーティリティ」を終了します。

コンピュータ内部のケーブル接続

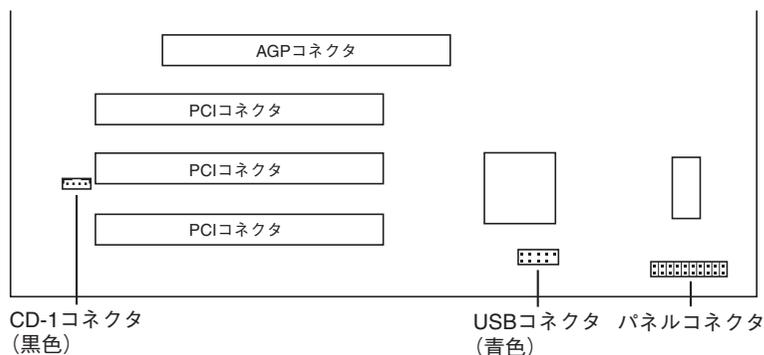
コンピュータ内部には何本かのケーブルがあり、メインボードなどと接続されています。通常はこれらのケーブルを外したり接続したりする必要はありません。誤ってこれらのケーブルを外してしまった場合には本項の内容に従って正しく接続してください。



各種ケーブルは、本書で指示されている以外の配線をしないでください。配線を誤ると、ケーブルが焼損する場合があります。

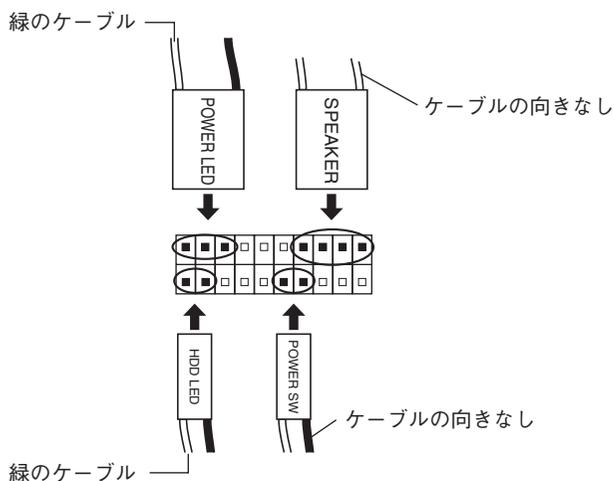
コネクタ位置(メインボード上)

各種コネクタのメインボード上の位置は次のとおりです。



パネルコネクタ

パネルコネクタには、次のようにケーブルを接続します。



CD-1コネクタ

5.25型ドライブ装置(CD-ROMドライブなど)に接続されたCDオーディオケーブルを接続します。

 p.117「ドライブ装置の接続例」

サウンドボードを使用している場合は、CDオーディオケーブルをサウンドボード側に接続します。詳しくは、サウンドボードに添付のマニュアルをご覧ください。

USB2.0コネクタ

前面USB2.0コネクタの内部ケーブルをコネクタの向きに合わせて接続します。

機能仕様一覧

CPU		インテルPentium 4プロセッサ	インテルCeleronプロセッサ
メモリ	ROM	BIOS 他512KB EEPROM	
	メインメモリ	DDR400 SDRAM PC3200 DIMM	DDR333 SDRAM PC2700 DIMM
	容量	最大2GBまで増設可能	
	ビデオメモリ	メインメモリの一部を使用(最大64MB)	
ビデオコントローラ		インテル865GE	
サウンドコントローラ		AC '97 CODEC(切り離し可能)	
キーボード		日本語対応109キーボード	
マウス		ホイール付きPS/2マウス	
記憶装置	内蔵FDD	3.5型FDDを1基内蔵	
	内蔵HDD	IDE HDD 1基内蔵 Ultra ATA/100対応	
	CD-ROMドライブ	CD-ROMドライブを1基内蔵 最大48倍速	
インタフェース	パラレル	1(セントロニクス社準拠 D-SUB 25ピン マルチモード双方向 ECP/EPPサポート)	
	シリアル	1(RS-232C準拠 D-SUB 9ピン)	
	VGA	1(アナログRGB ミニD-SUB15ピン)	
	キーボード	1(IBM PS/2互換 ミニDIN 6ピン)	
	マウス	1(IBM PS/2互換 ミニDIN 6ピン)	
	サウンド	ライン出力コネクタ×1、ライン入力コネクタ×1、マイク入力コネクタ×1	
	ネットワーク	1(RJ-45 10Base-T/100Base-TX自動認識)	
	USB	6(USB2.0 前面×2、背面×4)	
ドライブベイ	3.5型ドライブベイ	1(FDDで1ベイ使用済み)	
	5.25型ドライブベイ	2(CD-ROMドライブで1ベイ使用済み)	
	HDDベイ	3(HDDで1ベイ使用済み)	
外部拡張スロット		AGP対応スロット*×1(ボード長312mmまで装着可能) PCI対応スロット×3(ボード長312mmまで装着可能)	
カレンダー時計		内蔵(内蔵電池によりバックアップ)	
電源容量		250WDC	
入力電圧		AC 100 V ± 10 % (50/60 Hz)	
温湿度条件		温度:10~35℃ 湿度:20~80%(ただし、結露しないこと)	
外形寸法		本体:約179(幅)×399(奥行)×368(高さ)mm(突起部除く)	
重量		本体:約11Kg(本体のみ)	
消費電力	定格消費電力	385 WAC	
	待機時消費電力	4 WAC	

* 本機では、AGP2.0(1.5V仕様)およびAGP3.0(0.8V仕様)対応ボードのみ装着可能です。

用語集

本書で使用している用語やコンピュータに関する基本的な用語を簡単に解説します。詳細については、市販の書籍などを利用してください。

- **ACPI**
Advanced Configuration and Power Interfaceの略です。コンピュータの電力の状態を、Windowsのアプリケーションからコントロールするための電源管理機能の規格です。
- **AGP**
Accelerated Graphics Portの略で、CPUとビデオチップを接続するための拡張ポートのことです。PCIバスのデータ転送方法を最大限に残し、ビデオ関係の性能を強化しています。
- **BIOS(バイオス)**
Basic Input Output Systemの略。コンピュータの基本的な入出力を行うプログラムを集めたものです。コンピュータ内部にROMで提供されています。またBIOS Setupユーティリティで設定する内容を含める場合もあります。
類義語 CMOS RAM
- **BIOS Setupユーティリティ**
コンピュータの動作状態やBIOSの動作を設定したり変更するためのプログラムです。BIOSとセットでROMで提供されています。BIOS Setupユーティリティで設定した値はCMOS RAMに保存されます。
- **Boot(ブート)**
コンピュータの電源を入れてコンピュータを使用できる状態にすることです。「起動する」とも言います。
- **CPU**
Central Processing Unitの略で、コンピュータの処理の中心を担う頭脳のようなものです。
- **DDR SDRAM**
「DDR」とは、「Double Data Rate」の略で、従来のSDRAMよりもデータ転送が2倍速くなります。
- **DIMM**
Dual Inline Memory Moduleの略です。メインボードの所定のソケットに差し込むことで、コンピュータのメモリを拡張できます。
- **DMA転送**
Direct Memory Accessの略です。CPUを介さずに、周辺機器とメモリ間で直接データ転送を行います。
- **DMAチャンネル**
DMAでデータを転送する場合の通り道のことです。複数のDMA転送を行う装置が接続されている場合には、別々のチャンネルを使用するように設定する必要があります。

● DRAM(ディーラム)

メモリの種類のことで、Dynamic Random Access Memoryの略です。コンピュータの電源を切ると、DRAMのデータは消失します。

● FAT32ファイルシステム

Windowsがデータの読み書きに利用しているファイルの配置情報(File Allocation Table)を32ビットに拡張したファイルシステムのことです。2GB以上のディスク容量を1つのドライブとして使用することができます。

● HDD領域

HDDの容量を用途に合わせて確保したスペースのことで、パーティションとも呼びます。HDD1台にHDD領域は複数作成することができ、それぞれドライブとして利用できます。

● I/Oポート(Input/Outputポート)

CPUとデバイスの間でデータをやりとりするポートです。

● IDE

Integrated Device Electronicsの略です。コンピュータ本体とHDDのデータの入出力方法(インタフェース)を定めた規格の一種です。HDDだけではなく、CD-ROMドライブなどもIDEで接続するのが一般的です。

● IRQ

Interrupt Requestの略で、周辺機器からCPUに対して処理を依頼するための信号のことです。DOS/V機では16本あり、コンピュータ内部や、拡張ボードなどで使用されます。

● IRQ番号

コンピュータには、ハードウェア割り込みを発生させる周辺機器が複数あるので、各機器からの割り込みを区別するために、識別番号が付いています。IRQ番号は、この識別番号のことです。IRQ0～IRQ15の16種類が用意されています。

● LAN

Local Area Networkの略で会社内や学校内など比較的限られたエリア内のコンピュータ同士を接続した状態のことです。

● NTFS

NTFSは、FATファイルシステムに比べて信頼性が高く、セキュリティに優れています。障害が発生したファイルの構造を復旧したり、ユーザーやグループごとにアクセス権を設定することができます。

● OS

Operating Systemの略で、コンピュータ全体を管理するソフトウェアのことです。WindowsやMS-DOSなどのことです。

● PCIバス

拡張バス的一种で、一般的に採用されている拡張バスのこと。ISA拡張バスに比べて高速、プラグアンドプレイに対応などメリットが多いです。

高速性を要求される拡張ボードに使用されます。

● RAM(Random Access Memory)

RAMには、DRAMとSRAMの2種類のデータ保存方式があります。どちらも自由に読み書きができるメモリですが、一度電源を切るとデータは消えてしまいます。主に、DRAMはメインメモリに、SRAMはキャッシュメモリに使われています。

● ROM(Read Only Memory)

読み出し専用のメモリで、電源を切ってもデータを保持しつづけます。BIOSなど重要なデータは、あらかじめROMに格納されています。

● RS232C

シリアルインタフェースとして採用されている規格のこと。外付けモデムやTA(ターミナルアダプタ)などの周辺機器とコンピュータとの間で、データをやり取りするときに用いられています。

● SCSI

Small Computer System Interfaceの略です。コンピュータと周辺機器間のデータの出入力方法(インタフェース)を定めた規格の一種です。よく使用されるものとして大容量HDD、MOドライブ、スキャナなどがあります。

● SDRAM

DRAMの一種でアクセスが速いのが特長です。最近ではDRAMの代わりにSDRAMがメインメモリに主に使用されています。

● USB

Universal Serial Busの略。周辺機器をシリアル通信で接続するための規格。USB対応機器を接続します。USB2.0はUSB1.1と完全互換ですが、USB2.0の動作速度で動作するには、コンピュータ、周辺機器の両方がUSB2.0に対応している必要があります。

● Ultra ATA/100

IDEインタフェース上において最大100MB/sでデータを転送できるデータ入出力方法のことです。

● VGA

640×480ドット16色を表示するビデオ表示機能で、DOS/V機の基本的な表示機能です。

● アクセス

データの読み書きなど、入出力動作一般のことです。

● アクセスランプ

HDDやFDDにアクセスしていることを示すランプのことです。

● アドレス

メモリやI/Oポートに付けられた番地(場所)のことです。一般的に16進数で示されます。

● アプリケーションソフト

プログラムのなかで、ワードプロセッサや表計算などのように、ユーザーが作業目的に応じて使うソフトウェアのことです。

● インストール

ソフトウェアをコンピュータで実行できるようにHDDなどへコピーすることを言います。ソフトウェアごとに専用のインストールプログラムが付いているのが普通です。ソフトウェアを「組み込む」とも言います。

● インタフェース

コンピュータと周辺機器の間でデータの入出力するための回路や手順などを定めた規格のことです。

● 解像度

画面表示の細かさのことです。

● 外部キャッシュメモリ

CPUとメインメモリ間のデータ転送を高速化し、コンピュータの処理速度を向上させるメモリです。

類義語 キャッシュRAM、L2 キャッシュ、2次キャッシュ

● 拡張スロット

拡張ボードを装着するためのスロットです。拡張ボードには、AGPバス用拡張ボード、PCIバス用拡張ボードがあります。

● カーソル

文字やデータなどが入力される場所を示す画面上の印です。

● 起動する

コンピュータの電源を入れて、コンピュータを使用できる状態にすること。ソフトウェアを実行して使用できるようにすることも起動といいます。

類義語 立ち上げる。

● キャッシュ処理、キャッシュ機能

一度読み込んだデータを保持し、コンピュータの処理速度を上げるための機能です。

● コマンド

コンピュータに与える命令です。命令は、文字を入力したり、マウスによってアイコンをダブルクリックしたりして行います。

● サーバ

ネットワークで結ばれたコンピュータに、さまざまなサービスを提供するコンピュータのことです。一般に、サーバと結ばれたコンピュータのことを「クライアント」と呼びます。

● システム

コンピュータ(ハードウェア)、OS、アプリケーションソフト(ソフトウェア)など全体のことを示します。

● ジャンパスイッチ

コンピュータの機能を制御する基板上の小さなスイッチのことです。ジャンパスイッチの設定はジャンパクリップと呼ばれる部品を差し替えて変更します。

● ディスプレイ

表示装置のことです。

類義語 CRTディスプレイ、モニタ

● ドット

表示画面のひとつひとつの点の単位です。

● ドライブレター

FDD、HDDやCD-ROMドライブに割り当てるアルファベットの1文字のことです。基本的にHDDが1基搭載されている場合は、「A:」がFDD、「C:」がHDD、「D:」がCD-ROMドライブに割り当てられます。

● 内部キャッシュ

CPUから周辺チップへのアクセスを減らし、高速処理をするために、CPU内部に設けられたキャッシュメモリのことです。演算用のデータなどを格納しておき、CPU内部で、高速処理を行えるようにします。

● バス

コンピュータ内部でデータの入出力を行う電気的な通り道およびデータの集合のことです。拡張スロットのコネクタ部を指すこともあります。

● パラメータ

コマンドや項目に対して付加する数値や、文字列などです。

● ハングアップ

コンピュータが暴走し、コマンドを受け付けない状態になることです。

● ヒートシンク

放熱板など動作中に発熱する素子を冷やす装置のことです。CPUの発熱量は大きいいため熱暴走しないようにヒートシンクがCPU上部に付いています。ヒートシンクには、板状のもの(自然空冷)や放熱ファンを回すもの(強制空冷)があります。

● ファイル

コンピュータで扱うすべてのプログラムやデータの総称です。

● 物理ドライブ

HDD1台や、CD-ROMドライブ1台など、物理的なドライブ装置のことです。

● プラグアンドプレイ

取り付ける(Plug)だけで動作する(Play)ことで、PnP、Plug and Playなどとも記載されます。

拡張カードや周辺装置などをコンピュータに取り付けるだけで、自動的に検出して使用できる状態にする機能です。

この機能により、従来拡張カード上で設定していたI/Oポート、IRQ、DMAの設定などが不要になります。

● プログラム

コンピュータで処理を行うための命令の集まりのことです。

類義語 ソフトウェア、アプリケーションソフト

● プロトコル

ネットワークで接続されたコンピュータ同士が、通信を行うための「手段」や「規格」のことです。一般的に使用されるネットワークプロトコルは、TCP/IP、NetBEUI、AppleTalkなどです。

● ポート

コネクタまたは、そのコネクタに対するインタフェース回路全般のことです。

● ボリュームラベル

HDDやFDにつけた名称のことです。

● メッセージ

コンピュータが入力されたコマンドに対して出力する回答のことです。「処理が正しく実行された」「このエラーが発生した」など種類はさまざまです。

● メインメモリ

メモリのなかで、最初にプログラムやデータなどが読み込まれるメモリのことで、主記憶とも呼びます。コンピュータのメモリ容量といえば、メインメモリの容量のことを示します。

● メモリ

実行するプログラムや、データを一時的に保存する素子のことです。コンピュータはHDDなどからプログラムやデータをメモリに読み込みながら実行します。一般的にメモリ容量が多ければより高速にコンピュータを利用することができます。

● メモリチェック

コンピュータ起動時に装着されているメモリに異常がないか検査する動作のことです。

● モデム

電話回線を通じてデータを送受信するための周辺機器です。ほとんどの製品はFAX機能が付加されています。

● リソース

拡張ボードや周辺機器で使用する IRQ、DMA、I/Oポートアドレスなどをまとめて表現する用語です。

類義語 システム資源

● リフレッシュレート

ディスプレイの表示において、1秒間に何回画面を更新するかの値です。リフレッシュレート60Hzといえば、1秒間に60回画面を更新することを意味します。リフレッシュレートが低いと画面のちらつきを感じますが、リフレッシュレートをあげることで、画面のちらつきを感じなくさせることができます。

● 論理ドライブ

Windowsによって管理される論理的な区分けです。HDDには、1台の物理ドライブ上に複数の論理ドライブを作成することができます。

索引

数字

2DD(FD)	56
2HD(FD)	56
3.5型FDD	26
5.25型ドライブ	
～のドライブベイへの装着	104
～マニュアルのダウンロード	162

A

Adobe Acrobat Reader	25
～のインストール	160
AGP	100

B

BIOS Setupユーティリティ	123
-------------------------	-----

C

Caps Lock	54
CD-ROM	
～の強制取り出し	65
～のセットと取り出し	63
CD-ROM イジェクトホール	26
CD-ROM イジェクトボタン	26
CD-ROM ドライブ	26, 63
～の不具合	179
CMOS RAM	122
～の初期化	199
COA ラベル	21
CPU	23

D

DIMMの増設	93
---------------	----

F

FDDアクセスランプ	26
------------------	----

FDD イジェクトボタン	26
FDD ケーブル	119
FDD(フロッピーディスクドライブ)	56
～の不具合	176
FD(フロッピーディスク)	56

H

HDDアクセスランプ	26
HDDベイ	88
HDD領域の作成	190
論理ドライブの作成	195
HDD(ハードディスクドライブ)	60
～の不具合	177
～領域の変更	150

L

LANコネクタ	27
---------------	----

M

MOドライブ	66
MS-IME	53

N

Norton AntiVirus2003	85
NTFS	62
Num Lock	54

P

Passwordの設定	136, 137
-------------------	----------

S

Scroll Lock	54
-------------------	----

U

Ultra ATA ケーブル	116
----------------------	-----

USB2.0コネクタ 26, 27

V

VGAコネクタ 27

W

Windows 2000 13

～のインストール 155

Windows Updateについて 45

Windows XP 13

～のインストール 151

Windowsキー 54

Windowsのセットアップ 38

Windows 2000 40

Windows XP 38

あ

アイコン 14, 15

アプリケーションキー 54

い

インストール

Windows 2000のインストール 155

Windows XPのインストール 151

う

ウイルス 85

お

お手入れ 188

か

解像度の変更 71

拡張スロットの仕様 99

拡張ボードの装着 99

き

キーボード 52

～の接続 32

～の不具合 171

キーボードコネクタ 27

機能キー 52

機能仕様一覧 203

休止状態 75

強制取り出し

CD-ROM 65

MO 69

く

クリック 55

け

警告メッセージ 185

ケーブルセレクト 116

こ

コンピュータウイルス 85

さ

再インストール

Windows 2000のインストール 155

Windows XPのインストール 151

再起動 49

し

システムの拡張 87

省電力機能 74

～に関する不具合 170

シリアルコネクタ 27

す

数値キー	52
スクロール	55
スタンバイ	75
スレイブ	116

せ

セーフモード	174
セカンダリ	116
セットアップ	38

た

タスクバー	14, 15
タブ	14, 15
ダブルクリック	55

て

ディスプレイ	
～の接続	30
～の不具合	173
デスクトップ	14, 15
デバイスドライバのインストール	158
電源コードの接続	34
電源コネクタ	27
電源スイッチ	26
電源の入れ方	37
電源の切り方	47
添付ソフトウェア	24

と

ドライブベイへの装着	
5.25型ドライブベイ	104
HDDベイ	111
ドラッグアンドドロップ	55

な

内蔵スピーカの不具合	184
------------------	-----

に

日本語入力システム	53
入力キー	52

ね

ネットワーク	
～機能	82
～への接続	33

は

ハードディスクドライブ(HDD)	60
ハイパー・スレディング機能	85
パスワードの設定	136
バックアップディスクの作成	42
パラレルコネクタ	27

ひ

表示色の変更	71
--------------	----

ふ

プライマリ	116
プリンタの不具合	184
フロッピーディスクドライブ(FDD)	56
～の不具合	176
フロッピーディスク(FD)	56

へ

ヘッドフォンジャック	26
------------------	----

ほ

ボタン	14, 15
ボリュウム	26

本体カバー	90
本体内部ケーブル	201

ま

マウス	
～コネクタ	27
～のお手入れ	188
～の接続	33
～の操作	55
～の不具合	172
マスタ	116
マニュアルディスク	43

ら

ライトプロテクト(書き込み禁止)	
FD	59
MO	68

り

リチウム電池の交換	196
-----------------	-----

れ

冷却ファン	27
-------------	----

使用限定について

本製品は、OA機器として使用されることを目的に開発・製造されたものです。

本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全性維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮頂いた上で本製品をご使用ください。

本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、生命維持に関わる医療機器、24時間稼働システムなどの極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用を意図しておりませんので、これらの用途にはご使用にならないでください。

本製品を日本国外へ持ち出す場合のご注意

本製品は日本国内でご使用いただくことを前提に製造・販売しております。したがって、本製品の修理・保守サービスおよび不具合などの対応は、日本国外ではお受けできませんのでご了承ください。また、日本国外ではその国の法律または規制により、本製品を使用できないこともあります。このような国では、本製品を運用した結果罰せられることがあります。当社といたしましては一切責任を負いかねますのでご了承ください。

電波障害について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

国際エネルギースタープログラムについて

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

高調波ガイドライン適合品

本製品は、家電、汎用品高調波抑制対策ガイドラインに適合しております。

PCリサイクルマークについて



PCリサイクルマーク付きの弊社製品は、弊社が無償で回収、再資源化いたします。

詳細は下記ホームページをご参照ください。

<http://www.epson.co.jp/ecology/index.html>

ご注意

- (1) 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
- (2) 本書の内容および製品の仕様について、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容は万全を期して作成いたしました。が、万一誤り・お気づきの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
- (4) 運用した結果の影響につきましては、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

商標について

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows は 米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

インテル、Pentium、Celeronはアメリカ合衆国およびその他の国におけるインテルコーポレーションまたはその子会社の商標または登録商標です。

Symantec、Symantecロゴ、Norton AntiVirus、LiveUpdateはSymantec Corporationの登録商標です。

Adobe Acrobat ReaderはAdobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)の登録商標です。

PS/2は International Business Machines の登録商標です。

そのほかの社名、製品名は一般にそれぞれの会社の商標または登録商標です。

エプソン販売 株式会社



大豆油インキを使用しています。



このユーザーズマニュアルは古紙配合率100%再生紙を使用しています。

